

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
論理国語	1	全日制・普通科・2学年(文系)	論理国語(数研出版)

科目の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 <単元の評価規準>	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	評論に親しむ	B読むこと	4	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。(1)ア ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(B(1)ア) ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を把握しながら、筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「環境が求める自分の姿に、定期的にノイズを忍び込ませる」とはどのようなことか読み取る。 ・「弱いリアルがあって、初めてネットの強さを活かせる」とは、どのようなことか考える。	「ノイズに満ちた」「弱い絆」はどのようにしたらできるか、自分の考えをまとめる。	「弱いつながり」(東浩紀) チェックポイント1主張の明確化
5月	逆説	A書くこと	4	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。(1)イ ② 思考・判断・表現 自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。(A(1)イ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 自分の意見と根拠を明確にしながらいを文を書こうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「『驚き』が知的探究を動機づける」とはどのようなことかを説明する。 ・筆者が本文を通して高校生に伝えようとしていることを考える。	・筆者の主張に対する自分の意見を、400字以内でまとめる。	「胆力について」(内田樹) 総合的な探究の時間との関連
6月	具体と抽象	B読むこと	4	① 知識・技能 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)エ ② 思考・判断・表現 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。(B(1)エ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を把握しながら、筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「『中間社会』の崩壊」した社会とは、どのような社会かをまとめる。 ・グローバリズム・ナショナリズム・宗教的原理主義に共通する問題点を考える。 ・「深い実存的なコミュニケーション」とはどのようなものかを考える。	・個人と社会のつながりについて、話し合う。	「『内的成長』社会へ」(上田紀行) ズームアップ「資本主義社会と本当の『豊かさ』」 公共との関連
9月	言葉と想像	B読むこと	4	① 知識・技能 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。(1)ウ ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(B(1)ア) ③ 主体的に学習に取り組む態度 資料を参考にしながら自分の考えを深めようとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「もう一つの言葉」とはどのような言葉かをまとめる。 ・筆者は言葉が「国境を越える」とはどのようなことだと考えているかを考える。	・外国人の言葉や外国作品の中から心に残る表現を選び、紹介する。	「国境を越える言葉」(長田弘) 探究の扉「ニュースとコミュニケーション」 文学国語世界史探究との関連
10月	近代と現代の視点	A書くこと	4	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとする。(1)イ ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(A(1)エ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を踏まえて、具体的に根拠が述べられている意見文を書こうとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・本文中の例を用いて「共有地の悲劇」「経済学者の論理」について具体的に説明する。 ・筆者が「立派に『悪魔』としての役割を果たした」と記述する理由を考える。	・「未来世代への責任」という題で自分の意見を書く。	「未来世代への責任」(岩井克人) ズームアップ「地球環境問題」
11月	近代と現代の視点	B読むこと	4	① 知識・技能 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めようとする。(2)イ ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(B(1)ア) ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章読解を通して、多面的に評価しようとする。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「広い意味での『科学・技術』」「狭い意味での『科学・技術』」の性質をそれぞれ整理する。 ・科学が「否応なく、共同体の外部の一般社会との間に、強い絆を持たざるを得なくなった」理由を説明する。	・「科学は最も重要な国家に奉仕する『道具』としての意味合いを持たされている」ことについて、筆者はどのように考えているか。また、自分たちはどのように考えるか、話し合う。	「科学・技術の歴史の中の社会」(村上陽一郎) チェックポイント4文体と構成

1月	情報と社会	A書くこと	5	<p>① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。(1)エ)</p> <p>② 思考・判断・表現 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。(A(1)ウ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 資料を参考にしながら自分の考えを深めようとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「スポーツと社会」の関係について筆者の主張をまとめる。 ・強調表現について調べる。	・「消費されるスポーツ」について、資料を踏まえて自分の意見をまとめる。	「消費されるスポーツ」(多木浩二)  体育との関連
	3月	言葉と思考	B読むこと	5	<p>① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。(1)エ)</p> <p>② 思考・判断・表現 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。(B(1))</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 対比や具体例をまとめながら、筆者の主張を捉えようとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・環境問題の解決を目指す際「かけがえのなさ」という客観的で普遍的な価値を重視することのメリットとデメリットについてまとめる。	・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例を一つあげ、その特徴を説明する。
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと							
	書くこと		14					
	読むこと		21					
指導時間数の合計			70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
論理国語	2	全日制・普通科・2学年(理系)	論理国語(数研出版)

科目の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

時期 月週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 <単元の評価規準>	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	評論に親しむ	B読むこと	4	① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。(1)ア ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(B(1)ア) ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を把握しながら、筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「環境が求める自分の姿に、定期的にノイズを忍び込ませる」とはどのようなことか読み取る。 ・「弱いリアルがあって、初めてネットの強さを活かせる」とは、どのようなことか考える。	「ノイズに満ちた」「弱い絆」はどのようにしたらできるか、自分の考えをまとめる。	「弱いつながらり」(東浩紀) チェックポイント1主張の明確化
	逆説	B読むこと	4	① 知識・技能 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。(1)ウ) ② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(B(1)ア) ③ 主体的に学習に取り組む態度 多面的な捉え方について理解しながら筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・筆者の着眼点のおもしろさをまとめる。 ・「なぜ、失われたものが両腕でなければならないのか？」に対する筆者の答えはどのようなものか、考える。	・「筆者のとらえ方」について、賛成か反対かを、理由とともに意見発表する。	「手の変幻」(清岡卓行) 地理探究 世界史探究 美術との関連
5月	逆説	A書くこと	4	① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。(1)イ) ② 思考・判断・表現 自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。(A(1)イ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 自分の意見と根拠を明確にしながらい、意見文を書こうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「『驚き』が知的探究を動機づける」とはどのようなことか説明する。 ・筆者が本文を通して高校生に伝えようとしていることを考える。	・筆者の主張に対する自分の意見を、400字以内でまとめる。	「胆力について」(内田樹) 総合的な探究の時間との関連
6月	具体と抽象	B読むこと	5	① 知識・技能 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)エ) ② 思考・判断・表現 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価している。(B(1)エ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章の論理展開を把握しながら、筆者の主張を捉えていこうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「『中間社会』の崩壊」した社会とは、どのような社会かをまとめる。 ・グローバリズム・ナショナリズム・宗教的原理主義に共通する問題点を考える。 ・「深い実存的なコミュニケーション」とはどのようなものかを考える。	・個人と社会のつながりについて、話し合う。	「『内的成長』社会へ」(上田紀行) ズームアップ「資本主義社会と本当の『豊かさ』」 公共との関連
7月	具体と抽象	B読むこと	5	① 知識・技能 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)エ) ② 思考・判断・表現 関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。(B(1)オ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 文章における具体と抽象の役割を理解しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・事物を抽象的にとらえることの利点をまとめる。 ・筆者は言葉について、どのような性質を持つと述べているか。言葉の長所と短所をまとめたが考える。	・日常生活における「抽象的思考」の例を考えて発表する。	「『具体』から『抽象』へ」(森博嗣) チェックポイント2定義と抽象化 数学との関連
	言葉と想像	A書くこと	4	① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。(1)エ) ② 思考・判断・表現 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さ確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。(A(1)オ) ③ 主体的に学習に取り組む態度 自分の主張が的確に伝わるように、推敲して文章を作成しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「近代芸術と言われるものには添削の思想が欠如している」とは、具体的にどのようなことか考える。 ・「表現の普遍化」「古典化」とは具体的にどのようなことかまとめる。	・本文の内容を踏まえて、添削を受けるときの態度、または他人の作品を添削するときの態度について、自分の考えを400字程度で書く。	「添削の思想」(外山滋比古)

9月	言葉と想像	B読むこと	5	<p>① 知識・技能 文や文章の効果的な組み立て方や接続の仕方について理解している。(1)ウ)</p> <p>② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(B(1)ア)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 資料を参考にしながら自分の考えを深めようとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「もう一つの言葉」とはどのような言葉かをまとめる。 ・筆者は言葉が「国境を越える」とはどういうことだと考えているかを考える。	・外国人の言葉や外国作品の中から心に残る表現を選び、紹介する。	「国境を越える言葉」(長田弘)  探究の扉 「ニュースとコミュニケーション」  文学国語 世界史探究との関連
	近代と現代の視点	A書くこと	4	<p>① 知識・技能 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとする。(1)イ)</p> <p>② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(A(1)エ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を踏まえて、具体的に根拠が述べられている意見文を書こうとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・本文中の例を用いて「共有地の悲劇」「経済学者の論理」について具体的に説明する。 ・筆者が「立派に『悪魔』としての役割を果たした」と記述する理由を考える。	・「未来世代への責任」という題で自分の意見を書く。	「未来世代への責任」(岩井克人)  ズームアップ 「地球環境問題」
10月	近代と現代の視点	B読むこと	5	<p>① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報の関係について理解を深めている。(2)ウ)</p> <p>② 思考・判断・表現 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。(B(1)ウ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 意味段落に分けながら筆者の主張を捉え、批判的に読もうとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・五つの意味段落に分け、それぞれに小見出しをつける。 ・「私たちはそのような『近代』の、いわば出口の時代を生きている」とはどういうことか、説明する。 ・「知識循環型社会」とは具体的にどのようなものかをまとめる。	・「ネット情報」と「図書館の本」のように、本文中で二項対立的に用いられている語句を抜き出す。	「(近代)の入口と出口の間」(吉見俊哉)  チェックポイント 3語彙
	近代と現代の視点	A書くこと	4	<p>① 知識・技能 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めようとする。(2)イ)</p> <p>② 思考・判断・表現 内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながらいを把握している。(B(1)ア)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 文章読解を通して、多面的に評価しようとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「広い意味での『科学・技術』」「狭い意味での『科学・技術』」の性質をそれぞれ整理する。 ・科学が「否応なく、共同体の外部の一般社会との間に、強い絆を持たざるを得なくなった」理由を説明する。	・「科学は最も重要な国家に奉仕する『道具』としての意味合いを持たされている」ことについて、筆者はどのように考えているか。また、自分たちはどのように考えるか、話し合う。	「科学・技術の歴史の中での社会」(村上陽一郎)  チェックポイント 4文体と構成
11月	比べ読み	A書くこと	4	<p>① 知識・技能 主張とその前提や反証など情報と情報の関係について理解を深めること。(2)ア)</p> <p>② 思考・判断・表現 個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫すること。(A(1)オ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 二つの文章を読み比べ、科学のあり方について自分の考えをまとめようとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	「科学の現場」 ・「私にとっての科学」「抽象名詞としての科学」についてまとめる。 「科学と生命」 ・筆者の主張を本文に即してまとめる。  ・双方の文体と構成について、共通点と相違点をまとめる。	・これからの科学のあり方について、二つの文章を踏まえて、400字程度で自分の考えをまとめる。	探究の扉 「科学の現場」(坂井克之) 「科学と生命」(中屋敷均)
	情報と社会	B読むこと	5	<p>① 知識・技能 言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。(1)ア)</p> <p>② 思考・判断・表現 文章の種類を踏まえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えること。(B(1)イ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 文章全体の構成を確認しながら、論点と要旨を把握する。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「映像」に関わる出来事を、時間の流れに沿って過去から未来へと整理する。 ・出来事に対応させて、人々や群衆のあり方を整理する。 ・言葉の意味・用例を調べ、短文を作成する。 ・「待機する群衆」の潜在力について考える。	・「情報化社会」について調べ、スライドにまとめて発表する。	「疑似群衆の時代」(湊千尋)  情報との関連
12月	情報と社会	A書くこと	5	<p>① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。(1)エ)</p> <p>② 思考・判断・表現 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。(A(1)ウ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 資料を参考にしながら自分の考えを深めようとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「スポーツと社会」の関係について筆者の主張をまとめる。 ・強調表現について調べる。	・「消費されるスポーツ」について、資料を踏まえて自分の意見をまとめる。	「消費されるスポーツ」(多木浩二)  体育との関連
	言葉と思考	A書くこと	5	<p>① 知識・技能 新たな考えの構築に資する読書に意義と効用について理解を深めること。(3)ア)</p> <p>② 思考・判断・表現 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考に、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う。(A(2)ウ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 表現のしかたや論理性を検討しながら文章を作成する。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「日本人が非論理的だと言われる」理由についてまとめる。 ・「日本人のコミュニケーションの技術」について本文に即して説明する。	・今後どのようなコミュニケーションを心がけるべきか。筆者の考えも踏まえて自分の意見を書く。	「日本語は非論理的か」(野矢茂樹)  ズームアップ 「日本文化を理解する」
1月	言葉と思考	A書くこと	5	<p>① 知識・技能 新たな考えの構築に資する読書に意義と効用について理解を深めること。(3)ア)</p> <p>② 思考・判断・表現 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考に、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う。(A(2)ウ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 表現のしかたや論理性を検討しながら文章を作成する。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「日本人が非論理的だと言われる」理由についてまとめる。 ・「日本人のコミュニケーションの技術」について本文に即して説明する。	・今後どのようなコミュニケーションを心がけるべきか。筆者の考えも踏まえて自分の意見を書く。	「日本語は非論理的か」(野矢茂樹)  ズームアップ 「日本文化を理解する」
2月	言葉と思考	A書くこと	5	<p>① 知識・技能 新たな考えの構築に資する読書に意義と効用について理解を深めること。(3)ア)</p> <p>② 思考・判断・表現 社会的な話題について書かれた論説文やその関連資料を参考に、自分の考えを短い論文にまとめ、批評し合う。(A(2)ウ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 表現のしかたや論理性を検討しながら文章を作成する。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・「日本人が非論理的だと言われる」理由についてまとめる。 ・「日本人のコミュニケーションの技術」について本文に即して説明する。	・今後どのようなコミュニケーションを心がけるべきか。筆者の考えも踏まえて自分の意見を書く。	「日本語は非論理的か」(野矢茂樹)  ズームアップ 「日本文化を理解する」

3月	言葉と思考	B読むこと	5	<p>① 知識・技能 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解する。(1)エ)</p> <p>② 思考・判断・表現 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。(B(1)カ)</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 対比や具体例をまとめながら、筆者の主張を捉えようとする。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート ふり返しシート 等	・環境問題の解決を目指す際「かけがえのなさ」という客観的で普遍的な価値を重視することのメリットとデメリットについてまとめる。	・筆者が危惧する現代社会の「食」について具体的な例を一つあげ、その特徴を説明する。	「野生の『クジラ』と人間の『鯨』」(関陽子)  チェックポイント 情報の視覚化  解説 思考ツール
----	-------	-------	---	--	--	--	---	--

領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと	
	書くこと	27
	読むこと	43
指導時間数の合計		70

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
文学国語	2	全日制・普通科・2学年(文系)	文学国語(数研出版)

科目の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力・判断力・表現力等) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 <単元の評価規準>	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科等横 断的な視点等
4月	文学の扉	読む	5	① 知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔(1)ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。〔B(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 人間が虎になるという設定の効果について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・本文全体から、虎になる前の李徴の人物像を箇条書きで整理し、文章でまとめる。 ・李徴自身は、自分が虎になったのはなぜだと考えているかをまとめる。 ・作者がこの作品を人間が虎になるという設定にしたのはなぜかを考える。	作品設定の意図を考察し、説明する。	「山月記」 中島敦  日本史探究 「原始・古代の日本と東アジア」との関連
5月	平成の小説	書く	4	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔(2)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿ってスピーチをしようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「私の住むことになった部屋」は、どのような部屋だったかをまとめる。 ・「母」に対する「私」の心情は、どのように変化しているかを時系列に沿ってまとめる。 ・「私」にとって、「鍋セット」とは何であったかを考える。 ・誰かからの贈り物で、大切にしているものを提示して、三分程度のスピーチをする。	作品内容を踏まえて原稿を作成しスピーチをする。	「鍋セット」 角田光代  公共「公共の扉」 との関連
		読む	4	① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「無用の人」という題名の意味について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「私」の人物像を整理する。 ・「私」の心情変化をまとめる。 ・「私」は「父」の人生がどのようなものであったと考えているかを説明する。 ・「私」の「父」を指す「無用の人」という言葉はどのような意味で用いられていると考えられるかを説明する。	題名の意味を考察し、説明する。	「無用の人」 原田マハ  公共「公共の扉」 との関連
6月	昭和後期の小説	読む	4	① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔(1)イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の心情と行動の関連性について粘り強く考察し、これまでの学習を生かして考えようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・新道少年野球団のナインについてまとめる。 ・正太郎くんに対して、中村さんと英夫くんは、それぞれどのような思いをいただいているかを説明する。 ・「あんな思いをしたのは、あのときだけです」という「強い口調」からは、英夫くんのどのような心情がうかがえるか、「あんな思い」の内容を明らかにして説明する。 ・正太郎くんはどのような人物だと考えられるか、本文の出来事を踏まえて説明する。 ・正太郎くんを許した英夫くんと常雄くんの心情は、少年野球大会の決勝で正太郎くんが日陰を作ってくれたエピソードとどのように関連しているかを説明する。	登場人物の心情と行動の関連性を考察し、説明する。	「ナイン」 井上ひさし  公共「公共の扉」 との関連
		読む	4	① 知識・技能 文学的文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔(1)ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 冒頭と英文と最後の一文が作品全体に対して持つ意味合いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「父親」の「息子」に対する心情を説明する。 ・「父親」と「息子」の関係について説明する。 ・冒頭の英文「March winds and April showers bring May flowers」と、最後の一文「その昔自分にもそんなことがあったのを父親は思い出している」は、作品全体に対してどのような意味を持っているかを話し合う。	冒頭の英文と最後の一文が作品全体に対して持つ意味を話し合う。	「三月の風」 阿部昭  英語コミュニケーションⅡ「読むこと」との関連

7月	昭和初期の小説	読む	5	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 考えを整理して山椒魚の考え方や行動に対する感想を述べ、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・山椒魚の心情変化をまとめる。 ・山椒魚と蛙の関係はどのように変化していったかを、それぞれの心情に着目しながらまとめる。 ・この小説を寓意小説と見た場合、人間におけるどのような状況を表しているかを考える。 ・山椒魚の考え方や行動について、どのような感想を持ったかを話し合う。	作品内容を踏まえて、登場人物の考え方や行動に対する感想を話し合う。	「山椒魚」 井伏鱒二  公共「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」との関連
			5	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「僕」が「水仙の絵」を引き裂いた理由を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして文章にまとめようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「忠直卿行状記」について整理する。 ・「僕」は静子夫人のどのような点を忠直卿と重ねているかを考える。 ・静子夫人を忠直卿に重ねたとき、「僕の役割」はどのようなものだったかを考える。 ・「僕」が「静子さんの絵を見なくなった」のはなぜかを考える。 ・「僕」が「静子さんの絵を見なくなった」時の「僕」の心情を考える。 ・「僕」が「水仙の絵」を引き裂いたのはなぜだと考えられるか、自分の意見をまとめる。	作品展開を踏まえて、主人公の行動の理由をまとめる。	「水仙」 太宰治  英語コミュニケーションⅡ「読むこと」との関連
9月	昭和初期の小説 読み比べ	読む	1	① 知識・技能 文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔2ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)キ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く『水仙』と『忠直卿行状記』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・『水仙』の「僕」が考える忠直卿の「天才の不幸」と「殿様の不幸」は、『忠直卿行状記』ではそれぞれどのように描かれているかを考える。	下敷きとした作品との関係性を踏まえて、両者の描かれ方の違いを探る。	「忠直卿行状記」 菊池寛  日本史探究 「近世の日本と世界」との関連
			8	① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 作品の主題を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「私(=先生)」のKに対する心情を整理する。 ・Kが用いた「覚悟」という言葉を「私」はどのように解釈しているかを時間の経過に従ってまとめる。 ・「覚悟」という言葉をKはどのような意味で用いたのかを考える。 ・Kの自殺を発見したときの「私」の心情と行動はどのようなものだったかをまとめる。 ・Kの手紙の内容をまとめ、Kの自殺の理由を考える。 ・作品の主題を話し合う。	作品の主題を話し合う。	「こころ」 夏目漱石  日本史探究 「近現代の地域・日本と世界」の関連
10月	詩歌	読む	2	① 知識・技能 文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。〔1エ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。〔B(1)ウ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 作品が持つリズムや文体が与える印象を粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「雲白く遊子悲しむ」の悲しみの内容はどのようなものかを説明する。 ・詩を音読し、そのリズムや文語体にもどのような印象を受けたかを話し合う。	詩のリズムと文語体から受ける印象を話し合う。	「小諸なる古城のほとり」 島崎藤村  英語コミュニケーションⅡ「話すこと(やりとり)」との関連
			2	① 知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。〔1ア〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。〔B(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりを粘り強く考察し、これまでの学習を生かして話し合おうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・「兜率の天の食」は、「天上のアイスクリーム」とあったものが後に書き換えられた表現だが、このことによって読者が受ける印象はどのように変わるかを説明する。 ・「わたくし」の「いもうと」に対する心情変化を整理する。 ・「松の針」「無声慟哭」も合わせて読み、宮澤賢治の妹への心情や兄妹のつながりについて、感じたことを話し合う。	作者の心情を他の作品も踏まえて話し合う。	「永訣の朝」 宮沢賢治  英語コミュニケーションⅡ「話すこと(やりとり)」との関連
11月	詩歌／短歌	書く	4	① 知識・技能 文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔2ア〕 ② 思考・判断・表現 「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	・それぞれの歌について、句切れやリズムに注意しながら、声に出して読む。 ・それぞれの歌で工夫された表現を確認し、感動の中心はどこかを考える。 ・印象に残った歌を選んで、鑑賞文を二百字程度で書く。	短歌の鑑賞文を書く。	斎藤茂吉 釈道空 斎藤史 岡井隆 河野裕子 佐佐木幸綱 栗木京子 水原紫苑  英語コミュニケーションⅡ「書くこと」との関連

12月	詩歌／俳句	書く	4	<p>① 知識・技能 文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔2ア〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「書くこと」において、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。〔A(1)ウ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に俳句の創作に取り組み、見通しを持って、句会に参加しようとしている。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	<p>・それぞれの句について、間のとおり方や緩急などを工夫しながら、声に出して読む。</p> <p>・それぞれの句で工夫された表現を確認し、感動の中心はどこかを考える。</p> <p>・自分でも俳句を作り、クラスで句会を開催する。</p>	俳句を創作し、句会を開催する。	高浜虚子 尾崎放哉 橋本多佳子 西東三鬼 篠原鳳作 石田波郷 金子兜太 鷹羽狩行
1月	文学的文章の創作	書く	7	<p>① 知識・技能 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔1イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「書くこと」において、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。〔A(1)イ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 『物語のおわり』の中で『空の彼方』という小説がどのような機能を持っているかを踏まえ、学習課題に沿って『空の彼方』の結末を創作しようとしている。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	<p>・「そんな状況」とは、どのような状況かを「僕」の家族の現状を説明しつつまとめる。</p> <p>・「工場を継いでくれ」と頼まれるのと、「拓真のために、お父さんが決めたことなのよ」と言われるのでは、「僕」の心情にはどのような違いが生じるかを考える。</p> <p>・「僕」の考える『空の彼方』の結末を読み取る。</p> <p>・『空の彼方』を読み思索をめぐらしたことで「僕」が気づいた自身の欠点は、どのようなことかを説明する。</p> <p>・『空の彼方』を読む前と、読んだ後で「紙束を置き、カメラを手にとった」ときとで、「僕」の心情はどのように変化したかを説明する。</p> <p>・『空の彼方』の結末を自由に考え、八百字程度で書く。</p>	作品中の物語の続きを創作する。	「物語の終わり」 湊かなえ
2月	古典と現代語訳	読む	6	<p>① 知識・技能 文学的文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。〔1ウ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。〔B(1)ウ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 つの現代語訳の違いを粘り強く考察し、これまでの学習を生かしてまとめようとしている。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	<p>・三つの現代語訳には、表現上どのような違いがあるか、原文を参照しつつ、比較の観点ごとに分けてまとめる。</p>	古典の現代語訳を読み比べ、表現方法の違いをまとめる。	「源氏物語」 与謝野晶子 訳 谷崎潤一郎 訳 角田光代 訳
2月	古典と現代語訳 読み比べ	読む	1	<p>① 知識・技能 文学的文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。〔2ア〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)キ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く『源氏物語』と『源氏物語』の差異を見極め、学習課題に沿って考察しようとしている。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	<p>・「読書始め」の場面に関して、『源氏物語』と原作『源氏物語』はどのように異なるかを説明する。</p>	原作と翻案作品を読み比べ、描写の違いを説明する。	「源氏物語」 橋本治
3月	文学評論	読む	4	<p>① 知識・技能 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔B(1)カ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。</p>	授業時の観察 小テスト ワークシート 振り返りシート 等	<p>・本文にあげられた三つの物語について、筆者はどのような点に着目しているかをそれぞれまとめる。</p> <p>・「そこでは、モラルがない、ということ自体がモラルなのだ」「むごたらしいこと、救いがないということ、それだけが、唯一の救いなのであります」「ふるさととは我々のゆりかごではあるけれども、大人の仕事は、決してふるさとへ帰ることではない」とはどういうことを、それぞれ説明する。</p> <p>・筆者は「文学のふるさと」をどのようなものとしてとらえ、文学をどう扱っていかねばならないと考えているかをまとめる。</p> <p>・筆者は「伊勢物語の一つの話」を、どのように評価しているかを二百字以内で書く。</p>	筆者の主張を読み取り、文章にまとめる。	「文学のふるさと」 坂口安吾
領域 時間 ごとの 計 指導	書くこと		19					
	読むこと		51					
指導時間数の合計			70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
古典探究	3	全日制・普通科・2学年(文系)	高等学校 古典探究(数研出版)

科目の目標	○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能) ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 <単元の評価規準>	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	説話	読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。〔A(1)ウ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたのか説明する。 ・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそのようにしたのか説明する。 ・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。	本文に示された教訓について話し合う。	『十訓抄』 「大江山」 【古文チェックポイント1】係助詞の用法
			2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 忠見の歌にかけた情熱を自ら進んで評価し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	行動の分析	・『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。 ・忠見のあり方をどのように評価するか、話し合う。	登場人物の生き方について評価し話し合う。	『沙石集』 「兼盛と忠見」 【ズームアップ】説話文学  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
5月	故事	読む	8	① 知識・技能 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。〔2ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)ク〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 朗読から受ける印象の違いを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加している。	行動の観察	・訓読で教材を朗読する。 ・音読みによる直読で教材を朗読する。 ・口語訳で教材を朗読する。 ・三種類の朗読から受ける印象の違いを話し合う。	「音読みによる直読」「文語による訓読」「口語訳」の朗読を比較して、朗読から受ける印象の違いを話し合う。	買履忘度 漱石枕流 華歆・王朗 画竜点睛 江南橋為江北枳 【ズームアップ】訓読の歴史 【漢文チェックポイント1】漢文の語順 世界史探究「C
			3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く「春日野の…」歌と「みちのくの…」歌を比較し、学習課題に沿って類似点・相違点を整理しようとしている。	記述の分析	・それぞれの歌について修辭法を確認する。 ・「男」が着ていた「狩衣の裾」を切り取って歌を書いたのはなぜか、考える。 ・「かくいちはやきみやび」とは「男」のどのような言動を指して言ったものか、説明する。 ・「春日野の……」の歌と「みちのくの……」の歌の類似点・相違点を考える。	本文中の和歌と本歌の類似点・相違点を考察する。	『伊勢物語』 「初冠」 【古文チェックポイント2】まぎらわしい話の識別  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く第一段落と第二段落の関係性を見極め、学習課題に沿って本文を解釈しようとしている。	記述の確認	・「人知れぬ……」の歌に込められた男の気持ちを説明する。 ・「あるじ許してけり」とは何を、なぜ許したのか、説明する。 ・第一段落と第二段落はどのような関係にあるか、考える。	作品の内容をとらえ、構成を整理する。	『伊勢物語』 「通ひ路の関守」  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連		

6月		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 男の心情変化について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「男」が「をば」を捨てるに至った経過を整理する。 ・「をば」を捨てた後再び迎へに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。	登場人物の心情について話し合う。	『大和物語』 「をばすて山」 【ズームアップ】十世紀の物語  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
	漢詩	読む	5	① 知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。〔1エ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。〔A(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 春に関する漢詩を習作する活動において、積極的に課題に取り組んでいる。	記述の確認	・単元内の教材の学習を踏まえて、漢詩の規則を確認する。 ・「春」をテーマとした七言絶句を作る。	漢詩の習作に取り組む。	中国の詩 日本の詩 【ズームアップ】漢詩を作ってみよう
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「すさまじ」の意味変遷の歴史について進んで調べ、学習の見通しをもって本文理解を深めようとしている。	記述の分析	・第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているか。まとめる。 ・「ゆるぎありきたるも、いとをかし。すさまじげなり」とはどういうことか。説明する。 ・現代語「すさまじい」の意味を調べ、古語「すさまじ」からの意味変遷の歴史をまとめる。	語句の意味変遷の歴史をまとめる。	【参考】春はあけぼの 『枕草子』 「すさまじきもの」
	随筆(一)	読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「姨捨山の月は、いかなる人の見るにか。」という表現で伝えていることは何か、清少納言の発言との関わりで説明する。 ・「わろかめれば、寿命経も、え書くまじげにこそ」とは何を清少納言に伝えようとしているのか、説明する。 ・「かけまくも……」の歌について、掛詞を指摘して、歌を訳す。	登場人物の行動や心情を説明する。	『枕草子』 「御前にて人々とも」 【古文チェックポイント3】さまざまな敬語表現
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「うたて、何しにさ申しつらむ」とは、誰のどのような気持ちを表しているか、説明する。 ・作者以外の女房たちが、その時々状況に応じてどのような行動をとったか、順にまとめる。 ・「ただ人のねぶたかりつる目もいと大きになりぬ」とあるが、どういうことか、説明する。	登場人物の行動や心情を説明する。	『枕草子』 「大納言殿参り給ひて」 【ズームアップ】随筆文学
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の心情をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・物語を読みたいと思う気持ちが表れている表現を順に抜き出す。 ・「人知れずうち泣かれぬ」という作者の気持ちを説明する。	作者の心情を説明する。	『更級日記』 「東路の道の果て」  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
7月	日記文学(一)	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔A(1)キ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 『源氏物語』の「夕顔」や「浮舟」について進んで調べ、学習課題に沿って本文理解と自分の考えを深めようとしている。	記述の分析	・作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 ・「いとほかなく、あさまし」というのは、いつの時点のどのような気持ちを表現したのか、考える。 ・『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」がどのような女性なのか調べ、作者がこの二人を取り上げた理由を考える。	作者が影響を受けた物語の登場人物について調べる。	『更級日記』 「物語」 【ズームアップ】受領層の娘たち  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
		読む	6	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	行動の確認	・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	劉邦が鴻門から脱出することができた理由と、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	鴻門之会 四面楚歌 項王自刎 【ズームアップ】項羽と劉邦 【漢文チェックポイント2】兼語文
	史伝	読む	6	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕	行動の確認	・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	劉邦が鴻門から脱出することができた理由と、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	鴻門之会 四面楚歌 項王自刎 【ズームアップ】項羽と劉邦 【漢文チェックポイント2】兼語文

			③ 主体的に学習に取り組む態度 本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。				世界史探究「C 諸地域の交流・再編」	
9月	物語	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。	登場人物の心情と人物像について話し合う。	『源氏物語』 「光源氏誕生」
		読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・藤壺が入内したことで、桐壺帝はどのように変わったか、説明する。 ・藤壺はまわりの女御・更衣からどのように見られていたか、説明する。 ・藤壺に対する光源氏の心情を説明する。	登場人物の行動や心情を説明する。	『源氏物語』 「藤壺の入内」
		読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「生ひ立たむ……」と「初草の……」の歌について、「若草」「露」「初草」が何をたとえているか、それぞれの歌は何を訴えようとしているか、説明する。 ・光源氏は「女子」のどこに興味をひかれているのか、説明する。	登場人物の行動や心情を説明する。	『源氏物語』 「小柴垣のもと」 【ズームアップ】『源氏物語』の魅力
10月	随筆(二)	読む	1	① 知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。〔1エ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」について、「人と栖」が何とどのように同じなのか、説明する。 ・「無常」に対する作者の考えについて、説明する。	作者の心情について説明する。	『方丈記』 「ゆく河の流れ」 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 『方丈記』の教科書掲出箇所以外について積極的に読み、学習課題に沿って考察に取り組もうとしている。	記述の分析	・本文を五段に分け、それぞれに小見出しをつける。 ・『方丈記』に描かれたさまざまな災害のありさまを読んで、現代に通じる『方丈記』の価値について考える。	現代に通じる古典作品の価値について考察する。	『方丈記』 「養和の飢饉」 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・作者の家の様子や周囲の環境と、そこにおける生活の様子をまとめる。 ・作者はなぜこの作品を『方丈記』と名付けたのか、考える。	本文の内容を説明し、作品名の由来を考察する。	『方丈記』 「閑居の気味」 日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 主体性をもって作品内容を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の分析	・「長くとも、四十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ」と作者が言う根拠について、整理する。 ・この文章の主題を表している一文を抜き出す。 ・命が永遠ならば「いかにものあはれもなからん」という作者の考え方に賛成の意見・反対の意見を出し合い、話し合う。	作者の考え方に賛否の意見を出し、話し合う。	『徒然草』 「あだし野の露」

		読む	2	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。</p>	記述の確認	<p>・登場人物とそれぞれの性別を確認する。 ・作者はどのようなことに心ひかれているのか考える。</p>	作者の心情について考察する。	『徒然草』 「九月二十日のころ」
		読む	2	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く本文の内容を読み解き、学習の見通しをもって作者の考えを説明しようとしている。</p>	記述の確認	<p>・本文で述べられている「月の見所」「花の見所」をまとめる。 ・「男女の情け」における「始め終はり」とは、どのような状態を言うのか説明する。</p>	本文の内容について説明する。	『徒然草』 「花は盛り」に 【探究の扉】 兼好法師が詞のあげつらひ
11月	思想	読む	12	<p>① 知識・技能 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2エ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 諸子百家の文章から現代に通じる考え方を粘り強く見だし、積極的に文章に表そうとしている。</p>	記述の確認	<p>・「未来に備える遺伝子」を読んで、単元内で学習した諸子百家の文章に見える考え方の共通点を考える。 ・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を探し、文章としてまとめる。</p>	諸子百家の文章に見える考え方から、現代社会に通用する部分を考察する。	論語 孟子 荀子 老子 莊子 韓非子 【探究の扉】 未来に備える遺伝子 【ズームアップ】諸子百家 【漢文チェックポイント3】前置詞  世界史探究「C 諸地域の交流・再編」との関連
		読む	2	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。</p>	記述の確認	<p>・「さり」と「さりとも」「さること」「さり」「さる」が指す内容を説明する。 ・花山天皇の出家はどのように行われたのか、道兼の行動に注意しながらまとめる。 ・花山天皇と道兼の人物像をまとめる。</p>	登場人物の行動と人物像について考察する。	『大鏡』「花山天皇の出家」  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	2	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や語り手の心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。</p>	記述の確認	<p>・本文を「出来事」「事後の公任の感想」「語り手の感想」の部分に分ける。 ・「かばかりの詩……まさりなまし」という言葉が発せられた理由について説明する。 ・「小倉山……」の和歌はどのような点が評価されたのか、考える。</p>	文章の構成を整理し、内容を説明する。	『大鏡』「三船の才」  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	2	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。</p>	記述の確認	<p>・「大内裏部分略図」を参考に、登場人物の行き先やたどった経路を確認する。 ・道長の言動に対する評価の言葉を取り上げ、誰のどのような評価であったのかを整理する。 ・道隆・道兼・道長の人物像をまとめ、比較する。</p>	登場人物の行動と人物像について考察する。	『大鏡』「道長の剛胆」  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
12月	歴史物語	読む	2	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。〔A(1)ウ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 一語の解釈の違いで発言全体の真意がどう変わるか粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</p>	行動の分析	<p>・道長と伊周はそれぞれどのような人物として描かれているか、まとめる。 ・道隆が、「色青く」なったり、「な射そ」と言ったりした理由を考える。 ・「いま二度延べさせ給へ」という発言の真意はどこにあるのか、話し合う。</p>	語句の解釈可能性を考察し、発言の真意を話し合う。	『大鏡』「南院の競射」 【ズームアップ】摂関政治と藤原道長  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連

1月	軍記物語	読む	3	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 忠度の心情について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</p>	行動の確認	<p>・忠度が俊成のもとを訪れた際の、俊成とその家人との反応の違いについて説明する。</p> <p>・「情けもすぐれて深う、あはれもことに思ひ知られて」について、俊成は忠度のどこについて、どのように述べているのか説明する。</p> <p>・「前途程遠し、思ひを雁山の夕べの雲に馳す」という朗詠を行った時の忠度の心情を想像し、話し合う。</p>	登場人物の心情について話し合う。	『平家物語』 「忠度の都落ち」  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	3	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえながら本文を解釈し、学習課題に沿って朗読劇に取り組もうとしている。</p>	行動の分析	<p>・二位殿の言葉から、安徳天皇に対するどのような思いが感じられるか、考える。</p> <p>・知盛の言動からどのような人物像が浮かび上がってくるか、話し合う。</p> <p>・本文の解釈を踏まえ、地の文と各登場人物に役割を分けて朗読劇をする。</p>	本文の解釈を踏まえて朗読劇を行う。	『平家物語』 「壇ノ浦」 【ズームアップ】文学と歴史の間  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
2月	日記文学(二)	読む	8	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 「売油翁」の末尾一文の意味について、グループでの話し合いにおいて積極的に意見を発表している。</p>	行動の観察	<p>・単元内の教材の学習を踏まえて、道家思想が後世の文章に影響を与えた経緯を学習する。</p> <p>・「売油翁」の末尾一文の意味を、典故となる『荘子』の文章を踏まえて考え、グループで話し合う。</p>	道家の思想が後世の文章に与えた影響を考察する。	漁父辞 桃花源記 売油翁 【漢文チェックポイント4】後置修飾語 【ズームアップ】道家思想とその影響  世界史探究「C 諸地域の交流・再編」との関連
		読む	4	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔A(1)ホ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 平資盛の逸話について進んで調べ、学習課題に沿って本文理解と自分の考えを深めようとしている。</p>	記述の分析	<p>・恋人の死を受けとめかねて苦しむ作者の様子がどのように表現されているか、抜き出す。</p> <p>・「なべて世の……」「悲しとも……」の歌に込められている作者の気持ちを説明する。</p> <p>・『建礼門院右京大夫集』と『平家物語』で描かれる平資盛の人物像や逸話について調べる。</p>	複数の作品から平資盛の逸話を調べる。	『建礼門院右京大夫集』 「なべて世の」  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
3月	和歌・歌謡・俳諧	読む	2	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。</p>	記述の分析	<p>・作者は和歌をどのようなものにとらえているか、その本質と効用に分けて整理する。</p> <p>・作者は六歌仙の歌をそれぞれどのようにたとえて評価しているか、整理し、考える。</p> <p>・脚注にあげた六歌仙の歌について、歌意をとらえ、鑑賞文を書く。</p>	和歌について鑑賞文を書く。	『古今和歌集 仮名序』 「やまと歌は」 「六歌仙」  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	2	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。</p>	記述の分析	<p>・それぞれの歌を現代語訳し、その主題を考える。</p> <p>・それぞれの歌について、表現上の特徴をあげる。</p> <p>・好きな歌を選び、鑑賞文を書く。また、作者やその歌が作られた時代について調べる。</p>	和歌について鑑賞文を書く。	『和歌・歌謡』  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連

		読む	2	<p>① 知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 [(1)エ]</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 [A(1)オ]</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く各句のおもしろみや味わいを考察し、自分の考えを深めようとしている。</p>	記述の確認	<p>・貞徳・宗因・西鶴の関係について調べ、句のおもしろみについて考える。</p> <p>・来山と鬼貫について、どのような人物かを調べ、句の味わいについて考える。</p> <p>・芭蕉の二句について、句の感じがの違いを説明する。</p> <p>・句の上五ないしは下五に別の言葉をあてはめて、もとの句とのイメージの違いについて話し合う。</p> <p>・蕪村と一茶の句について、それぞれの俳人の表現の特徴について考え、まとめる。</p>	俳諧の表現について考察する	『江戸俳諧・発句』 【ズームアップ】連歌という文芸  日本史探究「C 近世の日本と世界」との関連
領域ごとの指導時間	話すこと・聞くこと							
	書くこと							
	読むこと		105					
指導時間数の合計			105					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
古典探究	2	全日制・普通科・2学年(理系)	高等学校 古典探究(数研出版)

科目の目標	○生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能) ○論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 <単元の評価規準>	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	説話	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。〔A(1)ウ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に説話が示す教訓性について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「丹後へ遣はしける人は参りたりや」とは、どのようなことを言おうとしたのか説明する。 ・「大江山……」の歌で、小式部内侍が伝えようとしたことを説明する。 ・「返歌にも及ばず、袖を引き放ちて、逃げられけり」とは、誰がなぜそのようにしたのか説明する。 ・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。	本文に示された教訓について話し合う。	『十訓抄』『大江山』『古文チェックポイント1』係助詞の用法
			1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 忠見の歌にける情熱を自ら進んで評価し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。	行動の分析	・『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。 ・忠見のあり方をどのように評価するか、話し合う。	登場人物の生き方について評価し話し合う。	『沙石集』『兼盛と忠見』『ズームアップ』説話文学  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
5月	故事	読む	6	① 知識・技能 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めている。〔2ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)ク〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 朗読から受ける印象の違いを話し合う活動において、積極的に話し合いに参加している。	行動の観察	・訓読で教材を朗読する。 ・音読みによる直読で教材を朗読する。 ・口語訳で教材を朗読する。 ・三種類の朗読から受ける印象の違いを話し合う。	「音読みによる直読」「文語による訓読」「口語訳」の朗読を比較して、朗読から受ける印象の違いを話し合う。	買履忘度 漱石枕流 華歆・王朗 画竜点睛 江南橋為江北 枳 【ズームアップ】訓読の歴史 【漢文チェックポイント1】漢文の語順  世界史探究「C
			3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く「春日野の…」歌と「みちのくの…」歌を比較し、学習課題に沿って類似点・相違点を整理しようとしている。	記述の分析	・それぞれの歌について修辞法を確認する。 ・「男」が着ていた「狩衣の裾」を切り取って歌を書いたのはなぜか、考える。 ・「かくいちはやきみやび」とは「男」のどのような言動を指して言ったものか、説明する。 ・「春日野の……」の歌と「みちのくの……」の歌の類似点・相違点を考える。	本文中の和歌と本歌の類似点・相違点を考察する。	『伊勢物語』『初冠』 【古文チェックポイント2】まぎらわしい語の識別  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連

6月	歌物語	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 男の心情変化について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「男」が「をば」を捨てるに至った経過を整理する。 ・「をば」を捨てた後再び迎へに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。	登場人物の心情について話し合う。	『大和物語』 「をばすて山」 【ズームアップ】十世紀の物語  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
	漢詩	読む	3	① 知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。〔1エ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。〔A(1)ア〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 春に関する漢詩を習作する活動において、積極的に課題に取り組んでいる。	記述の確認	・単元内の教材の学習を踏まえて、漢詩の規則を確認する。 ・「春」をテーマとした七言絶句を作る。	漢詩の習作に取り組む。	中国の詩 日本の詩 【ズームアップ】漢詩を作ってみよう
	随筆(一)	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「すさまじ」の意味変遷の歴史について進んで調べ、学習の見通しをもって本文理解を深めようとしている。	記述の分析	・第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているか。まとめる。 ・「ゆるぎありきたるも、いとをかし。すさまじげなり」とはどういうことか。説明する。 ・現代語「すさまじい」の意味を調べ、古語「すさまじ」からの意味変遷の歴史をまとめる。	語句の意味変遷の歴史をまとめる。	【参考】春はあけぼの 『枕草子』 「すさまじきもの」
	随筆(一)	読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の様子や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・「うたて、何しにさ申しつらむ」とは、誰のどのような気持ちを表しているか、説明する。 ・作者以外の女房たちが、その時々状況に応じてどのような行動をとったか、順にまとめる。 ・「ただ人のねぶたかりつる目もいと大きになりぬ」とあるが、どういうことか、説明する。	登場人物の行動や心情を説明する。	『枕草子』 「大納言殿参り給ひて」 【ズームアップ】随筆文学
7月	日記文学(一)	読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の心情をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・物語を読みたいと思う気持ちが表れている表現を順に抜き出す。 ・「人知れずうち泣かれぬ」という作者の気持ちを説明する。	作者の心情を説明する。	『更級日記』 「東路の道の果て」  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔A(1)キ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 『源氏物語』の「夕顔」や「浮舟」について進んで調べ、学習課題に沿って本文理解と自分の考えを深めようとしている。	記述の分析	・作者が『源氏物語』を読むことに没頭していることがわかる表現を抜き出し、そのときの気持ちを考える。 ・「いとほかなく、あさまし」というのは、いつの時点のどのような気持ちを表現したのか、考える。 ・『源氏物語』に登場する「夕顔」や「浮舟」がどのような女性なのか調べ、作者がこの二人を取り上げた理由を考える。	作者が影響を受けた物語の登場人物について調べる。	『更級日記』 「物語」 【ズームアップ】受領層の娘たち  日本史探究「B 中世の日本と世界」との関連
	史伝	読む	4	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 本文から読みとった項羽や劉邦の人物像を踏まえて、作中の行動の経緯・理由を粘り強く考察し、主体性をもって話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。 ・「四面楚歌」「項王自刎」の読解を踏まえ、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	劉邦が鴻門から脱出することができた理由と、項羽が江東に帰らなかった理由を考えて話し合う。	鴻門の会 四面楚歌 項王自刎 【ズームアップ】項羽と劉邦 【漢文チェックポイント2】兼語文  世界史探究「C 諸地域の交流・再編」
		読む	2	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕	行動の確認	・帝が「桐壺の更衣」を寵愛することに対し、まわりの人々はどう思ったか、説明する。 ・「一の皇子」と「玉の男皇子」とに対する帝の接し方の違いを説明する。 ・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。	登場人物の心情と人物像について話し合う。	『源氏物語』 「光源氏誕生」

9月	物語		③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の心情とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、今までの学習を生かして話し合いに参加しようとしている。					
		読む	3	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・藤壺が入内したことで、桐壺帝はどのように変わったか、説明する。 ・藤壺はまわりの女御・更衣からどのように見られていたか、説明する。 ・藤壺に対する光源氏の心情を説明する。	登場人物の行動や心情を説明する。	『源氏物語』 「藤壺の入内」
10月	随筆(二)		① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 『方丈記』の教科書掲出箇所以外について積極的に読み、学習課題に沿って考察に取り組もうとしている。	記述の確認	・「世の中にある人と栖と、またかくのごとし」について、「人と栖」が何とどのように同じなのか、説明する。 ・「無常」に対する作者の考えについて、説明する。	作者の心情について説明する。	『方丈記』 「ゆく河の流れ」 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連	
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 『方丈記』の教科書掲出箇所以外について積極的に読み、学習課題に沿って考察に取り組もうとしている。	記述の分析	・本文を五段に分け、それぞれに小見出しをつける。 ・『方丈記』に描かれたさまざまな災害のありさまを読んで、現代に通じる『方丈記』の価値について考える。	現代に通じる古典作品の価値について考察する。	『方丈記』 「養和の飢饉」 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)カ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 主体性をもって作品内容を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の分析	・「長くとも、四十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ」と作者が言う根拠について、整理する。 ・この文章の主題を表している一文を抜き出す。 ・命が永遠ならば「いかにものあはれもなからん」という作者の考え方に賛成の意見・反対の意見を出し合い、話し合う。	作者の考え方に賛否の意見を出し、話し合う。	『徒然草』 「あだし野の露」
		読む	1	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って作者の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・登場人物とそれぞれの性別を確認する。 ・作者はどのようなことに心ひかれているのか考える。	作者の心情について考察する。	『徒然草』 「九月二十日のころ」
11月	思想		① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く本文の内容を読み解き、学習の見通しをもって作者の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・本文で述べられている「月の見所」「花の見所」をまとめる。 ・「男女の情け」における「始め終はり」とは、どのような状態を言うのか説明する。	本文の内容について説明する。	『徒然草』 「花は盛り」 【探究の扉】 兼好法師が詞のあげつらひ	
		読む	8	① 知識・技能 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。〔2エ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕	記述の確認	・「未来に備える遺伝子」を読んで、単元内で学習した諸子百家の文章に見える考え方との共通点を考える。 ・諸子百家の文章から現代に通じる考え方を探し、文章としてまとめる。	諸子百家の文章に見える考え方から、現代社会に通用する部分を考察する。	論語 孟子 荀子 老子 莊子 韓非子 【探究の扉】 未来に備える遺伝子 【ズームアップ】 諸子百家

			③ 主体的に学習に取り組む態度 諸子百家の文章から現代に通じる考え方を粘り強く見だし、積極的に文章に表そうとしている。				【漢メアエックポイント3】前置詞 世界史探究「C諸地域の交流・再編」との関連
12月	歴史物語	読む	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 登場人物の行動とそこから浮かび上がる人物像について粘り強く考察し、学習課題に沿ってまとめようとしている。	記述の確認	・「さり」と「さりとも」「さること」「さり」「さる」が指す内容を説明する。 ・花山天皇の出家はどのように行われたのか、道兼の行動に注意しながらまとめる。 ・花山天皇と道兼の人物像をまとめる。	登場人物の行動と人物像について考察する。	『大鏡』『花山天皇の出家』 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
		読む	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や語り手の心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。	記述の確認	・本文を「出来事」「事後の公任の感想」「語り手の感想」の部分に分ける。 ・「かばかりの詩……まさりなまし」という言葉が発せられた理由について説明する。 ・「小倉山……」の和歌はどのような点が評価されたのか、考える。	文章の構成を整理し、内容を説明する。	『大鏡』『三船の才』 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
1月	軍記物語	読む	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 忠度の心情について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	行動の確認	・忠度が俊成のもとを訪れた際の、俊成とその家人との反応の違いについて説明する。 ・「情けもすぐれて深う、あはれもことに思ひ知られて」について、俊成は忠度のどこについて、どのように述べているのか説明する。 ・「前途程遠し、思ひを雁山の夕べの雲に馳す」という朗詠を行った時の忠度の心情を想像し、話し合う。	登場人物の心情について話し合う。	『平家物語』「忠度の都落ち」 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
		読む	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に登場人物の行動や心情をとらえながら本文を解釈し、学習課題に沿って朗読劇に取り組もうとしている。	行動の分析	・二位殿の言葉から、安徳天皇に対するどのような思いが感じ取れるか、考える。 ・知盛の言動からどのような人物像が浮かび上がってくるか、話し合う。 ・本文の解釈を踏まえ、地の文と各登場人物に役割を分けて朗読劇をする。	本文の解釈を踏まえて朗読劇を行う。	『平家物語』「壇ノ浦」【ズームアップ】文学と歴史の間 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
	文章	読む	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。〔A(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「売油翁」の末尾一文の意味について、グループでの話し合いにおいて積極的に意見を発表している。	行動の観察	・単元内の教材の学習を踏まえて、道家思想が後世の文章に与えた影響を考察する。 ・「売油翁」の末尾一文の意味を、典故となる『荘子』の文章を踏まえて考え、グループで話し合う。	道家の思想が後世の文章に与えた影響を考察する。	漁父辞 桃花源記 売油翁 【漢文チェックポイント4】後置修飾語 【ズームアップ】道家思想とその影響 世界史探究「C諸地域の交流・再編」との関連
2月	日記文学(二)	読む	① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。〔A(1)キ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 平資盛の逸話について進んで調べ、学習課題に沿って本文理解と自分の考えを深めようとしている。	記述の分析	・恋人の死を受けとめかねて苦しむ作者の様子がどのように表現されているか、抜き出す。 ・「なべて世の……」「悲しとも……」の歌に込められている作者の気持ちを説明する。 ・『建礼門院右京大夫集』と『平家物語』で描かれる平資盛の人物像や逸話について調べる。	複数の作品から平資盛の逸話を調べる。	『建礼門院右京大夫集』「なべて世の」 日本史探究「B中世の日本と世界」との関連

		読む	3	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。〔A(1)イ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 積極的に作者の見たものや心情をとらえ、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。</p>	記述の確認	<p>・大原の庵の周辺の様子などがどのように描かれているか整理する。</p> <p>・女院の、過去の様子と現在の様子などがどのように比較されているか整理する。</p> <p>・「今や夢……」「あふぎ見し……」「山深く……」の三首の歌を現代語訳し、それぞれの歌に込められている作者の思いをまとめる。</p>	和歌から作者の心情を読み取る。	『建礼門院右京大夫集』 「大原まうで」 【ズームアップ】和歌にまつわる常識  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
3月	和歌・歌謡・俳諧	読む	1	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。</p>	記述の分析	<p>・作者は和歌をどのようなものにとらえているか、その本質と効用に分けて整理する。</p> <p>・作者は六歌仙の歌をそれぞれどのようにたとえて評価しているか、整理し、考える。</p> <p>・脚注にあげた六歌仙の歌について、歌意をとらえ、鑑賞文を書く。</p>	和歌について鑑賞文を書く。	『古今和歌集 仮名序』 「やまと歌は」 「六歌仙」  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
		読む	1	<p>① 知識・技能 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。〔2イ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。</p>	記述の分析	<p>・それぞれの歌を現代語訳し、その主題を考える。</p> <p>・それぞれの歌について、表現上の特徴をあげる。</p> <p>・好きな歌を選び、鑑賞文を書く。また、作者やその歌が作られた時代について調べる。</p>	和歌について鑑賞文を書く。	『和歌・歌謡』  日本史探究「B中世の日本と世界」との関連
		読む	1	<p>① 知識・技能 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。〔1エ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。〔A(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く各句のおもしろみや味わいを考察し、自分の考えを深めようとしている。</p>	記述の確認	<p>・貞徳・宗因・西鶴の関係について調べ、句のおもしろみについて考える。</p> <p>・来山と鬼貫について、どのような人物かを調べ、句の味わいについて考える。</p> <p>・芭蕉の二句について、句の感じがの違いを説明する。</p> <p>・句の上五ないしは下五に別の言葉をあてはめて、もとの句とのイメージの違いについて話し合う。</p> <p>・蕪村と一茶の句について、それぞれの俳人の表現の特徴について考え、まとめる。</p>	俳諧の表現について考察する。	『江戸俳諧・発句』 【ズームアップ】連歌という文芸  日本史探究「C近世の日本と世界」との関連
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと							
	書くこと							
	読むこと		70					
指導時間数の合計			70					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
日本史探究	3	全日制・普通科・2学年	『詳説日本史』(山川出版社)

科目の目標	(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第I部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり	4	① 知識・技能 日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	考古資料などをもとに、古代の日本について興味・関心ある出来事を調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	
	② 思考・判断・表現 黒曜石などの考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。						
	2 農耕社会の成立	① 知識・技能 水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。	考古資料をもとに、集落・風習・食生活の変化などを踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察する。		
	② 思考・判断・表現 小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。						
歴史資料と原始・古代の展望 ①古代社会と海外との交流	2	① 知識・技能 中国の歴史書の記事をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	中国の歴史書の記事をもとに、日本列島の倭の小国やヤマト政権(倭国)と中国・朝鮮半島の諸国との交流について、多面的・多角的に考察する。	「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現する。	世界史学習との関わりから、他国との関係性のなかから日本列島の歴史を俯瞰する。	
② 思考・判断・表現 中国の歴史書の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。							
②木簡から古代国家を探る	① 知識・技能 木簡の記録をもとに、資料から歴史に関わる情報を収集して読み取る技能を身につけている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	遺跡から出土した木簡の記載内容をもとに、文書主義を特徴とする律令制のもとで人・物・情報がどのように移動していたのか、多面的・多角的に考察する。	木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察する。			
② 思考・判断・表現 木簡の特性を踏まえ、資料を通して読み取れる情報から、原始・古代の特色について多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。							
	③ 主体的に学習に取り組む態度 木簡を資料として活用し、律令国家における文字文化の広がりについて主体的に考察しようとしている。						

5月	第2章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開	4	① 知識・技能 国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。	中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察する。	
	2 飛鳥の朝廷		① 知識・技能 推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。	仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。	
	第3章 律令国家の形成 1 律令国家への道		① 知識・技能 隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。	天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程についてまとめる。	世界史学習との関わりから、他国との関係性のなかから日本列島の歴史を俯瞰する。
	2 平城京の時代		① 知識・技能 平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。	文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察する。	
	3 律令国家の文化	6	① 知識・技能 隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について考察する。	教科書に掲載されているや図版や写真を適切に読み取る。	
4 律令国家の変容			① 知識・技能 東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸政策や平安初期の文化の変容を理解している。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。	東アジアとの関係の変化や社会の変化について、調べてわかったことをまとめたり、発表したりする。	
			② 思考・判断・表現 盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。				
			② 思考・判断・表現 文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。				
			③ 主体的に学習に取り組む態度 隋・唐などの中国王朝から導入された文化を考察し、政治や社会の動きとのつながりを見出そうとしている。				
			② 思考・判断・表現 蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動揺について考察し、根拠を示して表現している。				
			③ 主体的に学習に取り組む態度 東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。				

6月	第4章 貴族政治の展開 1 摂関政治	<p>① 知識・技能 藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 唐の衰退と東アジア情勢の変化が日本社会に与えた影響を考察することを通じて、摂関政治期の社会の特色を明らかにしようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。	奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、わかったことをまとめる。
	2 国風文化	<p>① 知識・技能 大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 平安時代の政治の在り方と文化との関係を考察することを通じて、そのつながりを見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。	かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を調べ、わかったことをまとめる。
	3 地方政治の展開と武士	<p>① 知識・技能 地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 国司の在り方や徴税方式の変化、武士の出現など、地方の豪族や武力をもった勢力の動向が政治・社会に与えた影響を明らかにしようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。	文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現する。
	第II部 中世 第5章 院政と武士の躍進 1 院政の始まり	<p>① 知識・技能 貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 中世社会の特色について多面的・多角的に考察することを通じて、時代を通観する問いを表現し、追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。	中世社会の特色について、興味・関心のある出来事を調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
2 院政と平氏政権	<p>① 知識・技能 平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。	古代との比較などを通して、興味・関心のある出来事を調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	
歴史資料と中世の展望 絵画から中世社会を語る	<p>① 知識・技能 『年中行事絵巻』『一遍上人絵伝』『洛中洛外図屏風』を比較して、様々な情報を適切かつ効果的に調べてまとめている。</p> <p>② 思考・判断・表現 複数の絵画資料に描かれている中世の都大路の様子を比較した結果について、時代を通観する問いを踏まえて考察し、仮説を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 中世の京都を描いた絵画資料から得られる情報をもとに、中世社会の特色について主体的に課題を見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	政治や文化の中心であった中世の京都を描いた絵画作品から、情報を収集して読み取る技能を身につける。	教科書に掲載されているや図版や写真を適切に読み取る。	

7月	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立	<p>① 知識・技能 諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 鎌倉幕府の成立過程や封建制度の形成に関する課題を主体的に追究し、前の時代とのつながりを見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。	幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現する。
	2 武士の社会	<p>① 知識・技能 承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 公武関係の変化による武家政権の展開に着目し、鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、將軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。	承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取る。
	3 モンゴル襲来と幕府の衰退	<p>① 知識・技能 宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響について、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。	鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現する。
	4 鎌倉文化	<p>① 知識・技能 公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。</p> <p>② 思考・判断・表現 宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 鎌倉時代の宗教や文化にみられる平安時代からの特徴の継承や差異について、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。	公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る。
	第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立	<p>① 知識・技能 鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 武家政権の変容や東アジアの国際情勢の変化などに着目し、諸資料を活用して前後の時代とのつながりを見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。	東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察する。
	2 幕府の衰退と庶民の台頭	<p>① 知識・技能 諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 室町時代に成立した村の自治的な運営が現代社会における自治とどのように異なるかなど、自身との関わりにおいて課題を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。	地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察する。

9月	3 室町文化	<p>① 知識・技能 経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 室町時代の文化の特徴と、当時の政治や経済の動向との関係を多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。	室町時代の宗教や文化の特徴について、鎌倉時代との比較を通じて類似点や差異を考察し、まとめる。
	4 戦国大名の登場	<p>① 知識・技能 守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 戦国大名による富国強兵策に着目して領国統治の特色を諸資料から考察し、堺や博多など都市の発展にみられる戦国時代の社会の多様性を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由など、戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。	戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を設定し、調べたことをまとめたり、発表したりする。
	第Ⅲ部 近世 第8章 近世の幕開け 1 織豊政権	<p>① 知識・技能 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。	時代の転換に着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、わかったことをまとめる。
	2 桃山文化	<p>① 知識・技能 桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を読み取り、理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 桃山文化の特色について、中世文化の特色との比較を通じて、その類似と差異を見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。	教科書に掲載されている図版や写真を適切に読み取る。
	歴史資料と近世の展望 生類憐みの令からみる江戸時代の社会の変化	<p>① 知識・技能 法令の内容を適切に読み取り、生類憐みの令が出された当時の社会の雰囲気について、文芸作品との関わりも踏まえて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 生類憐みの令が出された時期の諸政策や国際的な環境の変化をもとに、江戸時代の特徴を多面的・多角的に考察し、仮説を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 戦国時代までの社会の在りかたと比較し、近世がどのような社会に変わったのかについて課題を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	資料から適切に読み取った情報をもとに、近世の特色についての仮説を表現して展望する。	戦国時代までの社会の在りかたと比較し、近世がどのような社会に変わったのかについて課題を調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
第9章 幕藩体制の成立と展開 1 幕藩体制の成立	<p>① 知識・技能 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 幕藩体制が確立する過程における様々な画期について考察し、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。	織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義を考察し、考察したことをまとめたりする。	

10月	2 幕藩社会の構造	<p>① 知識・技能 幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 新たな支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 織豊政権下における社会の仕組みと幕藩体制下とを比較・考察し、そのつながりを見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。	支配制度のもとにおける人々の生活の具体相について、諸資料から考察する。
	3 幕政の安定	<p>① 知識・技能 諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。	諸資料から情報を適切に読み取り、文治政治への転換から元禄時代・正徳期に至る政治の推移をまとめたりする。
	4 経済の発展	<p>① 知識・技能 産業の発達、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都に関わる諸資料から情報を読み取り、技術の向上と開発の進展について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 近世前期における交通・流通の発達や産業の発達などの様相について、その推移や展開を明らかにしようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。	交通・流通の発達や産業の発達などの様相などについて、調べたことをまとめる。
	5 元禄文化	<p>① 知識・技能 都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。</p> <p>② 思考・判断・表現 近世前期における幕府の統治政策や藩財政の推移と文化との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 幕藩体制が安定していく中での経済の動向と上方の豪商との関係性を踏まえ、17世紀の文化の特色を明らかにしようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る。
	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革	<p>① 知識・技能 幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 幕藩体制下の社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。	社会・経済の仕組みの変化や、幕府・諸藩の政策の変化について調べ、わかったことをまとめる。
2 宝暦・天明期の文化	<p>① 知識・技能 幕藩体制下の社会の変容に着目して、宝暦・天明期における新たな学問の確立、各地に設立された教育機関の展開を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 政治・経済と文化の関係に着目して、宝暦・天明期における文化の展開について課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。	宝暦・天明期における文化の展開について調べてわかったことをまとめたり、発表したりする。	

11月	3 幕府の衰退と近代への道	8	<p>① 知識・技能 列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 国際情勢の変化と影響などに着目して、幕府政治の動揺と諸藩の動向について多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 飢饉や一揆への対応、外交政策の転換などについて、幕府や諸藩の課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	江戸中期に確立した洋学や国学、新たなかたちで展開する文学・芸能・美術について、社会の変容にともなう幕藩体制の動揺と関連づけて考察する。	列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、読み取ったことをまとめたりする。
	4 化政文化		<p>① 知識・技能 政治・経済と文化の関係などに着目して、19世紀初期の経済の動向や江戸を中心とする庶民文化の形成について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 近世後期に形成された文化と近代以降の文化との関係性について、学問・教育・出版文化や庶民文化を事例としてつながりを見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	教科書に掲載されているや図版や写真を適切に読み取る。
	第IV部 近代・現代 第11章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱		<p>① 知識・技能 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 日本の開国に関わる諸事象を国際的な視点から考察し、開国のもたらす政治的・経済的・社会的影響について主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。	欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯を整理する。
	2 幕府の滅亡と新政府の発足	3	<p>① 知識・技能 政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 幕末の政治動乱の過程を多角的に考察することを通して、近代の学習へのつながりを主体的に見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。	諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について整理する。
歴史資料と近代・現代の展望 ①五箇条の誓文と国是		2	<p>① 知識・技能 五箇条の誓文の内容を踏まえたうえで、自由民権運動や初期議会、戦時下の学校教育や占領下の日本における同資料のあつかわれ方を読み取っている。</p> <p>② 思考・判断・表現 五箇条の誓文のあつかわれ方から、近代・現代の歴史のどのような流れを読み取ることができるかを考察し、仮説を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 時代を通観する問いを踏まえ、五箇条の誓文のあつかわれ方を通してみえる日本の近代・現代の歴史の展開について、展望しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近代・現代の歴史について仮説を表現して展望する。	五箇条の誓文のあつかわれ方を通してみえる日本の近代・現代の歴史の展開について、諸資料の読み取りをもとに整理する。
②貿易の変遷からみる日本の近代・現代			<p>① 知識・技能 開国以降の日本の貿易において、輸出産業の振興と輸入品の国産化をはかる経済政策がとられた背景を諸資料から読み取っている。</p> <p>② 思考・判断・表現 近代・現代における各時期の貿易の変遷から、その課題が何であったかを考察し、日本の産業の変化について仮説を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 時代を通観する問いを踏まえ、近現代における日本の産業が抱える課題について、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	諸資料から適切に読み取った情報をもとに、近現代の日本の産業の在り方や課題について仮説を表現して展望する。	近現代における日本の産業が抱える課題について、調べてわかったことをまとめたり、発表したりする。

12月	第12章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵	5	<p>① 知識・技能 明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 明治維新や文明開化の風潮が展開する中で生じた様々な課題や、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。	諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを調べ、わかったことをまとめる。
	2 立憲国家の成立	5	<p>① 知識・技能 諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 国内体制を欧米の水準に合わせる事が改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 自由民権運動の展開過程を考察したうえで、日本における立憲政治の導入がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。	日本における立憲政治の導入がもたらした課題を考察し、まとめる。
	第13章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係	6	<p>① 知識・技能 日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 議会在戦争を支持する一方で反戦論が存在したこと、戦争が国民としての自覚や意識の高まりをもたらしたことなどについて多面的・多角的に考察し、根拠を明らかにして表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。	対外的な戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、議論する。
	2 第一次世界大戦と日本	6	<p>① 知識・技能 第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 対外戦争がもたらした国内的・国際的な変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。	第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、まとめる。
	3 ワシントン体制		<p>① 知識・技能 ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 東アジア・太平洋地域における国際協調体制の特質を考察することを通じて、当時の日本外交に与えた影響やその課題を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立などについて、整理する。

1月	第14章 近代の産業と生活 1 近代産業の発展	<p>① 知識・技能 産業の発展の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 地域社会の変化などを踏まえて産業全般の変化がもたらされたことや、労働問題や公害問題の発生について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 産業の発展とそれによる社会問題への対応について課題を見出し、自ら主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。	産業の発展とそれによる社会問題への対応について、調べてわかったことをまとめたりする。
	2 近代文化の発達	<p>① 知識・技能 国家主義的な思想の形成、実証的な学問研究、欧米の科学技術の導入、教育の普及・拡充について、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。</p> <p>② 思考・判断・表現 学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 明治期の文化に関わる政府と国民の動向を考察することを通じて、明治文化の特色を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。	明治文化の特色を主体的に追究し、調べてわかったことをまとめたり、発表したりする。
	3 市民生活の変容と大衆文化	<p>① 知識・技能 学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 マスメディアや出版の発達によって誕生した大衆社会が生み出す課題について、自ら主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。	大衆文化の特色を主体的に追究し、調べてわかったことをまとめたり、発表したりする。
	第15章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代	<p>① 知識・技能 国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向によって次第に緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察したりして、課題を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。	当時の新聞などから世論の動向を読み取ったり、様々な人々の議論について考察する。
2月	2 軍部の台頭	<p>① 知識・技能 政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 満洲事変や国内の国家改造運動の展開を考察することを通じて、軍部の政治的台頭がもたらした課題を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。	満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、整理する。
	3 第二次世界大戦	<p>① 知識・技能 戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 戦争がアメリカやイギリスなどとの戦争に拡大した理由や、日本における全体主義的な国家体制の進展について多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前的惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	戦争の長期化と欧米諸国との外交関係に関わる諸資料から情報を読み取り、整理する。

3月	第16章 占領下の日本 1 占領と改革	<p>① 知識・技能 第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 戦後の諸改革が連合国の対日占領政策にもとづくとともに、戦争に対する日本国民の反省に支えられつつ実施されたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれとともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。	第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取る。
	2 冷戦の開始と講和	<p>① 知識・技能 占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、サンフランシスコ平和条約の調印による日本の主権回復の意義について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 連合国による日本占領機構の特色やその目的を考察することを通じて、戦後改革がどのような社会の枠組みを形成したのか、主体的に課題を追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。	占領政策の転換による日本の政治や経済の変化に関わる諸資料から情報を読み取る。
	第17章 高度成長の時代 1 55年体制	<p>① 知識・技能 保守合同による自由民主党の成立から、経済成長を背景とする安定した保守政権の誕生に至る経緯について諸資料から情報を読み取り、外交・政治・経済を踏まえて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 日ソ共同宣言をはじめとする国交交渉と国際連合への加盟、新安条約・L T貿易・日韓基本条約・沖縄返還問題などの外交事案がもたらした課題を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 55年体制の歴史的意義や、1960年代における保守政権の安定化を考察することを通じて、独立後の国内政治について主体的に課題を見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。	諸資料の読み取りをもとに、外交・政治・経済の変化を読み取る。
	2 経済復興から高度経済成長へ	<p>① 知識・技能 冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。</p> <p>② 思考・判断・表現 日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 高度経済成長がもたらした国内的・国際的な日本の変化を踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。	戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取り、整理する。
	第18章 激動する世界と日本 1 経済大国への道	<p>① 知識・技能 ドル＝ショックや石油危機による世界経済の混乱に対応するため主要先進国首脳会議が開かれる一方、日本は石油危機を乗り越えて経済大国となったことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 日本が石油危機を乗り越えて経済大国となった要因について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、課題を主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	高度成長が終焉し、保守政権が動揺する中、2度にわたる石油危機を乗り越え、経済大国としての道を歩み始めた日本の状況を多面的・多角的に考察する。	第二次世界大戦後の日本の国際社会における様々な取り組みについて、調べてわかったことをまとめたり、発表したりする。

2 冷戦の終結と日本社会の変容	<p>① 知識・技能 冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。	冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、調べてわかったことをまとめたり、発表したりする。	・国際経済や国際政治の動向を捉えるなど、公民科との連携を図る。
現代日本の課題の探究 様々な災害と日本	2 <p>① 知識・技能 過去の災害に関する諸資料を読み解いて得られた情報をもとに、現代日本の課題の形成に関わる歴史を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 過去の災害に関する諸資料と、既習知識と結びつけて多面的・多角的な考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 自ら主題を的確に設定し、資料を適切に解釈したうえで複数の解釈を比較・検討・選択し、十分な論理展開で叙述・表現している。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表・レポート提出	災害を題材に、諸資料から情報を読み取って考察し、それを表現する方法を学ぶ。	過去の災害に関する諸資料を読み解いて得られた情報をもとに、現代日本の課題の形成に関わる歴史を概観し、興味・関心のある出来事を調べ、わかったことをまとめる。	
指導時間数の計	105				

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
世界史探究	3	全日制・普通科・2学年	『詳説世界史』(山川出版社)

科目の目標	(1)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3)世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
	世界史へのまなざし1	1	① 知識・技能 自然環境と人類の関わり、および人類の進化の過程の概要を理解している。 ② 思考・判断・表現 長期にわたる地球気温の変化を示す統計資料や「地球カレンダー」などの資料をもとに、地球の自然環境が直面している危機およびその克服へ向けた取り組みを、多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 自然環境と人類の進化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①人類の誕生を地球46億年の歴史のなかに位置づけて考察する。 ②自然環境と人類の関わりを概要を理解する。 ③人類の進化の過程の概要を理解する。	教科書に掲載されている進化図や道具図、洞穴絵画などの図版や写真を適切に活用する。	
	世界史へのまなざし2	1	① 知識・技能 今日の社会で一般的とされていることの多くが歴史的に形成されたもので、地域や時代によっては一般的ではないことを理解している。 ② 思考・判断・表現 日常生活のなかに世界史とつながっているモノを見出し、自分自身と世界のつながりを多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日常生活と世界史のつながりについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①砂糖とコーヒーを事例として、自らと世界史のつながりについて考察する。 ②余暇や家族を事例として、歴史的に形成されてきた概念が日常生活のなかにあることを理解する。 ③余暇や家族を事例として、モノの見方や考え方と社会の仕組みとの関係を考察する。	身近なものの歴史を調べ、結果をレポートなどにまとめたり、発表したりする。	
	第I部を学ぶ前に	1	① 知識・技能 資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けている。 ② 思考・判断・表現 文明の形成に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、諸地域の歴史的特質を読み解く観点について考察し、問いを表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 古代文明や諸地域の歴史的特質について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①西アジアの身分・階級・王権・宗教に関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする。 ②西アジアにおいて多様な身分・階級が生まれた背景および宗教と王権の関係について考察する。	教科書に掲載されているや図版や写真を適切に読み取る。	
	第1章 文明の成立と古代文明の特質 1 文明の誕生		① 知識・技能 都市の成立や文字の使用など、古代文明に共通する歴史的特質を理解している。 ② 思考・判断・表現 壁画や粘土板などの資料をもとに、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 文明の誕生について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①自然環境の変化と農耕・牧畜の開始との関係について考察し、文明誕生の基礎について理解する。 ②おもな古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。	人類の進化の過程、農耕・牧畜の開始の意義などを、多角的に考察し、文章にまとめる。	

4月	2 古代オリエント文明とその周辺	<p>① 知識・技能 オリエントの大半が乾燥地帯であること、そのなかで大河流域のメソポタミアとエジプトで灌漑農業をもとにいち早く文明化したことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ハンムラビ法典や『旧約聖書』などの資料をもとに、当時の社会の特徴や世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 オリエント文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①オリエントの風土と、その文明の歴史的特質の関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②都市国家に富や権力が集まった理由を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③メソポタミア文明が今日に残した文化的遺産を理解する。</p> <p>④エジプト王国が長期にわたって安定した支配を続けられた理由を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤シリア・パレスチナ地方で多くの民族が興亡を繰り返した背景を理解する。</p> <p>⑥クレタ文明とミケーネ文明を比較し、そのあいだの性格の違いを理解する。</p> <p>⑦アッシリアがオリエントをはじめて統一することができた背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	六十進法や暦など、オリエントの古代文明の現代にまで与えている影響の大きさを考察し、文章にまとめる。	
	3 南アジアの古代文明	<p>① 知識・技能 南アジアが南北に大きく二分されること、それぞれの風土に適合した生活が古くから営まれていたことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ヴァルナ制やジャーティ集団の成立をもとに、アーリヤ人社会に富や地位の差が生まれていった背景や原因を考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 南アジアの古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①南アジアの多様性を生み出した地理的環境について理解する。</p> <p>②南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。</p> <p>③アーリヤ人の進出が南アジアにもたらした変化について多面的・多角的に考察し表現する。</p>	教科書に掲載されているインダス文明とアーリヤ人の進出を示した地図やインド諸王朝の領域図、「海の道」とおもな産物を示した地図、遺跡や仏像などの写真を読み取る。	
	4 中国の古代文明	<p>① 知識・技能 東アジア各地の風土が、それぞれの地で多様な生業とそれに基づく先史文化を生み出したこと、各地で人々の移動や交流がおこなわれたことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 青銅器や獣骨など考古学的資料や『春秋左氏伝』などの資料をもとに、当時の政治や支配のあり方を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 中国の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①東アジアでは、気候の異なる地域が混在していたことを理解し、それぞれの気候が各地の生業などに与えた影響を考察し表現する。</p> <p>②殷と周の支配形態を比較し、共通点と相違点を理解する。</p> <p>③春秋時代と戦国時代を比較し、とくにそれぞれの秩序について違いを見出す。</p> <p>④戦国時代の社会において、鉄器の普及がおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	農耕を中心とする東アジアの社会や生活、文化や思想に関する資料を収集し、考察した結果を適切に表現する。	地理学習の気候の分布などとの関連から学習を深める。
	5 南北アメリカ文明	<p>① 知識・技能 南北に長く広がるアメリカ大陸の各地で、それぞれの地域の環境に適應した文化・文明が発展したことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 南北アメリカ文明に共通する特徴、とくにユーラシアやアフリカの古代文明とは異なるものを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 南北アメリカ文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①北米と中南米の先住民社会を比較し、共通点と相違点を理解する。</p> <p>②中南米にさまざまな先住民文明が栄えたことを理解し、そこでの支配の在り方を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	アメリカ先住民の農耕文明の特色と、マヤ文明などの都市文明の独自性を考察し、表などにまとめる。	
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 1 中央ユーラシア——草原とオアシスの世界	<p>① 知識・技能 中央ユーラシアの厳しい環境に適應した遊牧民やオアシス民の生活のありさまや、彼らの周辺の諸勢力との関係を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 風土を示す写真や『史記』匈奴列伝などの資料をもとに、中央ユーラシアの人々の動向が、世界の歴史に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 中央ユーラシアの動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①中央ユーラシアの人々が営んでいた生活と風土との関係を理解する。</p> <p>②騎馬遊牧民が強大な国家を築くことができた理由を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③遊牧国家の興亡がユーラシア大陸の東西にもたらした変動を理解する。</p> <p>④オアシス民と遊牧民の関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	内陸アジア東部に進出した匈奴を代表とする騎馬遊牧民の動向を、その文化や軍事力と関連付けて考察し、文章にまとめる。	

	2 秦・漢帝国	<p>① 知識・技能 秦・漢といった統一国家の支配体制について、それまでの春秋・戦国時代と比較したうえで理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 兵馬俑や青銅貨幣など考古学的資料や『塩鉄論』禁耕などの資料をもとに、秦・漢の時代に生じた地域間の結びつきの変化や、統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 秦・漢帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。</p> <p>②漢の支配体制の変遷を理解する。</p> <p>③統一国家の出現が社会や文化に与えた影響を、多面的・多角的に考察し表現する。</p>	周辺諸国との冊封関係などから、中国を中心とする東アジア世界の骨格が形成されたことを考察し、文章にまとめる。	
	3 中国の動乱と変容	<p>① 知識・技能 魏晉南北朝の動乱がどのように展開したのかについて、遊牧民族との関わりもふまえたうえで理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 「女史箴図」などの図像資料や『顔氏家訓』などの資料をもとに、魏晉南北朝時代の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 魏晉南北朝の動乱について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①遊牧民族の動きと魏晉南北朝の動乱との関係について理解する。</p> <p>②魏晉南北朝時代に仏教や道教が力を持つようになった要因や背景を、多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③魏晉南北朝時代の中国の情勢が、朝鮮や日本に与えた影響について理解する。</p>	魏晉南北朝時代の社会経済の変化、日本をはじめとする周辺国家の形成を中国史全体の流れと関連付けて考察し、文章にまとめる。	
	4 東アジア文化圏の形成	<p>① 知識・技能 隋・唐の社会や制度、支配体制について、それまでの時代や他の地域との違いや、時期ごとの変化をふまえたうえで理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 壁画などの図像資料や『旧唐書』輿服志などの資料をもとに、隋・唐の社会の特徴や近隣諸国への影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 東アジア文化圏の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①唐の勢力圏の広がりを理解する。</p> <p>②唐代初期の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③唐の制度や文化が近隣諸国に与えた影響について理解する。</p> <p>④安史の乱前後の唐の制度や社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤突厥・ウイグルと隋・唐の関係を理解する。</p> <p>⑥ソグド人の中央ユーラシアや東アジアにおける役割について理解する。</p>	唐王朝が名実ともに東アジア文化圏を形成したことを、その築き上げた整然とした国家制度や文化から判断し、文章にまとめる	
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 1 仏教の成立と南アジアの統一国家	<p>① 知識・技能 南アジアで生まれたさまざまな宗教が、南アジアの社会や周辺諸地域へ与えた影響を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 インド洋航海図（地図）や『エリュトラー海案内記』などの資料をもとに、インド洋交易の広がりを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 南アジアで生まれた諸宗教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①仏教やジャイナ教などの新たな宗教に共通する点について理解する。</p> <p>②南アジア最初の統一王朝であるマウリヤ朝のもとの仏教の発展について理解する。</p> <p>③クシャーナ朝と周辺諸地域との関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④「海の道」の交易における南インドの役割を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	インドや東南アジアなど諸地域世界のイスラーム化の影響を、現代の国際政治・社会の視点から考察し、文章にまとめる。	
	2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着	<p>① 知識・技能 インド古典文化の黄金期とされるグプタ朝において、文化がどのように展開したのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 それまで仏教やジャイナ教が盛んだったことをふまえたうえで、ヒンドゥー教が社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 インド古典文化とヒンドゥー教について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。</p> <p>②8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。</p> <p>③ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	教科書に掲載されているや図版や写真を適切に読み取る。	
5月	3 東南アジア世界の形成と展開	<p>① 知識・技能 東南アジアの大陸部と諸島部において、どのように国家が形成されたのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 東南アジアの風土や地形をふまえたうえで、南アジアや中国との関係およびその変遷を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 東南アジアの諸国家について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①グプタ朝における宗教や文化の展開を理解する。</p> <p>②8～10世紀の諸勢力が割拠した時代における各地の政権の政策を理解する。</p> <p>③ヒンドゥー教が南アジアの社会に根づいていった背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	教科書に掲載されているや図版や写真を適切に読み取る。	

<p>第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成</p> <p>1 イラン諸国家の興亡とイラン文明</p>	<p>① 知識・技能 アケメネス朝、パルティア、ササン朝といったイラン諸国家がそれぞれどのように興亡したのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ササン朝と法隆寺の「獅子狩」図案などの資料をもとに、イラン文明が世界の諸地域に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 イラン文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①アケメネス朝が広大な領域に中央集権的支配を築ことができた背景や要因を理解している。</p> <p>②パルティアとササン朝の繁栄の背景や要因を理解する。</p> <p>③パルティアとササン朝が東西の文明の間で担った役割を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>イラン文明について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
<p>2 ギリシア人の都市国家</p>	<p>① 知識・技能 アテネにおいてどのような経緯で民主政が出現したのか、またギリシア文化にはどのような特徴があるのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 オストラコンなどの考古学的資料や「ペリクレスの演説」などの資料をもとに、ギリシアの人の社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 古代ギリシアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①ポリスの特徴およびそこでの人々の生活について、オリエントの都市国家と比較したうえで理解する。</p> <p>②スパルタが軍国主義をしいた理由を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③民主政発達の経緯および現代の民主主義との相違点について理解する。</p> <p>④ギリシアの諸ポリスがマケドニアに敗れた要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤ヘレニズム時代の歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑥ギリシア文明が近代ヨーロッパにもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>古代ギリシアについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
<p>3 ローマと地中海支配</p>	<p>① 知識・技能 ローマがどのような経緯で都市国家から帝国にいたったのか、またローマ人の文化にはどのような特徴があるのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 モザイク画などの画像資料や「神皇アウグストゥス業績録」などの資料をもとに、ローマが地中海世界を統一し、それを維持できた理由を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 古代ローマについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①ローマ共和政の特徴について、ギリシア民主政と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②地中海における領土拡大がローマ共和政に与えた影響を理解する。</p> <p>③ローマの内乱の発生から終息までの経緯を理解する。</p> <p>④「ローマの平和」が地中海世界に与えた影響を理解する。</p> <p>⑤ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑥ローマ帝国の文化的意義を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>古代ローマについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
<p>4 キリスト教の成立と発展</p>	<p>① 知識・技能 勢力を拡大させていたキリスト教をローマ帝国がどのように利用しようとしたのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 当時の地中海世界の状況をふまえたうえで、キリスト教が急速に広がった理由を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 キリスト教の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①キリスト教の成立の経緯を理解している。</p> <p>②ローマ帝国によるキリスト教への対応を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>キリスト教について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
<p>第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成</p> <p>1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立</p>	<p>① 知識・技能 イスラーム教がどのように成立し、短期間で勢力を拡大していったのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 イスラーム政権の拡大を示す地図やアラベスクなどの画像資料などをもとに、イスラーム教の成立が西アジアや北アフリカの社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 イスラーム教の成立と拡大について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①アラブ＝ムスリム軍による大征服の展開を理解する。</p> <p>②ウマイヤ朝の領域的な広がりとその支配の特徴を理解する。</p> <p>③アッバース朝成立の背景とその統治の特徴を理解する。</p> <p>④イスラーム文化の成立の経緯を理解し、またその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>イスラーム教について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	

6月	2 ヨーロッパ世界の形成	4	<p>① 知識・技能 西ヨーロッパと東ヨーロッパがそれぞれどのようにして独自の世界を形づくっていったのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 荘園の構造を示す概念図や『ガルベール＝ド＝ブリュージュの日記』などの資料をもとに、西ヨーロッパに成立した封建社会の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①ヨーロッパの自然条件と大規模な人の移動との関係について理解する。</p> <p>②ビザンツ帝国の繁栄について、同時期の西ヨーロッパと比較したうえで理解する。</p> <p>③ローマ教会とフランク王国の関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④カールの戴冠が世界の歴史において持つ意義について理解する。</p> <p>⑤ノルマン人が西ヨーロッパ世界において果たした歴史的役割について理解する。</p> <p>⑥西ヨーロッパに特有の封建社会の仕組みについて理解する。</p>	修道院運動やイスラム文明の影響など、中世ヨーロッパ文化を多面的に考察し、文章にまとめる。
	第Ⅱ部を学ぶ前に	1	<p>① 知識・技能 資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けている。</p> <p>② 思考・判断・表現 諸地域の交流・再編に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の交流・再編を読み解く観点について考察し、問いを表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 諸地域の交流・再編について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①13世紀におこなわれていた交易に関する資料から、情報を読み取ったりまとめたりする。</p> <p>②13世紀において諸地域でおこなわれていた交易の特徴について考察する。</p>	地域の交流・再編について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	第6章 イスラム教の伝播と西アジアの動向 1 イスラム教の諸地域への伝播	2	<p>① 知識・技能 中央アジア・南アジア・東南アジア・アフリカの各地でどのようにイスラム化が進んだのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 『トルコ語・アラビア語辞典』序文などの資料をもとに、イスラム教の伝播・拡大においてトルコ人の果たした役割を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 イスラム教の各地への伝播について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①イスラム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。</p> <p>②南アジアにおいてイスラム教が受け入れられていった経緯を理解している。</p> <p>③東南アジアにおいてイスラム化が進んだ背景について考察し表現している。</p> <p>④アフリカにおいてイスラム化が進んだ要因を考察し表現している。</p>	イスラム教の各地への伝播について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	2 西アジアの動向		<p>① 知識・技能 アッパース朝衰退後の西アジアにおいて、政治的統一は失われたが、経済・文化の交流を通じてイスラム教徒（ムスリム）の連帯が維持されたことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 トルコ人の進出・十字軍遠征・モンゴル勢力の襲来といった外圧が、西アジアの社会へおよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 変動する西アジアの情勢について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①トルコ人の進出が西アジアにもたらした変化について考察し表現している。</p> <p>②十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。</p> <p>③マムルーク朝のもとのカイロの繁栄がどのように実現したのか理解している。</p> <p>④イベリア半島におけるイスラム勢力の興亡について理解している。</p>	変動する西アジアの情勢について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 1 西ヨーロッパの封建社会とその展開	<p>① 知識・技能 中世の西ヨーロッパで発達した商業の活動状況とその特徴について、従来との比較をふまえて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 中世都市の景観を示す画像資料や当時の交通路を示す地図をもとに、十字軍が西ヨーロッパに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 中世の西ヨーロッパについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①中世の西ヨーロッパにおいてローマ＝カトリック教会が普遍的な権威を持つにいたった背景を理解する。</p> <p>②十字軍の遠征の経緯を理解し、それが社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③西ヨーロッパで商業が盛んになった理由を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④中世の都市が獲得した政治的地位や、そこでの人々の暮らしについて理解する。</p>	中世の西ヨーロッパについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	
2 東ヨーロッパ世界の展開	<p>① 知識・技能 ビザンツ帝国の衰退の過程と、その周辺のスラヴ人および非スラヴ人の動向について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 西ヨーロッパやイスラム勢力との関係をふまえたうえで、ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 東ヨーロッパ世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①ビザンツ帝国の衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②ビザンツ文化が果たした世界史的な意義について理解する。</p> <p>③スラヴ人が各地域で自立していった経緯を理解する。</p>	東ヨーロッパについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。		

7月	3 西ヨーロッパ世界の変容	5	<p>① 知識・技能 封建社会の衰退と教皇権の衰退の過程および中央集権国家に向けた西ヨーロッパ各国の動きを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 大憲章や金印勅書などの資料をもとに、中央集権国家の形成に向けた各国の動きの共通点と相違点を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 西ヨーロッパ世界の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②教皇権の衰退と王権の伸張の関係について理解する。</p> <p>③各国における、身分制議会の成立と王権の伸張の関係を理解する。</p> <p>④百年戦争によるイギリスとフランスの変容を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤スペインで国王による中央集権化が早く進んだのはなぜか理解する。</p> <p>⑥神聖ローマ帝国で中央集権が進まなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	西ヨーロッパについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	4 西ヨーロッパの中世文化		<p>① 知識・技能 中世の西ヨーロッパの文化について、キリスト教の影響が大きかったことを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 大聖堂の写真や大学の講義風景を描いた図像資料などをもとに、中世の西ヨーロッパの文化的な特徴を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 中世の西ヨーロッパの文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①中世の西ヨーロッパにおいてキリスト教が果たした文化的役割を理解する。</p> <p>②西ヨーロッパにおける大学の成立過程を理解する。</p> <p>③中世の西ヨーロッパの美術や文学と、その時代の社会との関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	中世の西ヨーロッパについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	第8章 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 1 アジア諸地域の自立化と宋		<p>① 知識・技能 10～12世紀の東アジアの情勢について、東アジア内の交流と再編を中心に理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 「清明上河図」などの図像資料や荘紳『鶏肋編』などの資料をもとに、宋代の経済発展が社会に引きおこした変化を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 10～12世紀の東アジアについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①10世紀前半に東アジアで政権の交替があいついだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。</p> <p>②宋の対外関係の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③宋における社会や経済の発展の様子を理解する。</p> <p>④宋代の文化の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	10～12世紀の東アジアについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	2 モンゴルの大帝国	3	<p>① 知識・技能 モンゴル帝国がどのように成立し、解体したのか、そして帝国の支配は社会にどのような影響を与えたのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 モンゴル帝国の最大領域を示す地図や「混一疆理歴代国都之図」などの図像資料をもとに、モンゴル帝国の成立世界史的な意義を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 モンゴル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①モンゴル帝国が成立した背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②モンゴル帝国による支配が東アジアにおよぼした影響について理解する。</p> <p>③モンゴル帝国時代の東西交流の新鮮さを多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④モンゴル帝国解体の要因を理解する。</p> <p>⑤ティムール朝がモンゴル帝国から受け継いだものを多面的・多角的に考察し表現する。</p>	モンゴル帝国について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	第9章 大交易・大交流の時代 1 アジア交易世界の興隆	3	<p>① 知識・技能 「世界の一体化」が始まった時期のアジアにおいて、どのような動きがあったのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 「南蛮屏風」などの図像資料や鄭暁『今言』などの資料をもとに、この時期のアジア内およびアジアと世界の交流を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 アジア交易世界について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①モンゴル帝国解体後のアジア各地の状況について理解する。</p> <p>②明朝初期の国内統治の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③明との朝貢関係が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④世界的な商業の発展が明の朝貢体制におよぼした影響を理解する。</p> <p>⑤明代後期の中国の社会・経済・文化と世界の商業の活発化との関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑥16世紀の東南アジアで台頭した新興勢力の共通点を理解する。</p>	アジア交易世界について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
2 ヨーロッパの海洋進出とア		<p>① 知識・技能 ヨーロッパの海洋進出について、その動機や背景、経緯を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ヨーロッパ人による航海と探検を示す地図やラス＝カサス『インディアスの破壊についての簡潔な報告』などの資料をもとに、ヨーロッパの海洋進出が諸地域にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②ヨーロッパの人々の進出がアジアにもたらした影響や変化を理解する。</p> <p>③中南米の先住民が短期間でスペイン人に征服された要因を理解する。</p> <p>④16世紀に一体化が始まった「世界」の性格を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の変容について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	

9月	<p>第10章 アジアの諸帝国の繁栄</p> <p>1 オスマン帝国とサファヴィー朝</p>	<p>① 知識・技能 オスマン帝国とサファヴィー朝がどのように支配を確立し、統治をおこなっていたのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 オスマン帝国とサファヴィー朝を比較したうえで、それぞれの特徴や両者の関係を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 オスマン帝国とサファヴィー朝について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見いだして、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②オスマン帝国の勢力拡大の経緯を理解する。 ③オスマン帝国の統治が当時の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④サファヴィー朝の支配がイラン社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>オスマン帝国とサファヴィー朝について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>
	<p>2 ムガル帝国の興隆</p>	<p>① 知識・技能 ムガル帝国において非イスラーム教徒に対する施策がどのように変化したのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ムガル帝国時代の細密画などの図像資料や領域を示す地図などをもとに、ムガル帝国の興隆と衰退が南アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ムガル帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①ムガル帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 ②ムガル帝国におけるヒンドゥー教徒とイスラーム教徒の関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>ムガル帝国について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>
	<p>3 清代の中国と隣接諸地域</p>	<p>① 知識・技能 清朝の基礎が築かれた経緯や清代の政治と社会の特徴および周辺諸国との関係について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 皇帝を描いた図像資料や『康熙帝伝』などの資料をもとに、清代の皇帝と従来の中国王朝の皇帝との違いを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 清代の中国と隣接諸地域について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①清朝の領土に組み込まれた民族と、彼らがどのように統治されていたかを理解する。 ②清代における周辺諸国と中国との関係について、明代と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ③漢人の社会や文化に対して清朝がどのような態度をとったのかを理解する。</p>	<p>清代の中国と隣接諸地域について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>
	<p>第11章 近世ヨーロッパ世界の動向</p> <p>1 ルネサンス</p>	<p>① 知識・技能 ルネサンスの特徴や広がり、それが後世に与えた影響を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 美術作品の図像などの資料をもとに、ルネサンスの新しいさと古さを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ルネサンスについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①ルネサンスの担い手や彼らの動機について理解する。 ②ルネサンスを支えた精神の特徴を理解し、それが後世に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③多方面におよぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。</p>	<p>ルネサンスについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>
	<p>2 宗教改革</p>	<p>① 知識・技能 新しい宗派の成立過程やその後のヨーロッパの宗教分布を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 『九十五カ条の論題』や『キリスト者の自由』などの資料をもとに、宗教改革の動きが広まった要因を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 宗教改革について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①それまでの教会改革の試みと16世紀の宗教改革の違いを多面的・多角的に考察し表現する。 ②カルヴァンの教えの特徴やイギリス国教会の成立の意義を理解する。 ③カトリック改革が持つ世界的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>宗教改革について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>
	<p>3 主権国家体制の成立</p>	<p>① 知識・技能 主権国家および主権国家体制の成立について、それまでのヨーロッパの状況と比較したうえで理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ウェストファリア条約の内容や当時の戦争の様子を示す図像資料をもとに、主権国家体制の成立と戦争の関係を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 主権国家体制の成立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①主権国家体制の成立の経緯を多面的・多角的に考察し表現する。 ②16世紀後半のスペイン・イギリス・フランスの関係を理解する。 ③アウクスブルクの和議とウェストファリア条約の異なる点を理解する。</p>	<p>主権国家体制の成立について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>

10月	4 オランダ・イギリス・フランスの台頭	7	<p>① 知識・技能 オランダ・イギリス・フランスがそれぞれ持った有利な点や課題を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 覇権争いの経過や「権利の章典」などの資料をもとに、イギリスが覇権を握るに至った要因を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 オランダ・イギリス・フランスの覇権争いについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①17世紀におけるオランダの経済的な覇権獲得および衰退の要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②17世紀における2つのイギリスの革命について、国際的な状況もふまえて理解する。</p> <p>③近世フランスの強みと課題を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④イギリスとフランスの覇権争いがグローバルな戦いになった背景を理解する。</p>	各国の覇権争いについて、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	5 北欧・東欧の動向		<p>① 知識・技能 北欧・東欧の各国の関係の推移や、それぞれにおける改革の内容を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ロシア・プロイセン・オーストリアの状況を比較したうえで、啓蒙専制主義による改革が各国におよぼした影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 北欧・東欧の動向について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①主権国家体制においてポーランドとスウェーデンが占めた位置を理解する。</p> <p>②ロシアが主権国家体制に参入していった経緯を理解する。</p> <p>③プロイセンとオーストリアの関係の推移を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④啓蒙専制主義の特徴を理解する。</p>	各国の動向について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	6 科学革命と啓蒙思想		<p>① 知識・技能 科学革命と呼ばれる一連の変化がどのような背景で起こったのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ルネサンスとの比較をふまえて、科学革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 科学革命と啓蒙思想について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①科学革命の成果について、自然法則の発見以外にも着目して理解する。</p> <p>②科学革命がヨーロッパ人に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③従来の学知の展開と比較したうえで、「実用の学」としての啓蒙思想の意義を理解する。</p>	科学革命について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	第三部を学ぶ前に	1	<p>① 知識・技能 資料から情報を読み取ったり、まとめたりする技能を身に付けている。</p> <p>② 思考・判断・表現 諸地域の結合・変容に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸地域の結合・変容を読み解く観点について考察し、問いを表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 諸地域の結合・変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①メディアの発達に関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする。</p> <p>②メディアが人々の生活や社会におよぼした影響を考察する。</p>	諸地域の結合・変容について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	第12章 産業革命と環大西洋革命	1 産業革命	<p>① 知識・技能 産業革命が18世紀後半のイギリスから始まった背景や技術革新の展開を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 当時の工場の様子を描いた図像資料や都市の人口を示す統計をもとに、産業革命が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 イギリス産業革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①海外貿易が近世ヨーロッパ経済の動向に与えた影響を理解する。</p> <p>②イギリス産業革命が世界経済や社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③16世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解する。</p>	イギリス産業革命について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
	2 アメリカ合衆国の独立と発展		<p>① 知識・技能 アメリカ合衆国がどのような歴史的経緯をたどって独立したのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 アメリカ独立宣言や「権利の章典」(第11章4節)などの資料をもとに、アメリカ合衆国独立の独自性を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 アメリカ合衆国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①北米大陸に建設されたヨーロッパ諸国の植民地の地理的分布とその推移を理解する。</p> <p>②独立直後と今日のアメリカ合衆国を比較し、共通点と相違点を理解する。</p> <p>③アメリカ合衆国の独立がヨーロッパ諸国に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	アメリカ合衆国の独立について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。

<p>3 フランス革命とナポレオンの支配</p>	<p>① 知識・技能 フランス革命が起こった要因やナポレオンが台頭した背景を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 「旧体制」の風刺画などの図像資料や人権宣言などの資料をもとに、フランス革命において「国民」を主役とする社会が創出されたことについて、多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 フランス革命とナポレオンについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①革命中のフランス国家体制の変遷や革命が諸外国に与えた影響を理解する。 ②人権宣言とアメリカ独立宣言を比較し、共通点と相違点を理解する。 ③ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>フランス革命について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
<p>4 中南米諸国の独立</p>	<p>① 知識・技能 中南米諸国の独立がどのような経緯をたどって実現したのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 中南米諸国の独立年を示す地図などをもとに、ヨーロッパ情勢をふまえたうえで、短期間に多くの独立が達成された要因を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 中南米諸国の独立について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①ハイチ革命の特殊性について、環大西洋革命の他の事例と比較したうえで理解する。 ②中南米諸国の独立運動に共通する点を理解する。 ③中南米諸国の独立運動とヨーロッパ情勢との関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>中南米諸国の独立について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
<p>第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成</p> <p>1 ウィーン体制とヨーロッパの政治・社会の変動</p>	<p>① 知識・技能 19世紀前半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、ウィーン体制や1848年革命、さまざまな主義主張の特徴とあわせて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ウィーン会議後のヨーロッパを示す地図や会議を風刺した図像資料などをもとに、ウィーン会議がヨーロッパ各地の人々に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ウィーン体制について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①ウィーン会議の参加者たちがどのような国際秩序をめざしていたかを理解する。 ②ウィーン体制を動揺させた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 ③19世紀イギリスの政治変革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。 ④イギリス・フランス・ドイツにおける社会主義思想をそれぞれ比較したうえで理解する。 ⑤1848年革命の展開と影響について、ヨーロッパ内の地域差に着目して多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>教科書に掲載されているウィーン会議後のヨーロッパ諸国の地図や絵画・図版などを読み取る。</p>	
<p>2 列強体制の動揺とヨーロッパの再編成</p>	<p>① 知識・技能 19世紀後半のヨーロッパ情勢がどのように推移したのかを、時代的な背景や各国の共通点・相違点もふまえて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 鉄道距離の推移を示す統計やイタリアとドイツの統一を示す地図などをもとに、19世紀後半にヨーロッパの再編成が進んだ背景を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 19世紀後半のヨーロッパの再編成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①クリミア戦争におけるロシア・イギリス・フランスのそれぞれの思惑を理解する。 ②19世紀後半におけるロシア・イギリス・フランスの諸改革の相違点を理解する。 ③ドイツとイタリアの国民国家成立を比較し、共通点と相違点を理解する。 ④ドイツ帝国におけるビスマルクの諸政策の動機を多面的・多角的に考察し表現している。 ⑤北欧諸国の安定性について、周辺諸国と比較したうえで多面的・多角的に考察し表現する。 ⑥19世紀後半にさまざまな国際運動が進化した背景を理解する。</p>	<p>クリミア戦争以後の国際対立とビスマルク外交に関して、のちの第一次世界大戦に関連付けて考察し、文章にまとめる。</p>	<p>7</p>
<p>3 アメリカ合衆国の発展</p>	<p>① 知識・技能 南北戦争につながったアメリカ合衆国内の対立構造やその後の展開を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 アメリカ合衆国の領土拡大を示す地図や大陸横断鉄道開通の写真などの図像資料をもとに、アメリカ合衆国の急速な発展の要因を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 アメリカ合衆国の発展について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①領土拡大がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②南北戦争において北部が勝利した要因を理解する。 ③アメリカ合衆国の歴史において移民が持つ意味を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>アメリカ先住民や奴隷解放後の黒人への抑圧を、現在の人種・民族問題と関連付けて考察し、文章にまとめる。</p>	

11月	4 19世紀欧米文化の展開と市民文化の繁栄	<p>① 知識・技能 19世紀欧米文化の展開と近代諸科学の発展の経緯を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 19世紀欧米文化のさまざまな事例をもとに、この時期の文化と現代の文化とのつながりを多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 19世紀欧米の文化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①19世紀欧米文化における担い手や展開された場（空間）の推移を理解する。</p> <p>②国民文化と国民国家形成との関係を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③近代諸科学の発展の要因とその成果が広まった背景を理解する。</p> <p>④大都市文化が都市の景観に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	19世紀の欧米文化について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	
	第14章 アジア諸地域の動揺 1 西アジア地域の変容	<p>① 知識・技能 オスマン帝国・イラン・アフガニスタンにおける動揺や改革の推移を、ヨーロッパ列強との関係ともあわせて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 マムルークの掃蕩を表した図像資料やオスマン帝国憲法などの資料をもとに、この時期のアジア各地での変化や改革について多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 西アジアの変容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①オスマン帝国の動揺の要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②オスマン帝国の列強への経済的な従属化の経緯を理解する。</p> <p>③オスマン帝国の改革の成果と課題を理解する。</p> <p>④ロシアとイギリスの競合関係が西アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	西アジアの変容について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	
	2 南アジア・東南アジアの植民地化	<p>① 知識・技能 ヨーロッパ各国による南アジアと東南アジアの植民地化の経緯を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 東南アジアの植民地化の地図やゴムのプランテーションを示した図像資料をもとに、ヨーロッパ各国の進出の経緯をふまえ、南アジアと東南アジアにおける植民地化と世界経済の関係を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 南アジア・東南アジアの植民地化について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①ヨーロッパ各国の東インド会社が南アジアでおこなった活動の状況を理解する。</p> <p>②イギリス東インド会社の機能の変化を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③東インド会社の統治と比較したうえで、イギリスによるインドの直接統治の特徴を理解する。</p> <p>④東南アジアの植民地化の経緯を理解する。</p> <p>⑤タイが植民地化されなかった要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	各国の植民地化について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	
12月	3 東アジアの激動	<p>① 知識・技能 欧米諸国の進出の経緯と東アジア諸国の改革の試みの成果や課題を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 文字資料「マカートニーの1794年1月の日記」やアヘン戦争を描いた図像資料、東アジアの開港場を示した地図などをもとに、この時期の東アジア国際秩序の変容について多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 東アジアの激動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②中国の開港の背景および開港の進展の経緯を理解する。</p> <p>③清朝による国内秩序の再建の試みについて、その成果と課題を理解する。</p> <p>④東アジア各地の開港および貿易の拡大がもたらした影響を理解する。</p> <p>⑤欧米諸国の進出と日本の台頭が東アジア諸国間の関係に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	東アジアの変動について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	
	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 1 第2次産業革命と帝国主義	<p>① 知識・技能 第2次産業革命が社会に与えた影響や帝国主義時代の欧米列強の国内情勢および植民地拡大の経緯を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 国際情勢を風刺した図像資料や「白人の責務」などの資料をもとに、欧米列強が植民地や勢力圏の拡大を争った背景を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 第2次産業革命と帝国主義について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①新しく生まれた電気・化学製品が人々の日常生活に与えた影響を理解する。</p> <p>②帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③各列強が抱えていた国内事情とその課題を理解する。</p> <p>④この時期に国際労働運動が再燃した背景とその特徴を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	19世紀後半から欧米で進展した第2次産業革命と、各国の帝国主義の動きを関連付けて考察し、文章にまとめる。	
	2 列強の世界分割と列強体制の二分化	<p>① 知識・技能 列強による世界分割がどのように進められたかや列強体制の変化について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 列強の植民地・勢力圏を示した地図や帝国主義を風刺した図像資料をもとに、列強による世界分割が各地に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 列強の世界分割について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①列強の植民地化によるアフリカの社会や文化の変容を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②列強による太平洋地域の植民地化の経緯を理解する。</p> <p>③独立後のブラジル・アルゼンチン・メキシコがたどった道を比較し、共通点と相違点を理解する。</p> <p>④20世紀初頭における列強体制の枠組みの変化を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	経済力と軍事力を背景とする欧米列強の支配による世界の一体化が、世界各地の社会の変容に与えた影響について考察し、文章にまとめる。	

3 アジア諸国の変革と民族運動	<p>① 知識・技能 アジア各地における改革や民族運動がどのように展開し、いかなる結果をもたらしたのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 アジア各地の情勢や梁啓超「中国積弱の根源について」などの資料をもとに、アジア各地の変革や民族運動の背景を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 アジア諸国の変革と民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①日清戦争と日露戦争が中国および東アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②改革をおこなったにもかかわらず清朝が倒れた原因を理解する。</p> <p>③インドにおける民族運動の社会的背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>④東南アジア各地の民族運動に共通する傾向を理解する。</p> <p>⑤西アジア各地における民族運動の共通点を理解する。</p>	アジア諸国の変革と民族運動について、興味・関心や疑問、追及してみたいことなどを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	
<p>第16章 第一次世界大戦と世界の変容</p> <p>1 第一次世界大戦とロシア革命</p>	<p>① 知識・技能 第一次世界大戦とロシア革命がどのように展開したのかを、戦時外交や総力戦の特徴、大戦のもたらした結果などとあわせて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 塹壕戦やさまざまな新兵器、軍需工場働く女性の図などの第一次世界大戦に関する図像資料および「平和に関する布告」などの資料をもとに、第一次世界大戦とロシア革命が世界にもたらした変容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 第一次世界大戦とロシア革命について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①バルカン半島で緊張が高まった背景を理解する。</p> <p>②歴史上はじめての世界大戦が勃発した原因を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③戦時外交および総力戦の特徴を理解する。</p> <p>④第一次世界大戦がもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤ロシア革命の経緯を理解し、その歴史的意義を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	第一次世界大戦の原因や性格について、これまでの戦争との違いを多角的に考察し、文章にまとめる。	
2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国	<p>① 知識・技能 第一次世界大戦後に形成された国際秩序の内容やその特徴、その後の国際関係の変化について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 各国の国内情勢を写した図像資料や「十四カ条」などの資料をもとに、1920年代の欧米各国における変容を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。</p> <p>②西欧諸国における第一次世界大戦後の展開を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③国際協調をめぐる1920年代の前半と後半の変化を理解する。</p> <p>④イタリアにおけるファシズム体制成立の背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑤東欧・バルカン半島の新興国が直面した困難と、それに対応すべく築かれた体制を理解する。</p> <p>⑥1920年代のソ連とアメリカのそれぞれの国内情勢を理解する。</p>	ヴェルサイユ・ワシントン両体制のもたらした緊張関係や矛盾を多角的に考察し、表などにまとめる。	7
3 アジア・アフリカ地域の民族運動	<p>① 知識・技能 第一次世界大戦がアジア・アフリカの各地に与えた影響を理解する。</p> <p>② 思考・判断・表現 民族運動の様子を写した図像資料や胡適「文学革命についての書簡」などの資料をもとに、アジア・アフリカ各地の民族運動の特徴や共通性を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 アジア・アフリカ地域の民族運動について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①第一次世界大戦が東アジアの政治・経済・文化に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②日本の勢力拡大に対する中国・朝鮮の人々の対応を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>③南京国民政府による中国統一達成までの経緯を理解する。</p> <p>④第一次世界大戦後のインド・東南アジア・アフリカにおける民族運動の経緯を理解する。</p> <p>⑤第一次世界大戦による西アジアの政治地図の変化を理解する。</p>	第一次世界大戦の原因や性格について、これまでの戦争との違いを多角的に考察し、文章にまとめる。	1月
<p>第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成</p> <p>1 世界恐慌とヴェルサイユ体制の破壊</p>	<p>① 知識・技能 世界恐慌が国際関係に与えた影響や各国の対応策、およびヴェルサイユ体制の崩壊にいたる経緯やファシズム諸国・日本の動きについて理解する。</p> <p>② 思考・判断・表現 政治的なポスターなどの図像資料や経済的な変化を示す統計資料をもとに世界恐慌下の各国における変容を、またナチ党の全国党大会の図像資料や蒋介石「廬溝橋事件に関する廬山談話」の文字資料などをもとにファシズム諸国や日本の動きについて、多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 世界恐慌やヴェルサイユ体制の崩壊について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	<p>①世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>②ニューディール政策およびブロック経済の特徴や世界経済への影響を理解する。</p> <p>③ナチスドイツの体制が成立する経緯とその政策内容を理解する。</p> <p>④ソ連の計画経済が資本主義諸国に与えた影響を理解する。</p> <p>⑤日本と中国が全面戦争へいたった背景を多面的・多角的に考察し表現する。</p> <p>⑥ファシズム諸国の攻勢が国際政治に与えた影響を理解する。</p>	ファシズムという運動を20世紀における大衆社会の出現と関連付けて考察し、文章にまとめる。	

	2 第二次世界大戦	7 ① 知識・技能 第二次世界大戦の対立の構図と勃発から終戦までの経緯を理解する。 ② 思考・判断・表現 戦場を写した画像資料や「大西洋憲章」などの資料をもとに、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 第二次世界大戦について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①開戦直前における各国のナチス＝ドイツへの対応を多面的・多角的に考察し表現する。 ②ヨーロッパにおける第二次世界大戦の展開を理解する。 ③独ソ戦および太平洋戦争の開戦が第二次世界大戦にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④第二次世界大戦の終戦までの経緯を理解する。 ⑤第一次世界大戦と比較したうえで、第二次世界大戦の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	第二次世界大戦の持っていた複合的で複雑な性格を戦後の国際社会の方向性と関連付けて考察し、文章にまとめる。
	3 新しい国際秩序の形成	① 知識・技能 第二次世界大戦後に形成された国際秩序の特徴を、それ以前との相違点をふまえて理解している。 ② 思考・判断・表現 各国の様子を写した画像資料や「中華人民政治協商会議共同綱領」などの資料をもとに、戦後国際秩序下の各国における変容を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 第二次世界大戦後の国際秩序について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①戦後国際秩序がいかなる構想のもとで形成されたのかを理解する。 ②冷戦開始および東西ヨーロッパ分断の進展について、それぞれの経緯を理解する。 ③国民党が共産党に敗れた原因を多面的・多角的に考察し表現する。 ④朝鮮戦争が東アジアの国際情勢に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤東南アジアおよび南アジアの独立の背景や経緯を理解する。 ⑥現代の中東問題の要因を多面的・多角的に考察し表現する。	第二次世界大戦後の国際秩序について、自分が抱いた興味・関心や疑問などを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。
2月	第18章 冷戦と第三世界の台頭 1 冷戦の展開	① 知識・技能 冷戦がどのように進展したのかを、各国の社会に与えた影響や核開発の動きなどとあわせて理解している。 ② 思考・判断・表現 先進国の平均経済成長率を示した統計資料や「スターリン批判」などの資料をもとに、冷戦下における東西両陣営の社会の変容を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 冷戦の展開について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①米ソそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。 ②冷戦の進展がアメリカ社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ③西欧と日本の経済復興の背景をそれぞれ理解する。 ④スターリン死後のソ連と東欧における変化を多面的・多角的に考察し表現する。	親ソ政権樹立による東欧諸国の社会主義化とアメリカ合衆国の経済援助や「対ソ封じ込め」政策を比較しながら考察し、文章にまとめる。
2月	2 第三世界の台頭とキューバ危機	6 ① 知識・技能 冷戦のもとで第三世界の台頭がどのように進んだのかや、キューバ危機を経て国際社会が核兵器の制限にどのように取り組んだのかを理解している。 ② 思考・判断・表現 当時の世界情勢をふまえたうえで「カストロによる第2次ハバナ宣言」などの資料をもとに、キューバ革命が国際社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 第三世界の台頭とキューバ危機について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったのかを理解する。 ②アフリカなどの新興国が直面した困難の内容とその原因を理解する。 ③キューバ革命の背景および影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④国際社会が核兵器の制限に取り組むようになった経緯を理解する。	アジア・アフリカ新興独立諸国による第三世界の台頭とキューバ危機以降の米・ソの政策を、冷戦の緩和と関連付けて考察し、文章にまとめる。
	3 冷戦体制の動揺	① 知識・技能 ベトナム戦争をはじめとする1960年代以降の冷戦体制の動揺やその推移を、米ソの代理戦争としての視点や各国における変化をふまえて理解している。 ② 思考・判断・表現 1960年代の各地の様子を写した画像資料や「チェコスロヴァキア共産党行動綱領」などの資料をもとに、冷戦の動揺が各地にもたらした影響を多面的・多角的に考察し表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 冷戦体制の動揺について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度	①国際情勢との関係をふまえたうえで、米ソ代理戦争としてのベトナム戦争の性格を理解する。 ②1960年代におけるアメリカ合衆国とソ連のそれぞれの変容を多面的・多角的に考察し表現する。 ③ヨーロッパにおいて緊張緩和が進展した経緯を理解する。 ④ソ連のスターリン批判が中国へ与えた影響を理解する。 ⑤第三世界における開発独裁の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。	冷戦の終結をゴルバチョフによるソ連の改革と関連付けて考察し、文章にまとめる。

	<p>第19章 冷戦の終結と今日の世界</p> <p>1 産業構造の変容</p>	<p>① 知識・技能 1960～1980年代の各国の経済や社会の状況を、経済構造の変化をふまえて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 原油価格の推移や経済成長率の推移などの統計資料をもとに、オイル＝ショックが世界の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 オイル＝ショックとその影響について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①経済成長にともなう先進諸国の政策・社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ②1970年代初頭に世界経済がいかなる転換を迎えたのかを理解する。 ③オイル＝ショックが各国の社会と経済に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ④1960～1970年代の中東における変容の経緯を理解する。 ⑤1970～1980年代に進んだ開発途上国の工業化の経緯を理解する。</p>	<p>オイル＝ショックとその影響について、自分が抱いた興味・関心や疑問などを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
	<p>2 冷戦の終結</p>	<p>① 知識・技能 冷戦がどのような過程をたどって終結したのかを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 1990年前後の各地の様子を写した画像資料などをもとに、さまざまな出来事と東西対立緩和の関係を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 冷戦の終結について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①1970年代後半から80年代前半において米ソがそれぞれ追求した対外政策の内容を理解する。 ②ソ連で始まった改革と東欧革命との関係を多面的・多角的に考察し表現する。 ③東西対立の緩和が東アジアやアフリカなど諸地域にもたらした影響を理解する。 ④ゴルバチョフの改革が挫折した原因を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>冷戦の終結について、自分が抱いた興味・関心や疑問などを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
<p>3月</p>	<p>3 今日の世界</p>	<p>10</p> <p>① 知識・技能 冷戦終結後の各地の状況や地域・民族紛争、経済における世界の一体化について、国際情勢をふまえたうえで理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 各地の状況を写した画像資料などをもとに、今日の世界が抱えている課題の特徴や傾向を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 今日の世界が抱えている課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①旧社会主義国で起こった民族運動や民族対立の特徴を理解する。 ②冷戦終結後の東アジア諸国の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 ③今日の東南アジア・南アジア諸国においていかなる政治的・経済的变化が生じているのかを理解する。 ④冷戦終結後のアフリカが有する課題と可能性を多面的・多角的に考察し表現する。 ⑤冷戦終結後も続く地域・民族紛争の背景や経緯を理解する。 ⑥経済における世界の一体化の経緯を理解する。 ⑦21世紀初めにアメリカ合衆国がおこなった戦争の背景や経緯を理解する。 ⑧今日の国際関係の特徴と、必要とされている協力の内容を多面的・多角的に考察し表現する。</p>	<p>今日の世界が抱えている課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問などを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	
	<p>4 現代文明の諸相</p>	<p>① 知識・技能 現代思想・文化の特徴をそれまでの文化・思想と比較したうえで理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 芸術作品を示した画像資料やジェンダー＝ギャップ指数を示した統計資料などをもとに、人々の世界観や生活のありようの変化を多面的・多角的に考察し表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 現代文明の諸相について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。</p>	<p>定期考査 提出課題 発問評価 授業態度</p>	<p>①20世紀以降の科学技術の革新が人々の生活に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 ②現代思想・文化における新しい潮流の内容を理解する。 ③両性の同権化の進展について、その経緯と残されている課題を理解する。</p>	<p>現代文明の諸相について、自分が抱いた興味・関心や疑問などを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。</p>	<p>芸術科との関連から、複数の芸術作品を示した画像資料等を活用する。</p>

	地球世界の課題の探究	<p>① 知識・技能 設定した課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯をふまえて、地球世界の課題を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に、主体的に探究しようとしている。</p>	提出課題 発表状況	<p>①「紛争解決や共生」「経済格差の是正や経済発展」「科学技術の発展や文化の変容」といったテーマにおける課題の追究や解決のために、適切かつ効果的に諸資料を活用し、歴史的経緯をふまえて、地球世界の課題を理解している。</p> <p>②地球世界の課題の形成に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、地球世界の課題の形成に関わる世界の歴史について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>③地球世界の課題について、よりよい社会の実現を視野に主体的に探究しようとする態度を養っている。</p>	地球世界の課題について、自分が抱いた興味・関心や疑問などを調べ、わかったことをまとめたり、発表したりする。	公民科との関連から、地球世界の課題を検討する。
指導時間数の計	105					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
公共	2	全日制・普通科・2学年	『高等学校 公共』(数研出版)

科目の目標	(1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	巻頭特集 公共的な空間をつくる私たち 1 大人ってどんな人?	2	① 知識・技能 ・青年期は自立や自律をはかる重要な時期であることを理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・自己形成の課題について考察できている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自らを成長させる人間としての在り方生き方とはどのようなものか主体的に追究できている。	定期考査  定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り  レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・自らの体験などを振り返ることなどを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について多面的に考察し、表現する。	青年期の意義と役割を理解し望ましい自己の在り方と自己形成について討論し、今日の青年期における社会問題について議論してみる。	青年期について保健の教科書を用いて調べて青年期が人生に果たす役割について考え、青年期のあるべき人間像について考察する。
	2 お互いを理解し尊重するために	2	① 知識・技能 ・伝統や文化、宗教などを背景にして現代の社会が成り立っていることが理解できている。 ・古代から近代の日本の思想家の思想内容が理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・先哲の思想や伝統、文化、宗教が自分自身の生き方に与えている影響に気付くことができている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、参考にできることはないか主体的に追究できている。	定期考査  定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り  レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	ソクラテスが唱えた「よく生きる」ことが何であるかを理解し、宗教が人間の生き方や社会のあり方にどのような影響を与えているのかを討論する。	
	3 誰もが生きやすい社会へ	2	① 知識・技能 ・自分たちが生きる社会が、様々な背景を持つ多様な人々から成り立っていることを理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・自分と異なる価値観に基づく主張を聴いたり、様々な立場に立って共感的に他者の思いを受け入れたりすることができている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自主的に公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体であるという自覚した行動をとることができている。	定期考査  定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り  レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・多様な価値観を認めあう社会をつくること、だれもが共生できる社会を実現することにつながることを理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	個人のもつ価値観を考察し、社会との関わりの中でどれくらい生かされているのかを吟味して、いかにして社会貢献していくのかを考え、個人の望ましい社会への関わり方について討論する。	
	第1章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方 第1節 西洋近現代の思想口	4	① 知識・技能 ・近世・近代・現代の世界の思想家の思想内容が理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・先哲の思想や生き方から自分自身の生き方を検証し、公共的な空間を作る主体としての自己の生き方について考察できている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を理解し身につけようとしている。	定期考査  定期考査(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り  レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・日本的な考え方、西洋的な考え方などを学習し、その違いについて考察するとともに、多様性を尊重する姿勢や他者に対する寛容さの必要性を理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	ある思想の立場からはそれ以外の思想はどのように捉えられるのか、様々な思想の立場にたって討論を行う。	

5月	第2節 現代の諸課題と倫理	5	① 知識・技能 ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、生命科学や情報技術の進展などの事象について理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・公共的な空間における人間としての在り方生き方を考察するための選択・判断の手掛かりが考察できている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・選択・判断の手掛かりとなる考え方を使得、現代の諸課題を主体的に追究できている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・現代社会の諸問題に向き合うため、現代的、先端的な問題について基礎的素養を身につけ、理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	科学技術と倫理という、表裏一体でありながら決して交わることのない2つの事柄を、これからの時代においてどう捉えているのか、討論を行う。	生物、化学、情報など理系科目と連携し、一見全く異なる事象である最先端の自然科学と倫理問題は不可分のものであることを理解し、深い学びを行う。
6月	第2章 公共的な空間における基本原理 第1節 民主社会の基本原理	3	① 知識・技能 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本原理について理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・このような基本原理を考察することによって、個人と社会との関わりを多面的・多角的に考察することができている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・民主政治が自らの生活とかわっていることを理解し、民主社会に主体的に生きる人間のあり方生き方について思索を深められている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解したうえで、多面的に考察し、表現する。 ・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本原理について理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	現在の国際情勢を踏まえて日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重・生存権・平和主義が我々の生活にどのように関わっているのかを討論する。	
7月	第2節 日本社会の基本原理	7	① 知識・技能 ・日本国憲法の基本原理や保障されている権利が理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、公共的な空間における基本原理との関連を考察することができている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日本国憲法で保障されている権利が理解でき、自らの生き方と権利を結びつけることができている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・我が国の社会を構成する要素や仕組みについて基礎的素養を身につけ、理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	現在の国際情勢を踏まえて日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重・生存権・平和主義が我々の生活にどのように関わっているのかを討論する。	
9月	第3章 ルールをつくり守る私たち 第1節 法と契約	3	① 知識・技能 ・法や規範の意義や役割が理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・日常の買い物や銀行のクレジットカードなど、身近な契約の例を挙げることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身近な紛争状況を設定し、それを解決するためのルール作りを体験的に行うことができる。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	時代が大きく変わる中で法律が社会状況の変化に応じて厳罰化などが求められるている。そのことを踏まえて社会状況の変化に応じて法律はどうあるべきかを討論する。	
9月	第2節 司法参加の意義	3	① 知識・技能 ・公正な裁判には司法権の独立が必要であり、国民の参加が大切であることが理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・裁判員制度がどのような目的で創設されたかを考察できている。 ・裁判によって国民のどのような権利が守られているのか考察できている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・模擬裁判などを通して、司法に関心を持ち裁判員制度の意義をふまえて積極的に参画する自覚を持つことができている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	模擬裁判を行い、実際の裁判で行われることを実演することで、その意義を理解するとともに、より公正な裁判のあり方について議論を行う。	
	第4章 政治に参加する私たち 第1節 政治参加と民主政治の課題	4	① 知識・技能 ・地方自治や選挙の仕組み、政党の役割を考察することによって具体的に民主政治を支える制度を理解できている。 ② 思考・判断・表現 ・選挙制度の違いによって、政党制にも大きな違いがでてくることを考察できている。 ・自分が理想とする選挙制度を選択することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・模擬投票などを通して、選挙に積極的に参加するなど主権者としての自覚を持つことができている。	定期考査 定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・政治制度や国民の政治参加について基礎的素養を身につけ、その意義や必要性について理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	模擬選挙を行い、候補者や有権者の立場を演じることで、その意義や問題点を実感し、どのような選挙を実現していくべきなのか、討論を行う。	

10月	第2節 国際政治の動向	3	<p>① 知識・技能 ・国際法の意義や国際紛争を解決する機関の役割が理解できている。 ・国際連盟・国際連合の組織と役割が理解できている。 ・冷戦の成立とその終結後の国際政治の流れが理解できている。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・集団的安全保障がなぜ有効なのか考察できている。 ・国連の現状と課題について考察できている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日々報道される世界の国際紛争に関心を持っている。 ・それぞれの紛争の解決への筋道は何か提示することができている。</p>	<p>定期考査</p> <p>定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>・国際法や国際連合の意義と役割、第二次世界大戦後の国際社会と冷戦終結前後の国際社会の状況、核軍縮、人種・民族紛争、難民問題など、国際政治に関する基礎的な素養を身につけ、その意味について理解したうえで、多面的に考察し、表現する。</p>	<p>国際平和を希求する人類の長年の努力にもかかわらず、なぜ今日においてもそれは一向に実現されないのか、討論を行う。</p>
11月	第3節 国際政治の課題と日本の役割	6	<p>① 知識・技能 ・国際社会の中で平和主義を掲げる日本の役割が理解できている。 ・核軍拡から核軍縮への流れが理解できている。 ・現代の世界の紛争や人権問題について理解できている。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・留学生や国際NGOと接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について判断できている。 ・国際問題について自分なりの意見を持ち、他者に説明できている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・民族紛争や難民問題など国際政治問題について日常から関心を持っている。 ・留学生や国際NGOと接することにより、国際化を身近に体験し、国際社会の諸問題について主体的に追究できている。</p>	<p>定期考査</p> <p>定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>・国際貢献を含む国際社会における我が国の果たすべき役割等について基礎的な素養を身につけ、なお世界に存在する民族紛争や難民問題などの課題を理解したうえで、多面的に考察し、表現する。</p>	<p>急速に変化しつつある今日の国際社会の中なかにあって、民主主義の価値観のもと、日本が国際社会に果たす役割やあるべき国家像について討論する。</p>
11月	第5章 経済活動を行う私たち 第1節 経済のしくみと産業の変化 □	7	<p>① 知識・技能 ・現代の企業の果たしている役割が理解できている。 ・中小企業や農業の果たしている役割と現状を理解できている。 ・産業構造の変化と職業選択との関係や、雇用・労働問題について理解できている。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・現代の企業倫理について考察できている。 ・経済のサービス化が進展し、国民生活にどのような変化をもたらしたか考察できている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・AIやITなどの先端技術が発展するなかで、自分の進路や職業選択を考えることができている。 ・経済社会に主体的に生きる一員として、今後の日本経済について見通しがたてられている。</p>	<p>定期考査</p> <p>定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>・日本の経済活動のしくみや実態について基礎的な素養を身につけ、その意義や必要性について理解したうえで、雇用と労働問題、産業構造の変化などの課題について、多面的に考察し、表現する。</p>	<p>自身が社会の中心となる今後の日本において、経済成長を続けるためにはどのような産業のあり方が望まれるのか、討論する。</p>
12月	第2節 市場経済のしくみと金融	4	<p>① 知識・技能 ・市場経済のメカニズムが理解できている。 ・各種経済指標を理解し、その指標の動向を読み解くことができている。 ・金融のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・需給曲線を使って、どのような場合に価格が変動するのか考察できている。 ・GDPが大きいことが豊かさにつながるのかどうか、豊かさについて自分なりに判断できている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・商品の価格は需給関係によって変動するものもあることを理解し、合理的な消費行動がとれている。 ・超低金利時代に生きる一員として、今後の経済設計がきちんとたてられている。</p>	<p>定期考査</p> <p>定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>・市場経済のメカニズムについての基礎的な素養を身につけたうえで、現実の経済社会で起こっている出来事を取り上げて対比することなどにより、その意義などについて多面的に考察し、表現する。</p>	<p>今日の日本社会で過去30年間、賃金上昇が無いのが社会問題化され、先進国の中でも日本は賃金上昇率が低い状況となっている。なぜ日本の賃金は上がらないかについて原因や背景について議論する。</p>
1月	第3節 財政と社会保障	3	<p>① 知識・技能 ・政府が経済に果たしている役割を理解できている。 ・財政のしくみを理解し、経済状況に応じて適切な手段を提示できている。 ・社会保障について理解できている。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・自身の老後生活を予想し、租税（支払い）と社会保障（受取り）とのバランスを考察できている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日本の経済について課題を発見し、解決する見通しが持てている。</p>	<p>定期考査</p> <p>定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>・資本主義市場経済において、政府がどのような役割を担っているのか、なぜ財政が必要なのかについて基礎的な理解を行った上で、自身の今後の様々なライフステージにおいてそれらがどのように関わってくるのか、多面的に考察し、表現する。</p>	<p>市場の失敗が発生したとき、財政政策が機能しなければどのようなことが起こるのか、現実に即しながら検討し、討論する。</p>

2月	第4節 国際経済の動向と課題	5	① 知識・技能 ・貿易や外国為替相場について、そのしくみが理解できている。 ・戦後の国際経済の流れが理解できている。 ・発展途上国の現状を知り、貧困や飢餓などの原因や課題を理解できている。	定期考査	・経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、世界経済がより緊密に結び付き、経済活動が世界的な規模で自由に行われていること、一国の経済政策や経済活動が他国にも影響を与えるなど、国際社会において相互依存関係が一層深まっていること、国際社会における貧困や格差が解消されていない状況やこれらの解決が地球的な課題であることについて理解したうえで、多面的に考察し、表現する。	国際社会において経済のグローバル化が進む中で国家間の格差がより大きくなっている。このような国際情勢をふまえ、開発途上国の構造的な問題点を考察し、先進国が格差解消に向けて果たすべき役割について討論する。
			② 思考・判断・表現 ・経済のグローバル化と相互依存関係が深まっていることを理解し、それが日本経済にどのような影響を及ぼしているかを考察できている。	定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自分たちの日常生活が国際経済と不可分であることを自覚できている。 ・格差のある国際社会で、その克服のために自らがどのようなことができるか考え、実行しようという意欲を持つことができている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
2月	課題探究編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち 課題探究の観点	4	① 知識・技能 ・現代社会に生きる私たちの課題を指摘できている。 ・現代社会の諸問題について、その問題の所在、現状、問題点などが理解できている。	定期考査	・地域の創造、よりよい国家・社会の構築及び平和で安定した国際社会の形成へ主体的に参画し、共に生きる社会を築くという観点から課題を見だし、その課題の解決に向けて事実を基に協働して考察、構想し、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして、論拠を基に自分の考えを説明、論述させる。	これまで学んできた様々な課題を俯瞰し、横断的な課題はあるのか、それは何なのかについて討論する。
			② 思考・判断・表現 ・現代社会の諸問題の解決のために、事実を基に協働して考察、構想することができている。	定期考査（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・さまざまな課題の中で、自己とのかかわりに注目して主体的に課題を選択し、探究できている。 ・それぞれが選択した課題について、今後も継続して探究しようという意欲を持つことができている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
3月	課題探究の手引き	3	① 知識・技能 ・現代社会の諸問題について、探究するための資料を収集・選択し、的確に分析できている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	・この科目のまとめとして位置付け、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第1部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第1部及び第2部で扱った課題などへの関心を一層高める。	あるべき社会とはどのような社会なのか、豊かで安定した国際社会であるためには何が必要なのか、社会的・国際的課題について討論する。
			② 思考・判断・表現 ・現代社会の諸問題を多角的・多面的に考察し、その内容をレポートや口頭発表などによって的確に表現できている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・現代社会の特質から生じる価値の対立について、討論やディベートなどさまざまな方法を活用して主体的に探究できている。	レポート課題 討論・発表 学習の振り返り		
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)口 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学Ⅱ	4	全日制・普通科・2学年	Standard 数学Ⅱ(東京書籍)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係を着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2~4週 12日	1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算 2節 2次方程式 3節 高次方程式 4節 式と証明	36	① 知識・技能 方程式・式と証明における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○方程式・式と証明の問題演習を通じて多項式・分数式の計算を理解する。 ○方程式・式と証明の問題演習を通じて2次方程式の性質を理解する。 ○方程式・式と証明の問題演習を通じて高次方程式の性質を理解する。 ○方程式・式と証明の問題演習を通じて恒等式・不等式の証明のやり方を理解する。	○方程式・式と証明の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○方程式・式と証明の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○方程式・式と証明の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
5月 2,4週 8日			② 思考・判断・表現 方程式・式と証明を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
6月 1~4週 16日			③ 主体的に学習に取り組む態度 方程式・式と証明における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
7月 2~3週 8日	2章 図形と方程式 1節 点と直線 2節 円 3節 軌跡と領域	28	① 知識・技能 図形と方程式における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○図形と方程式の問題演習を通じて点と直線の性質を理解する。 ○図形と方程式の問題演習を通じて円の性質を理解する。 ○図形と方程式の問題演習を通じて軌跡と領域の性質を理解する。	○図形と方程式の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○図形と方程式の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○図形と方程式の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
9月 1~4週 16日			② 思考・判断・表現 図形と方程式を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
10月 1週 4日			③ 主体的に学習に取り組む態度 図形と方程式における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
10月 2~4週 12日	3章 三角関数 1節 三角関数 2節 加法定理	24	① 知識・技能 三角関数における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○三角関数の問題演習を通じて点と弧度法、グラフ、方程式・不等式を理解する。 ○三角関数の問題演習を通じて加法定理の性質を理解する。	○三角関数の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○三角関数の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○三角関数の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
11月 1~3週 12日			② 思考・判断・表現 三角関数を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
11月 4週 4日			③ 主体的に学習に取り組む態度 三角関数における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
12月 1~3週 12日	4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数 2節 対数関数	24	① 知識・技能 指数関数・対数関数における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○指数関数の問題演習を通じて指数関数の性質を理解する。 ○対数関数の問題演習を通じて対数関数の性質を理解する。	○指数関数・対数関数の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○指数関数・対数関数の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○指数関数・対数関数の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
1月 2~3週 8日			② 思考・判断・表現 指数関数・対数関数を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
1月 4週 4日			③ 主体的に学習に取り組む態度 指数関数・対数関数における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
2月 1~4週 16日	5章 微分と積分 1節 微分の考え 2節 積分の考え	28	① 知識・技能 微分と積分における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○微分の考えの問題演習を通じて指数関数の性質を理解する。 ○積分の考えの問題演習を通じて対数関数の性質を理解する。	○微分と積分の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○微分と積分の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○微分と積分の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
3月 2~3週 8日			② 思考・判断・表現 微分と積分を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学的見方や考え方を身につけることができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 微分と積分における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等			
指導時間数の計		140					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)□ ○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学B	2	全日制・普通科・2学年(理系)	Standard 数学B(東京書籍)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2～4週 6日  5月 2、4週 4日  6月 1～3週 6日  7月 2～3週 4日  9月 1～4週 8日  10月 1～4週 8日	1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列 3節 漸化式と数学的帰納法	36	① 知識・技能 数列における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。  ② 思考・判断・表現 数列を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学の見方や考え方を身につけることができる。  ③ 主体的に学習に取り組む態度 数列における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等  行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等  行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○数列の問題演習を通じて数列の性質を理解する。 ○いろいろな数列の問題演習を通じていろいろな数列の性質を理解する。 ○漸化式と数学的帰納法の問題演習を通じて漸化式と数学的帰納法の性質を理解する。	○数列の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○数列の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○数列の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。
11月 1～4週 8日  12月 1～3週 6日  1月 2～4週 6日  2月 1～4週 8日  3月 1～3週 6日	2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布 3節 正規分布 4節 統計的な推測	34	① 知識・技能 統計的な推測における基本的な概念、原理・法則を体系的に理解することができる。  ② 思考・判断・表現 統計的な推測を考察・表現し、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数と式の数学の見方や考え方を身につけることができる。  ③ 主体的に学習に取り組む態度 統計的な推測における論理に関心を持ち、数学の良さを認識し、それらを考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断することができる。	行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等  行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等  行動の観察 提出物・小テスト 定期考査等	○標本調査の問題演習を通じて標本調査の性質を理解する。 ○確率分布の問題演習を通じて確率分布の性質を理解する。 ○正規分布の問題演習を通じて正規分布の性質を理解する。 ○統計的な推測の問題演習を通じて統計的な推測の性質を理解する。	○統計的な推測の問題演習の際に生徒たちによる話し合い活動を行い、自分の考えを説明させる。 ○統計的な推測の他の人と解法の比較を行い各自の考察を深める。	○統計的な推測の問題を解く際に国語で育成した資質・能力を活用する。

指導時間数の計	70
---------	----

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
物理	3	全日制・普通科・2年	改訂版 物理(数研出版)

科目の目標	物理的な事象・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 1.平面運動の速度・加速度 2.落体の運動	21	① 知識・技能 平面内の運動についてわかる。物体を水平投射や斜方投射した場合の放物運動についてわかる。合成速度、相対速度を観測することができる。 ② 思考・判断・表現 物体の平面内の運動を表す変位、速度及び加速度はベクトルで表されることについて考えることができる。 ②合成速度、相対速度を考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 平面内での物体の運動について調べようとする。落体の運動の特徴、重力のはたらきと軌跡の関係について調べようとする。	定期考査 小テスト 行動の観察 定期考査 実験レポート 実験発表 行動の観察 小テスト 提出物(ワークノート)	・物理基礎では直線運動における速度や加速度について学習した。物理では平面上の運動を扱うので、速度や加速度のベクトルを用いた扱いを十分に理解させ、慣れさせる。 ・物理基礎では、平面上の放物運動の学習は定性的な扱いにとどまり、運動のようすを式で表したり、速度や加速度をベクトルで考えるような一般的な扱いをしていない。ここでは、放物運動における速度ベクトルを水平成分と鉛直成分とに分けて、定量的に理解させる。また、空気中を落下する物体には、速度に応じた空気抵抗がはたらくことを理解させる。	実験発表	
6月 ～ 7月	第2章 剛体 1 剛体にはたらく力のつり合い 2 剛体にはたらく力の合力と重心	21	① 知識・技能 剛体にはたらく力の合成や重心についてわかる。いろいろな形の物体について、重心を計算したり実験によって調べることができる。 ② 思考・判断・表現 力のモーメントのつり合いと、物体の重心について考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 大きさのある剛体の重心やつり合いの関係について調べようとする。	定期考査 小テスト 行動の観察 定期考査 実験レポート 実験発表 行動の観察 小テスト 提出物(ワークノート)	・剛体にはたらく力の効果は、力の大きさと向きのほかに、作用線の位置により決まることを理解させる。また、剛体にはたらく力があつりあうためには、剛体が並進運動と回転運動をし始めないことに留意する。 ・剛体にはたらく力の合力をさまざまな場合に求めて求められるようにする。また、偶力は剛体を回転させ始めるはたらきだけをもつ量であることを理解させる。偶力のモーメントはどの点を軸としても同じ値になることも理解させる。	実験発表	
9月 ～ 10月	第3章 運動量の保存 1 運動量と力積 2 運動量保存則 3 反発係数	21	① 知識・技能 運動量の変化と力積の関係や、運動量の保存についてわかる。物体が様々な物体に衝突した場合の運動がわかる。 ② 思考・判断・表現 運動量と力積がベクトルで表されること、運動量の変化が力積に等しいことについて考えることができる。物体の衝突の際の運動エネルギーの減少について考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 運動の法則をもとに、2つの物体が衝突したり、1つの物体が分裂したりする際に成り立つ法則について調べようとする。衝突におけるはね返り方の違いを調べようとする。	定期考査 小テスト 行動の観察 定期考査 実験レポート 実験発表 行動の観察 小テスト 提出物(ワークノート)	・本章は、運動の法則から力積と運動量の関係が導かれ、これをもとに物体の衝突や分裂などの現象を扱う方法を理解するのが目的である。「物体の運動量はその物体が外部から力積を受けると変化する」こと、および、「そのときの運動量の変化量は、受けた力積の量に等しい」ことをしっかりと理解させる。 ・次のような順序で授業展開し、理解させる。 1. 2物体の一直線上の衝突について、運動量と力積の関係を用いて運動量保存則が導かれること。 2. 斜めの衝突の場合でも、運動量が保存されること。 3. 物体の分裂の場合にも運動量保存則が成り立つこと。 一直線上での衝突や分裂を扱うときの速度の正負および斜め衝突を扱うときのベクトルの扱いでまず生徒が少なからずいる。なるべく具体的な数値計算を必要とする練習問題を扱う中で、これらを理解させる。 ・反発係数は衝突直後と直前における2物体の相対速度の大きさの比で表されることを理解させる。2物体のうち一方が床のように静止しているときは、比較的簡単にイメージできる。そこでまず床に落下する小球について扱い、次にともに運動している2物体の一直線上での衝突における反発係数を扱う。どちらの場合も、正の向きを定め、正負の符号に留意して式を立てられるようにする。	実験発表	

11月 ～ 12月	第4章 円運動と万有引力 1 等速円運動 2 慣性力 3 単振動 4 万有引力	21	<p>① 知識・技能 等速円運動とその性質についてわかる。等速円運動について実験を行い、等速円運動する物体にはたらく力とその性質を調べることができる。非慣性系において、慣性力についてわかる。 ③円運動では、遠心力についてわかる。</p> <p>② 思考・判断・表現 等速円運動の速さ、角速度、周期、回転数、速度、加速度、および向心力を考えることができる。非慣性系において、慣性力を考えることができる。円運動では、遠心力を考えることができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 周期的な運動のもととなる力の性質や、周期的な運動の様子について調べようとする。加速度運動する観測者からみた物体の運動について調べてみようとする。直線上を往復運動する物体にはたらく力について調べてみようとする。</p>	<p>定期考査 小テスト 行動の観察</p> <p>定期考査 実験レポート 実験発表</p> <p>行動の観察 小テスト 提出物（ワークノート）</p>	<p>1. 等速円運動における「回転の速さ」は、円周にそった物体の速さ、角速度、回転数、周期などを用いて表される。そこでまずこれらの量の定義、およびこれらに成りつた関係を学習させる。</p> <p>2. 円運動している物体の速度の方向は、その瞬間の物体の位置を接点とする接線方向であることを理解させる。</p> <p>3. 等速円運動をする物体の加速度の向きは、物体から円の中心に向かう向きであることを理解させる。</p> <p>4. 等速円運動をする物体にはたらく力の向きが円の中心を向くことを理解させる。また、等速円運動をする物体の加速度やはたらく力の大きさについても理解させる。ある物体を異なる立場(座標系)で観測するときには、異なった運動が観測され、異なった式が立てられる場合があることを認識させる。遠心力は慣性力の一種であることを例題を扱う中で具体的に把握させる。1. 等速円運動をする物体の直径方向への正射影が単振動であることを理解させる。単振動は放物運動と並んで、正射影の運動を扱う重要な例である。</p> <p>2. 物体にはたらく力が、常に振動の中心へ向かって引き戻す向きであり、その大きさが振動の中心からの距離に比例するとき、物体の運動は単振動であることを理解させる。</p>	実験発表	
1月 ～ 3月	第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 1 気体の法則 2 気体分子の運動 3 気体の状態変化	21	<p>① 知識・技能 気体の状態方程式についてわかる。気体分子の熱運動についてわかる。熱力学第1法則についてわかる。気体の状態変化と熱・仕事についてわかる。気体に加える力の大きさを変えて、気体の圧力と体積との関係を調べることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 理想気体の状態方程式とボイル・シャルルの法則との関係について考えることができる。気体分子の速さ、平均の運動エネルギーを考えることができる。熱力学第1法則について考えることができる。気体の状態変化におけるエネルギーの移動を考えることができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 気体の温度・圧力・体積の関係を調べようとする。気体の温度・圧力・体積のようなマクロ(巨視的)な量と、気体分子の速さのようなミクロ(微視的)な量との関係を調べようとする。気体に加えた熱と、気体がする仕事と、気体の温度の関係を調べようとする。気体の様々な状態変化の際のエネルギーの移動に興味を持ち、さらに熱機関の原理を調べようとする。</p>	<p>定期考査 小テスト 行動の観察</p> <p>定期考査 実験レポート 実験発表</p> <p>行動の観察 小テスト 提出物（ワークノート）</p>	<p>ボイル・シャルルの法則から、理想気体の状態方程式が得られることを示す。気体分子の運動を力学的に扱って気体の圧力を表す式を導く。この式と理想気体の状態方程式とから、気体分子の運動エネルギーの平均値が絶対温度に比例することを導く。理想気体の内部エネルギーは分子の運動エネルギーの総和である。前節で得られた平均運動エネルギーと絶対温度の関係式から、内部エネルギーが絶対温度に比例することを理解させる。熱力学第一法則は、熱現象をも含めたエネルギー保存則であることを理解させる。この熱力学第一法則の式を用いて定積変化、定圧変化、等温変化、断熱変化を理解させる。気体のモル比熱として、定圧モル比熱と定積モル比熱を扱う。両者の間の関係式 <math>C_p = C_v + R</math> (マイヤーの関係) は重要な結論である。</p>	実験発表	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ①主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ②一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
化学基礎	2	全日制・普通科・2学年(文系)	高等学校 改訂 新化学基礎 (第一学習社)

科目の目標	・物質の成り立ちや、原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月	序編 化学と人間生活 第1章 物質の構成 第1節 物質とその構成要素 ①物質の分離 ②物質を構成する元素 ③物質の三態と熱運動	14	① 知識・技能 ・混合物と純物質の違い、混合物の分離と精製について正しく理解し、様々な手法がわかる。 ・粒子の熱運動と物質の三態についてわかる。 ② 思考・判断・表現 ・混合物と純物質の違いと、混合物の分離について考え、判断し、結果を適切に表現することができる。 ・物質を構成する元素の検出方法について、考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について調べようとする。 ・学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。	定期考査 小テスト 行動の観察 定期考査 実験レポート 実験発表 行動の観察 小テスト 提出物(ワークノート)	・化学の特徴として、化学の探究に必要な課題の発見から解決方法までを、テーマ・仮説設定、実験計画、実験の実施、レポートの作成、発表を通して学ぶ。 ・多種多様な物質を観察することによって、それらを整理・分類する。共通した要素や、個々の相違点を調べることによって、物質の成り立ちを追求する。	実験発表	
6月 ～ 7月	④原子とその構造 ⑤イオン ⑥元素の周期表 第2節 化学結合 ①イオン結合とイオンからなる物質 ②分子と共有結合 ③共有結合の結晶 ④金属結合と金属	14	① 知識・技能 ・原子の構造と電子配置について考え、価電子が物質の性質に影響していることがわかる。 ・元素の性質と周期表の関係について炎色反応による観察と分析を通じ、物質を分類して表すことができる。 ・電気陰性度の差で分子の極性が生じることや、分子間力についてわかる。 ・化学結合による物質の分類がわかる。 ② 思考・判断・表現 ・原子の構造と電子配置について考えることができる。 ・イオン結合とイオン結合でできた物質について、組成式を書いてその構成を考えることができる。 ・共有結合と分子の成り立ちを関連付けて理解し、配位結合や錯イオンについても考えることができる。 ・金属結合と金属の性質とその性質をもつ理由について、電子の動きと関連付けて考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。 ・原子の電子配置との関連が深い3種の化学結合について調べようとする。	定期考査 小テスト 行動の観察 定期考査 実験レポート 実験発表 行動の観察 小テスト 提出物(ワークノート)	・物質を理解する基礎として、物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子から生じるイオンや原子が種々の方法で結合した物質について、その構造や表し方、それらの関係を学ぶ。 ・物質が連続性をもたない小さな粒子からなり、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているのか、物質の性質と関連づけながら学ぶ。	実験発表	
9月 ～ 10月	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量・分子量・式量 ②物質質量 ③溶液の濃度 ④化学反応式と物質質量	14	① 知識・技能 ・物質の量の表し方について単位モルやモル質量の意味や、アボガドロの法則やモル体積の意味がわかる。 ・物質の量の表し方について単位モルやモル質量の意味や、アボガドロの法則やモル体積の意味がわかる。 ・化学変化の量的な関係について観察と実験を行い、そこから得られた結果を調べることができる。 ② 思考・判断・表現 ・原子の質量の表し方を理解し、原子量・分子量・式量を考えることができる。 ・粒子の量の表し方の原理を理解し、モル質量やモル体積、モル濃度を用いて物質の量や濃度を考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。 ・原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質質量、化学変化における物質の量的関係を表す方法などを調べようとする。 ・化学変化を化学反応式で表し、そのしくみと量的関係を考えることができる。	定期考査 小テスト 行動の観察 定期考査 実験レポート 実験発表 行動の観察 小テスト 提出物(ワークノート)	・物質の質量と、物質を構成する原子・分子・イオンなどの質量や数との関係や、気体についてはさらに体積との関係を学び、化学の学習に欠かすことのできない物質の考え方を身につける。	実験発表	

11月 ～ 12月	第2節 酸と塩基の反応 ①酸・塩基 ②水の電離と水溶液のpH ③中和反応と塩 ④中和滴定	14 ① 知識・技能 ・ pHについて実験を行い、そこから得られた結果を表すことができる。 ・ 中和の量的関係を、適切な器具や指示薬を用いた中和滴定によって調べ、表すことができる。 ② 思考・判断・表現 ・ 水の電離とpHの意味を理解し、水溶液の酸性・塩基性の強弱が生じる仕組みを考えることができる。 ・ 酸と塩基が打ち消しあって、中和する反応を滴定曲線に描いて分析できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ 学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。 ・ 酸と塩基の性質や反応について、酸と水素イオン、塩基と水酸化物イオンとの関係を調べようとする。	定期考査 小テスト 行動の観察  定期考査 実験レポート 実験発表  行動の観察 小テスト 提出物(ワークノート)	・ 酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。また、pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液が必ずしも中性でないことを理解する。	実験発表	
1月 ～ 3月	第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③金属の酸化還元反応 ④酸化還元反応の利用	14 ① 知識・技能 ・ 酸化と還元の定義を理解し、酸化数の計算で酸化と還元を判断できる。 ・ 酸化還元反応式をつくり、酸化還元滴定を用いて量的関係を調べることができる。 ・ 金属のイオン化傾向による反応性の違いを確認する実験を行い、そこから得られた結果を調べ、イオン化列を表すことができる。 ② 思考・判断・表現 ・ 酸化反応と還元反応を酸素や水素の授受から電子の授受に発展させて関連付け、酸化数を用いて考えている。 ・ 主な酸化剤と還元剤の反応をe-を含むイオン反応式で表し、その組合せで酸化還元反応式を作ることができる。 ・ 金属の反応性の違いをイオン化傾向との関連で考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ 学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。 ・ 代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みを、酸素や水素の授受、酸化数と関連付けて理解し、その利用例について調べようとしている。	定期考査 小テスト 行動の観察  定期考査 実験レポート 実験発表  行動の観察 小テスト 提出物(ワークノート)	・ 電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、酸化還元反応であることを学習する。	実験発表	
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等)
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
化学基礎	3	全日制・普通科・2学年(理系)	改訂版 化学基礎 (数研出版)

科目の目標	・物質の成り立ちや、原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。また、物質の性質について観察、実験などを通して探究し、化学結合と物質の性質との関係を理解させ、物質について微視的な見方ができるようにする。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～ 5月	序編 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 第2章 物質の構成粒子 ①原子とその構造 ②イオン ③元素の周期表 第3章 粒子の結合 ①イオン結合とイオンからなる物質 ②分子と共有結合 ③共有結合の結晶 ④金属結合と金属	21	① 知識・技能 ・原子の構造と電子配置について考え、価電子が物質の性質に影響していることがわかる。 ・元素の性質と周期表の関係について炎色反応による観察と分析を通じ、物質を分類して表すことができる。 ・電気陰性度の差で分子の極性が生じることや、分子間力についてわかる。 ・化学結合による物質の分類がわかる。	定期考査 実験レポート	・物質を理解する基礎として、物質を構成する基礎的な粒子である原子と、原子から生じるイオンや原子が種々の方法で結合した物質について、その構造や表し方、それらの関係を学ぶ。 ・物質が連続性をもたない小さな粒子からなり、個々の粒子がどのようなしくみで結合しているのか、物質の性質と関連づけながら学ぶ。	実験発表	
			② 思考・判断・表現 ・原子の構造と電子配置について考えることができる。 ・イオン結合とイオン結合でできた物質について、組成式を書いてその構成を考えることができる。 ・共有結合と分子の成り立ちを関連付けて理解し、配位結合や錯イオンについても考えることができる。 ・金属結合と金属の性質とその性質をもつ理由について、電子の動きと関連付けて考えることができる。	定期考査 実験レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。 ・原子の電子配置との関連が深い3種の化学結合について調べようとする。	行動の観察 小テスト 授業プリント			
6月 ～ 7月	第1編 物質の構成と化学結合 第1章 物質の構成 ①混合物と純物質 ②物質とその成分 ③物質の三態と熱運動	21	① 知識・技能 ・混合物と純物質の違い、混合物の分離と精製について正しく理解し、様々な手法がわかる。 ・粒子の熱運動と物質の三態についてわかる。	定期考査 実験レポート	・化学の特徴として、化学の探究に必要な課題の発見から解決方法までを、テーマ・仮説設定、実験計画、実験の実施、レポートの作成、発表を通して学ぶ。 ・多種多様な物質を観察することによって、それらを整理・分類する。共通した要素や、個々の相違点を調べることによって、物質の成り立ちを追求する。	実験発表	
			② 思考・判断・表現 ・混合物と純物質の違いと、混合物の分離について考え、判断し、結果を適切に表現することができる。 ・物質を構成する元素の検出方法について、考えることができる。	定期考査 実験発表			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・物質の性質を調べるために、物質の分類や分離・精製法、物質の状態変化について調べようとする。 ・学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。	行動の観察 小テスト			
9月 ～ 10月	第2編 物質の変化 第1章 物質の量と化学反応式 ①原子量・分子量・式量 ②物質の量 ③溶液の濃度 ④化学反応式と物質の量	21	① 知識・技能 ・物質の量の表し方について単位モルやモル質量の意味や、アボガドロの法則やモル体積の意味がわかる。 ・物質の量の表し方について単位モルやモル質量の意味や、アボガドロの法則やモル体積の意味がわかる。 ・化学変化の量的な関係について観察と実験を行い、そこから得られた結果を調べることができる。	定期考査 実験レポート	・物質の質量と、物質を構成する原子・分子・イオンなどの質量や数との関係や、気体についてはさらに体積との関係を学び、化学の学習に欠かすことのできない物質の考え方を身につける。	実験発表	
			② 思考・判断・表現 ・原子の質量の表し方を理解し、原子量・分子量・式量を考えることができる。 ・粒子の量の表し方の原理を理解し、モル質量やモル体積、モル濃度を用いて物質の量や濃度を考えることができる。	定期考査 実験発表			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。 ・原子や分子の質量の相対質量による表し方、物質の量、化学変化における物質の量的関係を表す方法などを調べようとする。 ・化学変化を化学反応式で表し、そのしくみと量的関係を考えることができる。	行動の観察 小テスト 授業プリント			

11月 ～ 12月	第2章 酸と塩基の反応 ①酸・塩基 ②水の電離と水溶液のpH ③中和反応と塩 ④中和滴定	21 ① 知識・技能 ・ pHについて実験を行い、そこから得られた結果を表すことができる。 ・ 中和の量的関係を、適切な器具や指示薬を用いた中和滴定によって調べ、表すことができる。 ② 思考・判断・表現 ・ 水の電離とpHの意味を理解し、水溶液の酸性・塩基性の強弱が生じる仕組みを考えることができる。 ・ 酸と塩基が打ち消しあって、中和する反応を滴定曲線に描いて分析できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ 学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。 ・ 酸と塩基の性質や反応について、酸と水素イオン、塩基と水酸化物イオンとの関係を調べようとする。	定期考査 実験レポート  定期考査 実験発表  行動の観察 小テスト 授業プリント	・ 酸・塩基の定義や酸性・塩基性について、その本質が何であるかを考え、酸性・塩基性の強さの度合いの表し方を学ぶ。また、pHの表し方・中和の量的関係を学び、中和によって生じる塩の水溶液が必ずしも中性でないことを理解する。	実験発表	
1月 ～ 3月	第3章 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤 ③金属の酸化還元反応 ④酸化還元反応の利用	21 ① 知識・技能 ・ 酸化と還元の定義を理解し、酸化数の計算で酸化と還元を判断できる。 ・ 酸化還元反応式をつくり、酸化還元滴定を用いて量的関係を調べることができる。 ・ 金属のイオン化傾向による反応性の違いを確認する実験を行い、そこから得られた結果を調べ、イオン化列を表すことができる。 ② 思考・判断・表現 ・ 酸化反応と還元反応を酸素や水素の授受から電子の授受に発展させて関連付け、酸化数を用いて考えている。 ・ 主な酸化剤と還元剤の反応をe-を含むイオン反応式で表し、その組合せで酸化還元反応式を作ることができる。 ・ 金属の反応性の違いをイオン化傾向との関連で考えることができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ 学習した知識を基に、問題演習に取り組む意欲を持っている。 ・ 代表的な化学反応の1つである酸化還元反応の仕組みを、酸素や水素の授受、酸化数と関連付けて理解し、その利用例について調べようとしている。	定期考査 実験レポート  定期考査 実験発表  行動の観察 小テスト 授業プリント	・ 電子の授受によって考えられる現象として酸化・還元を学ぶ。酸化数という便利な指標を用いて酸化・還元を統一的に考え、理解を深める。また、電池の化学反応は、酸化還元反応であることを学習する。	実験発表	
指導時間数の計		105				

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○ 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 ○ 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 ○ 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
生物	3	全日制・普通科・2年	生物702「生物」実教出版

科目の目標	生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 〈単元・題材の評価規準〉	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	1章 生物の進化 1節 生命の起源と細胞の進化	9	① 知識・技能 ・実際に確認できない長大なスケールの時間に対しても、対比をすることで概要を把握できる。 ② 思考・判断・表現 ・生命の誕生に関する仮説について理解している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・生命の起源、および生物の進化の過程を地球環境の変化に絡めて理解しようとする。	・実際に確認できない長大なスケールの時間に対しても、対比をすることで概要を把握できる。 (発問評価) ・生命の誕生に関する仮説について理解している。 (定期考査) ・生命の起源、および生物の進化の過程を地球環境の変化に絡めて理解しようとする。 (発問評価・授業態度)	・生命の起源、および生物の進化の過程を地球環境の変化に絡めて理解しようとする。	実験・発表	化学基礎「物質の構成」
5月	2節 遺伝子の変化と進化のしくみ	12	① 知識・技能 遺伝子が分配されるしくみである減数分裂について理解し、遺伝子の変化がどのように子に伝わるかを考察できる。 ・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。 ② 思考・判断・表現 DNAの塩基配列に生じる突然変異が、生物の形質にどのような変化をもたらすかを見いだして理解させる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。	遺伝子が分配されるしくみである減数分裂について理解し、遺伝子の変化がどのように子に伝わるかを考察できる。 (発問評価・課題提出) ・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。 (定期考査) DNAの塩基配列に生じる突然変異が、生物の形質にどのような変化をもたらすかを見いだして理解させる。 (発問評価) ・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。 (発問評価・授業態度)	・遺伝子の変化を引き起こす突然変異について理解させる。 ・生物の変異、進化の証拠やその要因、進化説などを理解させる。 ・集団遺伝については、平易な初歩的事項を理解させる。 ・分子進化のしくみについては簡単に把握させる。	実験・発表	
6月	3節 生物の系統と進化	12	① 知識・技能 ・現在の生物分類と系統を理解している。 ・現在では系統に基づく視点からの分類法が最も妥当性があるものとして承認されているという事実を理解している。 ② 思考・判断・表現 霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現することができる。	・現在の生物分類と系統を理解している。 ・現在では系統に基づく視点からの分類法が最も妥当性があるものとして承認されているという事実を理解している。 (定期考査) 霊長類現生種との形態比較から人類の進化を考察し、表現することができる。 (発問評価・課題提出)	・生物の系統については、細胞の構造、細胞の構成成分、形態、生殖、発生、遺伝子の構造など生物のもつ様々な特徴の比較から生物の系統関係が明らかになったことを具体的な例を通して探究させる。 ・ドメインから種のレベルに至る分類の階層や、種の命名法についても具体的な例を示して把握させる。	実験・発表	

			<p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物分類の必要性を理解し、その歴史的な大分類の視点がどこに置かれていたのかを把握しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物分類の必要性を理解し、その歴史的な大分類の視点がどこに置かれていたのかを把握しようとする。</li> </ul> <p>(発問評価・授業態度)</p>			
7月	2章 生物現象と物質 1節 細胞と分子	9	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生体膜の構造に関する学習を手がかりとし、細胞あるいは細胞小器官が生体膜によって独自の密閉空間をつくり、細胞内外の物質輸送を行っていることを理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の形の維持には、細胞壁などの炭水化物や、微小管やフィラメントなどのタンパク質が関与していることを説明できる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分子レベルでの生物現象の把握を主な目的として、タンパク質や核酸などの有機化合物の多様な働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体膜の構造に関する学習を手がかりとし、細胞あるいは細胞小器官が生体膜によって独自の密閉空間をつくり、細胞内外の物質輸送を行っていることを理解している。</li> </ul> <p>(定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞の形の維持には、細胞壁などの炭水化物や、微小管やフィラメントなどのタンパク質が関与していることを説明できる。</li> </ul> <p>(発問評価・課題提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分子レベルでの生物現象の把握を主な目的として、タンパク質や核酸などの有機化合物の多様な働きが生物現象の基本になっていることを理解しようとする。</li> </ul> <p>(発問評価・授業態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解させる。</li> <li>・脂質が細胞膜などの生体膜を構成する成分であることを、脂質の特徴とともに理解させる。</li> <li>・細胞が様々な形を保持できることに関連して、細胞骨格の働きを理解させる。</li> </ul>	実験・発表	
9月	2節 生命現象とタンパク質	12	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質の基本的な構造・性質について理解している。</li> <li>・タンパク質の構造・性質についての学習を手がかりとして、酵素作用、物質の輸送や情報伝達などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素に関する実験を行い、生命現象に酵素の働きが関わっていることに気付くことができる。実験から、酵素には最適温度や最適pHがあることを考察することができる。</li> <li>・生物体にみられるさまざまな働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質の構造・性質について、酵素作用、物質の輸送や情報伝達などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質の基本的な構造・性質について理解している。</li> <li>・タンパク質の構造・性質についての学習を手がかりとして、酵素作用、物質の輸送や情報伝達などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解している。</li> </ul> <p>(定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素に関する実験を行い、生命現象に酵素の働きが関わっていることに気付くことができる。実験から、酵素には最適温度や最適pHがあることを考察することができる。</li> <li>・生物体にみられるさまざまな働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。</li> </ul> <p>(発問評価・課題提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物体にみられるさまざまな働きが、酵素による触媒作用をはじめとした、タンパク質の多様性および特異性に基づいていることを科学的に考察できる。</li> </ul> <p>(実験評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質の構造・性質について、酵素作用、物質の輸送や情報伝達などが、タンパク質の特異性や多様性に基づいて展開されていることを理解しようとしている。</li> </ul> <p>(発問評価・授業態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タンパク質の多様性および特異性に基づく機能には、タンパク質分子の立体構造が深く関わっていること、タンパク質の立体構造はそのアミノ酸配列によって決まることなどを理解させる。</li> <li>・生物にみられる代謝が酵素の触媒作用によって進められていることを理解させる。</li> <li>・酵素はタンパク質からできていること、生物体内の化学反応の触媒として働いていること、細胞内外の様々な生物現象と関わっていることを理解させる。</li> <li>・酵素の働き方の特質として基質特異性があり、温度、pHなどの影響を受けやすいことを実験を通して探究させる。</li> <li>・タンパク質分子が関わる生物現象の例として、細胞膜における物質の輸送、神経系や内分泌系における細胞間の情報伝達のしくみなどがあることを把握させる。</li> </ul>	実験・発表	化学基礎「物質の変化」

10月	3節 代謝	12	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの利用に際して、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解している。</li> <li>・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成からとり出すしくみを理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を考察し、それを説明できる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギーの利用に際して、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解している。</li> <li>・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成からとり出すしくみを理解している。(定期考査)</li> <li>・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を考察し、それを説明できる。(発問評価・課題提出)</li> <li>・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。(発問評価・授業態度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同化は主に光合成の反応を、異化は呼吸の反応を理解させる。</li> <li>・同化と異化はそれぞれエネルギー吸収反応とエネルギー放出反応であり、エネルギーの出入りやエネルギーの変換の際には、生物体のエネルギーの通貨としてATPが用いられていることを理解させる。</li> <li>・光合成は光エネルギーを化学エネルギーに変換して無機物から有機物を合成する反応であること、呼吸は有機物からエネルギーを解離してATPを生成する反応であることなどを通して同化と異化の意義を理解させる。</li> <li>・光合成ではクロロフィルが光エネルギーの吸収・放出に関わっていることを理解させる。また、光合成細菌がもつクロロフィルの違いから、進化と光合成を関連づけて理解させる。</li> <li>・呼吸では細胞の微細構造と関連させてクエン酸回路、電子伝達系などの存在とその役割に簡単に触れ、酵素の働きによって複雑な反応が整然と行われていることに気付かせる。</li> </ul>	実験・発表	化学基礎「物質の変化」
11月 12月	第3章 遺伝情報の発現と発生 1節 遺伝情報とその発現	12	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メセルソンとスタールの実験結果とともに、半保存的複製のしくみを理解している。</li> <li>・DNAが遺伝子として働くしくみや、RNAがタンパク質合成に関与しているしくみを理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子の発現調節のしくみについて、調節遺伝子やプロモーター、転写調節領域などの語句を用いて、一連の流れを説明することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・X-galを用いた大腸菌の培養実験をもとに、遺伝子発現がどのように調節されているのかを見いだそうとし、自分なりの考えを出すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メセルソンとスタールの実験結果とともに、半保存的複製のしくみを理解している。</li> <li>・DNAが遺伝子として働くしくみや、RNAがタンパク質合成に関与しているしくみを理解している。(定期考査)</li> <li>・遺伝子の発現調節のしくみについて、調節遺伝子やプロモーター、転写調節領域などの語句を用いて、一連の流れを説明することができる。(発問評価・課題提出)</li> <li>・X-galを用いた大腸菌の培養実験をもとに、遺伝子発現がどのように調節されているのかを見いだそうとし、自分なりの考えを出すことができる。(発問評価・授業態度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝情報にしたがって特定のタンパク質が合成され、形質が発現することの概要について理解させる。</li> <li>・DNAの構造や複製、遺伝暗号、DNAの遺伝情報に基づくタンパク質の合成や形質発現などのしくみを理解させる。</li> <li>・遺伝子は様々な要因によって異なるものが発現するよう調節されることで、細胞の分化や形態形成が起こることについて理解させる。</li> <li>・真核生物では、スプライシングによって遺伝子の数よりはるかに多い種類のタンパク質が合成されることを理解させる。</li> </ul>	実験・発表	
12月 1月	2節 発生と遺伝子発現	12	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>動物の配偶子形成、受精膜の形成のしくみを理解している。</li> <li>・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解している。</li> <li>誘導のしくみを理解し、動物の器官が連鎖的に形成されていくことを理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ショウジョウバエの頭尾軸決定に関する実験結果をもとに、動物の発生において、軸の形成には卵に蓄積された母性因子が関与していることを理解している。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発生のしくみについて、誘導現象など代表的な例について理解しようとする。</li> <li>・実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程を考察、理解しようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物の配偶子形成、受精膜の形成のしくみを理解している。</li> <li>・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解している。</li> <li>誘導のしくみを理解し、動物の器官が連鎖的に形成されていくことを理解している。(定期考査・課題提出)</li> <li>・ショウジョウバエの頭尾軸決定に関する実験結果をもとに、動物の発生において、軸の形成には卵に蓄積された母性因子が関与していることを理解している。(発問評価・課題提出)</li> <li>・発生のしくみについて、誘導現象など代表的な例について理解しようとする。</li> <li>・実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程を考察、理解しようとする。(発問評価・授業態度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受精では、生殖細胞の合体によって染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができることを重点的に理解させる。</li> <li>・発生の過程では代表的な動物としてカエルを例にあげ、ヒトについても基本的なしくみは同じであることを理解させる。</li> <li>・器官形成は代表的なものについて把握させ、理解させる。</li> <li>・発生のしくみについては、誘導現象など代表的な例について理解させ、実験によってそのしくみが次第に明らかになってきた過程に重点をおいて探究的に考察させる。</li> </ul>	実験・発表	

2月 3月	3節 遺伝子を扱う技術	15	<p>① 知識・技能 ・電気泳動の原理を理解し、実験によって、設定したDNA断片の長さに応じた適切な泳動結果を得ることができる。 バイオテクノロジーの医療・農業等への応用されている事例や方法を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解するとともに、そのマイナス面についても目を向け、考察し、表現することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 バイオテクノロジーについて関心を持ち、生活にどのように役立っているのかを知ろうとする。</p>	<p>・電気泳動の原理を理解し、実験によって、設定したDNA断片の長さに応じた適切な泳動結果を得ることができる。 (実験評価) バイオテクノロジーの医療・農業等への応用されている事例や方法を理解している。 (定期考査)</p> <p>・バイオテクノロジーの発達が人類の生活を豊かにする可能性があることを理解するとともに、そのマイナス面についても目を向け、考察し、表現することができる。 (発問評価・課題提出)</p> <p>バイオテクノロジーについて関心を持ち、生活にどのように役立っているのかを知ろうとする。 発問評価・授業態度</p>	<p>・バイオテクノロジーについては、遺伝子操作が様々な分野で研究手法として用いられていることを、実例を通して把握させる。</p> <p>・遺伝子組換えや組織培養、核移植、細胞融合などの技術が医療や有用物質の合成、作物の品種改良などに利用されていることを実例を通して把握させる。</p> <p>・バイオテクノロジーの利用については、まだ様々な課題があるので、その推進に当たっては十分な配慮が大切であることも理解させる。</p>	実験・発表	
指導時間数の計		105					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
体育	2	全日制・普通科・2学年	なし

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。 (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。 (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第2週	体づくり運動	8	① 知識・技能 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方などを理解するとともに、自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てること。 ② 思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 体づくり運動に主体的に取り組むとともに、互いに助け合い高め合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、合意形成に貢献しようとするなど、健康・安全を確保すること。	実技テスト  授業の様子 学習ノート  授業の様子 学習ノート	グループ活動 全体活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
5月 第3週 ～ 6月 第2週	ダンス	10	① 知識・技能 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。 ② 思考・判断・表現 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなど、健康・安全を確保すること。	実技テスト  授業の様子 学習ノート  授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	
6月 第3週 ～ 7月 第1週	体育理論	6	① 知識 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。※体育理論については「技能」に係る評価の対象がないことから、「技能」の評価規準は設定していない。 ② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見しよりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。	テスト  授業の様子 ワークシート  授業の様子 ワークシート	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) ・小テスト	自己に応じた目標の設定、目標を達成するための課題の設定、課題解決のための練習法などを選択と実践、演技や発表を通じた学習成果の確認、新たな目標の設定といった課題解決の方法を活用するなど、知識を実践に活用する学習活動を充実すること。	
7月 第2週 ～ 9月 第4週	球技(ベースボール型)	10	① 知識・技能 ベースボール型は、易しい投球に対する安定したバット操作により出塁、進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻防を展開できるようにする。 ② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについて話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとするなど、健康・安全を確保すること。	実技テスト  授業の様子 学習ノート  授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。	

10月 第1週 ～ 11月 第2週	球技(ゴール型)	10	<p>① 知識・技能 ゴール型は、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できるようにする。</p> <p>② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	実技テスト  授業の様子 学習ノート  授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。
11月 第3週 ～ 12月 第3週	陸上競技(長距離走)	8	<p>① 知識・技能 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、長距離走では、自己に適したペースを維持して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。</p> <p>② 思考・判断・表現 合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えること。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 陸上競技に自主的に取り組むとともに、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどや、健康・安全を確保すること。</p>	実技テスト  授業の様子 学習ノート  授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。
1月 第2週 ～ 2月 第2週	球技(ネット型)	10	<p>① 知識・技能 ネット型は、ポジションの役割に応じたボールや用具の操作によって、仲間と連携した「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立てたりして、相手側のコートに空いた場所をめぐる攻防を展開できるようにする。</p> <p>② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	実技テスト  授業の様子 学習ノート  授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。
2月 第3週 ～ 3月 第3週	球技(選択)	8	<p>① 知識・技能 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。</p> <p>② 思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	実技テスト  授業の様子 学習ノート  授業の様子 学習ノート	個別活動 グループ活動	体を動かしながら相手や仲間の動きの修正を伝えること、ともに学ぶ仲間の感情に配慮したコミュニケーションを図ること、称賛すべき所作やマナーなどに敬意を払い自身が感じた思いを伝えること。
指導時間数の計		70				

学校の教育目標		すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校					
教科の目標		体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 (3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。					
科目名	単位数	課程・学科・学年			使用教科書名(出版社)		
保健	1	全日制・普通科・2学年			新高等保健体育(大修館書店)		
科目の目標		保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。					
時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 5月	第3章 生涯を通じる健康 (1) 思春期と健康 (2) 性意識の変化と性行動の選択 (3) 結婚生活と健康 (4) 妊娠・出産と健康 (5) 家族計画	7	① 知識・技能 思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあることを理解できるようにする。その際、これらの変化に対応して、自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解できるようにする。なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の理解を得ることなどに配慮することが大切である。 結婚生活について、心身の発達や健康の保持増進の観点から理解できるようにする。その際、受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題について理解できるようにするとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わることについて理解できるようにする。また、家族計画の意義や人工妊娠中絶の心身への影響などについても理解できるようにする。また、結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であることを理解できるようにする。なお、妊娠のしやすさを含む男女それぞれの生に関わる機能については、必要に応じ関連付けて扱う程度とする。	テスト ワークシート	・講義 ・ワークシート作業 (グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	家庭科 理科(生物)
			② 思考・判断・表現 思春期と健康について、習得した知識を基に、心身の発達や性的成熟に伴う健康課題を解決するために、性に関わる情報を適切に整理すること。 結婚生活と健康について、習得した知識を基に、結婚生活に伴う健康課題の解決や生活の質の向上に向けて、保健・医療サービスの活用方法を整理すること。	ワークシート レポート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	観察 ワークシート			
6月 7月	(6) 加齢と健康 (7) 高齢社会対応した取り組み (8) 働くことと健康 (9) 労働災害の防止 (10) 働く人の健康づくり	4	① 知識・技能 中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、生きがいをもち、運動やスポーツに取り組むこと、家族や友人などとの良好な関係を保つこと、地域における交流をもちことなどが関係することを理解できるようにする。また、高齢期には、加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まること、健康の回復が長期化する傾向にあることについて理解できるようにする。さらに、高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まることなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であることを理解できるようにする。その際、心身の機能障害及びリハビリテーションについても触れるようにする。 労働による傷害や職業病などの労働災害は、作業形態や作業環境の変化に伴い質や量が変化してきたことを理解できるようにする。また、労働災害を防止するには、作業形態や作業環境の改善、長時間労働をはじめとする過重労働の防止を含む健康管理と安全管理が必要であることを理解できるようにする。その際、仕事のストレスによる精神疾患が含まれていることにも触れるようにする。働く人の健康の保持増進は、職場の健康管理や安全管理とともに、心身両面にわたる総合的、積極的な対策の推進が図られることで成り立つことを理解できるようにする。その際、ストレスに対する気付きへの援助、リラクゼーションの指導など、メンタルヘルスマネジメントが重要視されていることにも触れるようにする。そのためには、働く人の日常生活においては、積極的に余暇を活用するなどして生活の質の向上を図ることなどで健康の保持増進を図っていくことが重要であることを理解できるようにする。	テスト ワークシート	・講義 ・ワークシート作業 (グループワーク) ・レポート作成	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	家庭科
			② 思考・判断・表現 加齢と健康について、習得した知識を基に、中高年期の疾病や事故のリスク軽減のための個人の取組と社会的対策を評価すること。 労働災害と健康について、習得した知識を基に、労働災害の防止に向けて、個人の取組と社会的対策を整理すること。 働く人の健康の保持増進について、習得した知識を基に、生活の質の向上を図ることと関連付けて、課題解決の方法に応用すること。	ワークシート レポート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 生涯を通じる健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。	観察 ワークシート			

<p>9月 10月</p>	<p>第4章 健康を支える環境づくり  (1)大気汚染と健康 (2)水質汚濁・土壌汚染と健康 (3)健康被害を防ぐための環境対策</p>	<p>7</p> <p>① 知識・技能 人間の生活や産業活動は、大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などの自然環境汚染を引き起こし、健康に影響を及ぼしたり被害をもたらしたりすることがあるということについて理解できるようにする。 なお、放射線による健康への影響についても、適宜触れるように配慮するものとする。 健康への影響や被害を防止するためには、汚染物質の排出をできるだけ抑制したり、排出された汚染物質を適切に処理したりすることなどが必要であることについて理解できるようにする。また、そのために環境基本法などの法律等が制定されており、環境基準の設定、排出物の規制、監視体制の整備などの総合的・計画的対策が講じられていることについて理解できるようにする。その際、廃棄物の処理と健康との関わりについても触れるようにする。</p> <p>② 思考・判断・表現 人間の生活や産業活動などによって引き起こされる自然環境汚染について、事例を通して整理し、疾病等のリスクを軽減するために、環境汚染の防止や改善の方策に応用すること。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。</p>	<p>テスト ワークシート</p> <p>ワークシート レポート 観察</p> <p>観察 ワークシート</p>	<p>・講義 ・ワークシート作業 (グループワーク) ・レポート作成</p>	<p>個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。</p>	<p>家庭科 理科（生物、化学）</p>
<p>11月 12月</p>	<p>(4)環境衛生に関わる活動 (5)食品の安全性と健康 (6)食品の安全性を確保する取り組み</p>	<p>5</p> <p>① 知識・技能 上下水道の整備、ごみやし尿などの廃棄物を適切に処理する等の環境衛生活動は、自然環境や学校・地域などの社会生活における環境、及び人々の健康を守るために行われていることについて理解できるようにする。また、その現状、問題点、対策などを総合的に把握し改善していかなければならないことについて、安全で良質な水の確保や廃棄物の処理と関連付けて理解できるようにする。 人々の健康を支えるためには、食品の安全性を確保することが重要であり、食品の安全性が損なわれると、健康に深刻な被害をもたらすことがあり、食品の安全性を確保することは健康の保持増進にとって重要であることについて理解できるようにする。なお、食品による食物アレルギーを起こす可能性もあることについて、取り上げるよう配慮する。 食品の安全性を確保するために、食品衛生法などの法律等が制定されており、様々な基準に基づいて食品衛生活動が行われていることや、食品の製造・加工・保存・流通など、各段階での適切な管理が重要であることについて理解できるようにする。 その際、衛生管理の一つの方法である危害要因分析重要管理点(HACCP)方式などについても触れるようにする。 また、食品衛生に関わる健康被害の防止と健康の保持増進には、適切に情報を公開、活用するなど行政・生産者・製造者・消費者などが互いに関係を保ちながら、それぞれの役割を果たすことが重要であることについて理解できるようにする。</p> <p>② 思考・判断・表現 食品の安全性と食品衛生に関わる活動について、習得した知識を自他の日常生活に適用して、健康被害の防止と健康を保持増進するための計画を立てること。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。</p>	<p>テスト ワークシート</p> <p>ワークシート レポート 観察</p> <p>観察 ワークシート</p>	<p>・講義 ・ワークシート作業 (グループワーク) ・レポート作成</p>	<p>個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。</p>	<p>家庭科</p>
<p>1月 2月</p>	<p>(7)保健制度とその活用 (8)医療制度とその活用 (9)医薬品の制度とその活用</p>	<p>3</p> <p>① 知識・技能 我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて理解できるようにする。 その際、介護保険、臓器移植、献血の制度があることについても適宜触れるようにする。 健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて理解できるようにする。 その際、心身の健康の保持増進にとって、豊かなスポーツライフの実現が重要であることから、生涯スポーツの実践を支える環境づくりやその活用についても触れるようにする。 医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていることについて理解できるようにする。また、疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用方法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて理解できるようにする。その際、副作用については、予期できるものと、予期することが困難なものがあることにも触れるようにする。</p> <p>② 思考・判断・表現 医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理すること</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。</p>	<p>テスト ワークシート</p> <p>ワークシート レポート 観察</p> <p>観察 ワークシート</p>	<p>・講義 ・ワークシート作業 (グループワーク) ・レポート作成</p>	<p>個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。</p>	<p>家庭科</p>

3月	(10)様々な保健活動や対策 (11)誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	<p>① 知識・技能 我が国や世界では、健康を支えるために、健康課題に対応して各種の保健活動や社会的対策が行われていることについて理解できるようにする。その際、日本赤十字社などの民間の機関や、特定非営利活動法人（NPO）・非政府組織（NGO）の諸活動、世界保健機関などの国際機関等の活動について、ヘルスプロモーションの考え方に基づくものも含めて触れるようにする。また、このような活動や対策を充実させるためには、一人一人がそれらを理解し支えることが重要であることに触れるようにする。 自他の健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりが重要であることについて理解できるようにする。 また、一人一人が健康に関心を持ち、健康を支える適切な環境づくりに積極的に参加していくことが必要であり、そのことが自分を含めた世界の人々の健康の保持増進につながることに理解できるようにする。その際、それらを実現するには、健康に関する適切な情報を選択・収集して、正しく分析・評価し、活用・発信することが有効であることについて触れるようにする。</p> <p>② 思考・判断・表現 ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりに積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、分析・評価し計画を立てること</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明すること。</p>	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・ワークシート作業（グループワーク）</li> <li>・レポート作成</li> </ul>	個人及び社会生活における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。	
指導時間数の計	35					

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	日常的・社会的な話題について、一定の支援を活用すれば、 1. 必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 2. 必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握したり、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたりすることができる。 3. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の文で詳しく話して伝え合うやり取りを続けたり、論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝え合ったりすることができる。 4. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の文で詳しく話して伝えることができる。 5. 多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
英語コミュニケーションⅡ	3	全日制普通科	Power on English Communication Ⅱ (東京書籍)

CAN-DOリストに基づく年度末の学習到達目標	聞くこと(L):身近な話題や社会的話題に関する対話やまとりのある英文を聞き取り、その概要や要点を理解することができる。 読むこと(R):身近な話題や社会的話題に関する会話や説明、資料などを読んで、概要や要点を把握することができる。 話すこと[やり取り](SI):身近な話題や社会的話題について、相手に応答しながら会話を続けたり、情報や意見を交換したりすることができる。 話すこと[発表](SP):身近な話題や社会的話題について、相手に分かりやすいように考えを整理して、概要や要点を説明したり、自分の意見を話したりすることができる。 書くこと(W):身近な話題や社会的話題について、まとりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができる。
-------------------------	---

時期 月 週日	単元・題材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の 育成に関わる他教科等との関連
4月 1週～2週	Tips for Reading 1 フレーズリーディング/句読法 Tips for Reading 2 ディスコースマーカー Tips for Reading 3 未知語の意味の推測	9	[知識]ピリオド、コンマ、クエスチョンマーク、エクスクラメーションマークなどの基本的な記号の使い方について理解している。[技能]英文を意味のまとまりごとに区切って読み、構造や意味を明確に捉えることができる。[知識]順序、追加や比較、具体例や詳細、結果、条件、譲歩と反論を示すディスコースマーカーの使い方について理解する。	・対話文を読んで、概要を表にまとめる。 ・対話文で用いられている語句や表現を活用しながら、扱われている発明品について、ペアで自分の意見を理由とともに話して伝え合う。 ・発明品に関する初見の説明文を読んで、説明文で用いられている語句や文を活用しながら、その発明品について説明するとともに、自分の考えや意見を理由とともに話して伝える。	・活動の観察 ・インタビューテスト(第8時)	
4月 3週～4週	Lesson 1 Play me, I'm Yours	9	[知識]助動詞+動詞の原形、受け身、S+V[be 動詞以外]+Cを用いた文の形・意味・用法を理解している。[技能]日本や海外でのストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて、助動詞+動詞の原形、受け身、S+V[be 動詞以外]+Cなどの理解を基に、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	日本や海外でのストリートピアノと人々・社会とのかかわりについて、助動詞+動詞の原形、受け身、S+V[be 動詞以外]+Cなどの理解を基に、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、ストリートピアノがどのような経緯で設置されたかについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	・Lesson 1～4の課末ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)	
5月	Lesson2 Ethical Fashion Zoom in with コーパス	9	ファストファッションの背後にある問題やエシカルファッションについて、S+V+O+C[形容詞]、S+V[使役]+O+C[原形不定詞]、S+V[知覚]+O+C[現在分詞、原形不定詞]などの理解を基に、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、自分の好きなファッションブランドのエシカルな活動について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	S+V+O+C[形容詞]、S+V[使役]+O+C[原形不定詞]、S+V[知覚]+O+C[現在分詞、原形不定詞]を用いた文の形・意味・用法を理解する。ファストファッションの背後にある問題やエシカルファッションについて、S+V+O+C[形容詞]、S+V[使役]+O+C[原形不定詞]、S+V[知覚]+O+C[現在分詞、原形不定詞]などの理解を基に、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、自分の好きなファッションブランドのエシカルな活動について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	・Lesson 1～4の課末ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)	
6月	Lesson3 One for all, All for one	9	現在完了形、過去完了形、仮定法過去のif節を用いた文の形・意味・用法を理解する。ラグビー選手のマイケル・リーチ選手について、現在完了形、過去完了形、仮定法過去のif節などの理解を基に、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、自分の好きなスポーツ選手や有名人について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	ラグビー選手のマイケル・リーチ選手について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の好きなスポーツ選手や有名人について、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える。	・Lesson 1～4の課末ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)	
7月	Lesson 4 Vending Machine	9	関係代名詞(主格)、関係代名詞の非制限用法、関係代名詞(目的格)を用いた文の形・意味・用法を理解している。日本と海外の自動販売機について、関係代名詞(主格)、関係代名詞の非制限用法、関係代名詞(目的格)などの理解を基に、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、海外のユニークな自動販売機について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	日本と海外の自動販売機について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外のユニークな自動販売機について、情報や自分の考えなどを詳しく話したり書いたりして伝える。	・Lesson 1～4の課末ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)	
9月	Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue	9	ブレイルノイエの開発の経緯や利点と可能性について、助動詞+受け身、S+V+O+C[分詞]、S+V+O[if節]、It seems [appears] +that節などの理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、ブレイルノイエの利点と活用方法について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	ブレイルノイエの開発の経緯や利点と可能性について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、ブレイルノイエの利点と活用方法について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。	・Lesson 5～8の課末 ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)	
9月～10月	Essay Writing 1 エッセイの構成要素 Zoom in with コーパス	9	ごみを減らすために必要なことについて、エッセイの構成に留意して書く技能を身に付ける。エッセイの構成要素(序論、本論、結論)とその役割を理解する。「とても」という意味を表す副詞の選び方に留意し、表現の幅を広げる技能を身に付ける。	ごみを減らすために必要なことについて、エッセイの構成に留意しながら、情報や考えを論理性に注意して、複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えている。	・Lesson 5～8の課末 ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)	
10月～11月	Lesson 6 New banknotes	9	新紙幣とキャッシュレス社会について、It+is[was]+said+that節、形式目的語it+that節、形式目的語to不定詞、助動詞+have+過去分詞などの理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、キャッシュレス社会の長所・短所について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	新紙幣とキャッシュレス社会について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、キャッシュレス社会の長所・短所について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。	・Lesson 5～8の課末 ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)	
12月	Lesson7 Some Secrets about colors	9	色の心理的効果について、関係代名詞(所有格)、同格を表す接続詞that、前置詞+関係代名詞、関係副詞whereの非制限用法などの理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、色の心理的効果を考慮した部屋の壁の色について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付けている。	色の心理的効果について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、色の心理的効果を考慮した部屋の壁の色について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。	・Lesson 5～8の課末 ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)	

1月	Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problems	8	納豆パウダーの開発の経緯と汚水を浄化するしくみや、発展途上国への影響について、強調構文、強調の助動詞do、直前の文を先行詞とする関係代名詞which、to+have+過去分詞などの理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、納豆パウダーという製品の利点などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	納豆パウダーの開発の経緯と汚水を浄化するしくみや、発展途上国への影響について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、納豆パウダーという製品の利点などについて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。	・Lesson 5～8の課末 ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)
2月	Lesson9 Flying after Her dream	8	黒人女性初のパイロットであるベシー・コールマンの経歴や人物像や夢について、譲歩を表す副詞節、no matter how [where, when] (※要修正反映)、仮定法過去完了、分詞構文(過去分詞)などの理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、1900年頃のアメリカにおける女性の専門職の就労について、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	黒人女性初のパイロットであるベシー・コールマンの経歴や人物像や夢について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、1900年頃のアメリカにおける女性の専門職の就労について、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えようとしている。	Lesson 9～10の課末 ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)
3月	Lesson 10 To work or not to work?	8	各種のロボットやロボットの労働内容の変化について、過去完了進行形、be+to不定詞、未来完了形、insist など+that+S+V[動詞の原形]などの理解を基に、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えたり、自分が考案した生活に役立つロボットの形状や機能などについて、多様な語句や文を用いて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝える技能を身に付ける。	各種のロボットやロボットの労働内容の変化について、必要な情報、話・文章の展開や話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分が考案した生活に役立つロボットの形状や機能などについて、情報や自分の考えなどを論理性に注意して詳しく話したり書いたりして伝えている。	Lesson 9～10の課末 ActionにおけるWriteのライティング(およびワークシート)
指導時間数の計		105			

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
論理・表現Ⅱ	3	全日制普通科・2学年(文系)	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION II (開隆堂出版)

CAN-DOリストに基づく年度末の学習到達目標	聞くこと(L) :身近な話題や社会的話題に関する対話やまとまりのある英文を聞き取り、その概要や要点を理解することができる。 読むこと(R) :身近な話題や社会的話題に関する会話や説明、資料などを読んで、概要や要点を把握することができる。 話すこと[やりとり](SI) :身近な話題や社会的話題について、相手に応答しながら会話を続けたり、情報や意見を交換したりすることができる。 話すこと[発表](SP) :身近な話題や社会的話題について、相手に分かりやすいように考えを整理して、概要や要点を説明したり、自分の意見を話したりすることができる。 書くこと(W) :身近な話題や社会的話題について、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができる。
-------------------------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4~5 月	Lesson1 Reflections Before Starting a New Life	5	現在と過去を表す文や進行形の用法の理解をもとに、自分や友だちの興味・関心について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。	自分や友だちの興味・関心について紹介する。 質問する、説明する、話題を変える	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Lesson2 Let Your Dreams Come True	5	未来を表す文の理解をもとに、自分の将来の計画や夢について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。	自分の将来の計画や夢について紹介する 質問する、説明する、共感する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Step Up Paragraph Writing 1	4	パラグラフの構成を意識しながら、ディスコースマーカ―などを活用し、自分の意見を適切にまとめることができる。	構成を考えながら英文を作る。 主張する、理由を述べる	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
5~6 月	Lesson3 Dos and Don'ts in Social Media	5	助動詞を使った文の理解をもとに、SNSの使い方について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。	SNSの使い方について発表する。 質問する、説明する、賛成する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Scene 1 電話をしよう	2	電話をするときに使ういろいろな表現を使いながら、多様な状況で会話することができる。電話をするときの多様な状況を想定しながら、自分の希望や意志を相手にわかりやすく伝えることができる。	電話をするときの多様な状況を想定して会話をする。 質問する、誘う、提案する、賛成する、断る	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson4 Future Prospects	5	完了形を使った文の理解をもとに、SNSの使い方について、ペアやグループでの話し合いをとおして、自分たちの考えをまとめ、それを聞き手にわかりやすく伝えることができる。将来予測される事柄について紹介することができる。	将来予測される事柄について発表する。 質問する、説明する	・定期考査 ・授業での取り組み	
7月	Step Up Presentation 1	5	スライドを使ってプレゼンテーションをする方法の理解をもとに、スライドを使ったプレゼンテーションを実行できる。	スライドを使ってプレゼンテーションをする。 説明する、理由を述べる、要約する、主張する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson5 Let's Keep in Good Shape	5	受動態を使った文の理解をもとに、健康によいと言われている行動について発表することができる。将来予測される事柄について、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。	健康によいと言われている行動について発表する。 心配する、報告する、質問する、説明する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Scene 2 買ったものを交換しよう	2	購入品を交換するときを使ういろいろな表現の理解をもとに、多様な状況で会話することができる。	購入品を交換する状況を想定して会話をする。 質問する、説明する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
9月	Lesson6 Energy Consumptions in the World	5	比較級、最上級を使った文の理解をもとに、世界のエネルギー消費の実態について、問題点も含めて、データからわかることを発表することができる。問題点も含め、グループでの話し合いをとおして、自分たちの考えをまとめ、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	世界のエネルギー消費の実態について、問題点も含めて発表する。 主張する、質問する、説明する、理由を述べる	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Lesson7 Voter Turnout in Comparison	5	同等比較、倍数比較を使った文の理解をもとに、国ごとの投票率の違いについて、データからわかることを発表することができる。	国ごとの投票率の違いについて、その背景を含めて発表する 報告する、説明する、驚く、主張する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Step Up Debate 1	5	ディベートの手順を考えながら、多様なテーマについての自分たちの考えを、聞き手に対して論理的、かつわかりやすく伝えることができる。	ディベートの準備をする。 説明する、理由を述べる、主張する、賛成する、反対する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	

10月	Lesson8 What has impressed Me the Most	5	動名詞のさまざまな用法を学び、物事の特徴などについて表現の幅を広げる。ペアワークなどを通し、これまでに感銘を受けた人物や本などについて、積極的に紹介することができる。	これまでに感銘を受けた人物や本などについて紹介する。 質問する、説明する、感謝する、共感する、賛成する、感想を伝える、薦める	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Scene3 招待状を書こう	2	イベントの趣旨や日時・場所・準備物等の詳細を伝えるための語句や表現を理解したうえで、その知識を活用し、開催予定のイベントについて、招待状を書くことができる。	さまざまな場面で招待状を書く想定で文章を書く。 質問する、提案する、誘う、申し出る	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson9 Sports for Everybody	5	to不定詞、原形不定詞の用法を理解したうえで、その知識を活用し、自分たちで考えたスポーツのルールや目的などについて、わかりやすく的確に表現し、説明することができる。	年齢・性別に関係なく楽しめるスポーツについて紹介する。 質問する、説明する、賛成する、驚く	・定期考査 ・授業での取り組み	
11月	Step Up Paragraph Writing 2	4	英語のパラグラフの構造や各文の役割を理解したうえで、その知識を活用し、自身の意見や主張を正確に伝えるために、3つのパラグラフで論理的に構成することができる。	複数のパラグラフに分けて、意見や考えをまとめながら英文を書く。 主張する、説明する、賛成する、反対する、理由を述べる、要約する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson10 The Latest News from around the World	5	分詞の用法を理解したうえで、その知識を活用し、自然災害の映像を描写したり、被害状況などについて、わかりやすく的確に表現し、説明したりすることができる。	報道番組で取り上げたいニュースについて説明する。 質問する、説明する、描写する、推論する、驚く	・定期考査 ・授業での取り組み	
12月	Lesson11 Let's Find Out What We Can Do for Others	5	関係代名詞の用法を理解したうえで、その知識を活用し、ボランティア募集のポスターを作成し、わかりやすく的確に表現し、発表することができる。	国内外で必要とされているボランティア活動について発表する。 質問する、説明する、要約する、言い換える	・定期考査 ・授業での取り組み	
1月	Step Up Presentation 2	5	プレゼンテーションに必要な表現を理解したうえで、その知識を活用し、表やグラフ等でデータのデータを示しながら、あるテーマについて自らプレゼンテーションをすることができる。	データを使ってプレゼンテーションをする。 説明する、主張する、理由を述べる、要約する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson12 Learn about Other Countries and People	5	関係副詞や複合関係副詞の用法を理解したうえで、その知識を活用し、自分や友達が済みたいと思う世界の国々に関して、わかりやすく的確に表現し、発表することができる。	将来住みたい場所について、その魅力が伝わるように説明する。 質問する、説明する、賛成する、主張する、褒める	・定期考査 ・授業での取り組み	
1~2月	Lesson13 Global Issues	5	仮定法のさまざまな用法を理解したうえで、その知識を活用し、環境問題や社会問題を解決する方法についての的確に相手に伝えることができ、また、解決方法を自ら考え、発表することができる。	環境問題や社会問題について、その解決方法を的確に説明する。 言い換える、仮定する、質問する、説明する、賛成する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Lesson14 Food Culture around the World	5	特殊構文の用法を理解したうえで、その知識を活用し、さまざまな国の食文化とその背景について、わかりやすく的確に表現し、説明することができる。	さまざまな国の食文化について、その背景も含めて発表する。 質問する、説明する、仮定する、要約する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
3月	Step Up Debate 2	6	ディベートの手順を考えながら、多様なテーマについての自分たちの考えを、聞き手に対して論理的、かつわかりやすく伝えることができる。	オンライン通信はよいかどうかについて本格的なディベートをする。 主張する、反対する、理由を述べる、要約する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
指導時間数の計		105				

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能) ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
論理・表現Ⅱ	2	全日制普通科・2学年(理系)	APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION II (開隆堂出版)

CAN-DOリストに基づく年度末の学習到達目標	聞くこと(L) : 身近な話題や社会的話題に関する対話やまとまりのある英文を聞き取り、その概要や要点を理解することができる。 読むこと(R) : 身近な話題や社会的話題に関する会話や説明、資料などを読んで、概要や要点を把握することができる。 話すこと[やりとり](SI) : 身近な話題や社会的話題について、相手に応答しながら会話を続けたり、情報や意見を交換したりすることができる。 話すこと[発表](SP) : 身近な話題や社会的話題について、相手に分かりやすいように考えを整理して、概要や要点を説明したり、自分の意見を話したりすることができる。 書くこと(W) : 身近な話題や社会的話題について、まとまりのある文章で具体的に説明するとともに、自分の意見やその理由を加えて書くことができる。
-------------------------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4~5 月	Lesson1 Reflections Before Starting a New Life	3	現在と過去を表す文や進行形の用法の理解をもとに、自分や友だちの興味・関心について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。	自分や友だちの興味・関心について紹介する。 質問する、説明する、話題を変える	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Lesson2 Let Your Dreams Come True	3	未来を表す文の理解をもとに、自分の将来の計画や夢について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。	自分の将来の計画や夢について紹介する 質問する、説明する、共感する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Step Up Paragraph Writing 1	3	パラグラフの構成を意識しながら、ディスコースマーカ―などを活用し、自分の意見を適切にまとめることができる。	構成を考えながら英文を作る。 主張する、理由を述べる	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
5~6 月	Lesson3 Dos and Don'ts in Social Media	3	助動詞を使った文の理解をもとに、SNSの使い方について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。	SNSの使い方について発表する。 質問する、説明する、賛成する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Scene 1 電話をしよう	2	電話をするときに使ういろいろな表現を使いながら、多様な状況で会話することができる。電話をするときの多様な状況を想定しながら、自分の希望や意志を相手にわかりやすく伝えることができる。	電話をするときの多様な状況を想定して会話を する。 質問する、誘う、提案する、賛成する、断る	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson4 Future Prospects	3	完了形を使った文の理解をもとに、SNSの使い方について、ペアやグループでの話し合いをとおして、自分たちの考えをまとめ、それを聞き手にわかりやすく伝えることができる。将来予測される事柄について紹介することができる。	将来予測される事柄について発表する。 質問する、説明する	・定期考査 ・授業での取り組み	
7月	Step Up Presentation 1	3	スライドを使ってプレゼンテーションをする方法の理解をもとに、スライドを使ったプレゼンテーションを実行できる。	スライドを使ってプレゼンテーションをする。 説明する、理由を述べる、要約する、主張する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson5 Let's Keep in Good Shape	3	受動態を使った文の理解をもとに、健康によいと言われている行動について発表することができる。将来予測される事柄について、自分の考えを聞き手にわかりやすく伝えることができる。	健康によいと言われている行動について発表する。 心配する、報告する、質問する、説明する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Scene 2 買ったものを交換しよう	2	購入品を交換するときに使ういろいろな表現の理解をもとに、多様な状況で会話することができる。	購入品を交換する状況を想定して会話を する。 質問する、説明する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
9月	Lesson6 Energy Consumptions in the World	3	比較級、最上級を使った文の理解をもとに、世界のエネルギー消費の実態について、問題点も含めて、データからわかることを発表することができる。問題点も含め、グループでの話し合いをとおして、自分たちの考えをまとめ、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	世界のエネルギー消費の実態について、問題点も含めて発表する。 主張する、質問する、説明する、理由を述べる	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Lesson7 Voter Turnout in Comparison	3	同等比較、倍数比較を使った文の理解をもとに、国ごとの投票率の違いについて、データからわかることを発表することができる。	国ごとの投票率の違いについて、その背景を含めて発表する 報告する、説明する、驚く、主張する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Step Up Debate 1	4	ディベートの手順を考えながら、多様なテーマについての自分たちの考えを、聞き手に対して論理的、かつわかりやすく伝えることができる。	ディベートの準備をする。 説明する、理由を述べる、主張する、賛成する、反対する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	

10月	Lesson8 What has impressed Me the Most	3	動名詞のさまざまな用法を学び、物事の特徴などについて表現の幅を広げる。ペアワークなどを通し、これまでに感銘を受けた人物や本などについて、積極的に紹介することができる。	これまでに感銘を受けた人物や本などについて紹介する。 質問する、説明する、感謝する、共感する、賛成する、感想を伝える、薦める	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Scene3 招待状を書こう	2	イベントの趣旨や日時・場所・準備物等の詳細を伝えるための語句や表現を理解したうえで、その知識を活用し、開催予定のイベントについて、招待状を書くことができる。	さまざまな場面で招待状を書く想定で文章を書く。 質問する、提案する、誘う、申し出る	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson9 Sports for Everybody	3	to不定詞、原形不定詞の用法を理解したうえで、その知識を活用し、自分たちで考えたスポーツのルールや目的などについて、わかりやすく的確に表現し、説明することができる。	年齢・性別に関係なく楽しめるスポーツについて紹介する。 質問する、説明する、賛成する、驚く	・定期考査 ・授業での取り組み	
11月	Step Up Paragraph Writing 2	4	英語のパラグラフの構造や各文の役割を理解したうえで、その知識を活用し、自身の意見や主張を正確に伝えるために、3つのパラグラフで論理的に構成することができる。	複数のパラグラフに分けて、意見や考えをまとめながら英文を書く。 主張する、説明する、賛成する、反対する、理由を述べる、要約する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson10 The Latest News from around the World	3	分詞の用法を理解したうえで、その知識を活用し、自然災害の映像を描写したり、被害状況などについて、わかりやすく的確に表現し、説明したりすることができる。	報道番組で取り上げたいニュースについて説明する。 質問する、説明する、描写する、推論する、驚く	・定期考査 ・授業での取り組み	
12月	Lesson11 Let's Find Out What We Can Do for Others	3	関係代名詞の用法を理解したうえで、その知識を活用し、ボランティア募集のポスターを作成し、わかりやすく的確に表現し、発表することができる。	国内外で必要とされているボランティア活動について発表する。 質問する、説明する、要約する、言い換える	・定期考査 ・授業での取り組み	
1月	Step Up Presentation 2	4	プレゼンテーションに必要な表現を理解したうえで、その知識を活用し、表やグラフ等でデータのデータを示しながら、あるテーマについて自らプレゼンテーションをすることができる。	データを使ってプレゼンテーションをする。 説明する、主張する、理由を述べる、要約する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
	Lesson12 Learn about Other Countries and People	3	関係副詞や複合関係副詞の用法を理解したうえで、その知識を活用し、自分や友達が済みたいと思う世界の国々に関して、わかりやすく的確に表現し、発表することができる。	将来住みたい場所について、その魅力が伝わるように説明する。 質問する、説明する、賛成する、主張する、褒める	・定期考査 ・授業での取り組み	
1～2月	Lesson13 Global Issues	3	仮定法のさまざまな用法を理解したうえで、その知識を活用し、環境問題や社会問題を解決する方法についての的確に相手に伝えることができ、また、解決方法を自ら考え、発表することができる。	環境問題や社会問題について、その解決方法を的確に説明する。 言い換える、仮定する、質問する、説明する、賛成する	・定期考査 ・授業での取り組み	
	Lesson14 Food Culture around the World	3	特殊構文の用法を理解したうえで、その知識を活用し、さまざまな国の食文化とその背景について、わかりやすく的確に表現し、説明することができる。	さまざまな国の食文化について、その背景も含めて発表する。 質問する、説明する、仮定する、要約する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
3月	Step Up Debate 2	4	ディベートの手順を考えながら、多様なテーマについての自分たちの考えを、聞き手に対して論理的、かつわかりやすく伝えることができる。	オンライン通信はよいかどうかについて本格的なディベートをする。 主張する、反対する、理由を述べる、要約する	・Comprehensibility 「分かり易さ」 ・attitude 「積極性」	
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	すべての生徒が以下の資質を身に付け、かつ実践できるようになるための教育活動を地域や家庭と連携して提供する学校域や家庭と連携して提供する学校 ① 主体的に学校生活に取り組み、自らの学校生活を充実させることができる ② 一人の人格として尊重され、自己実現・進路希望の実現を図ることができる ③ 多様性を尊重し、課題に対して協力して解決を図ることができる ④ 一市民としての意識を醸成し、社会に寄与することができる
---------	--

教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
情報 I	2	全日制・普通科・2年	数研出版『改訂版高等学校 情報 I』(104-901)

科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 5月	第1編 情報社会の問題解決 第1章 情報とメディア A 情報とは何か B 情報源と情報の検証 C 情報とメディアの特性 D 問題解決のプロセス	5	① 知識・技能 ・情報やメディアを理解できる。 ・情報の特性を理解できる。 ・問題を発見・解決するための一連の流れを理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・いろいろな考えを目的に沿って整理することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えようとしている。	・情報やメディアを理解できる。 ・情報の特性を理解できる。 ・問題を発見・解決するための一連の流れを理解できる。 (定期考査) ・いろいろな考えを目的に沿って整理することができる。 (発問評価・課題提出)	・何気なく使っている言葉である「情報」とは何かを理解させる。 ・様々なメディアの特徴や、情報の適切な表現形式について理解させる。 ・情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付けさせる。 ・問題解決の目的や状況に応じて、情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えさせる。	課題・発表	
5月 6月	第2章 情報社会における法とセキュリティ A 情報社会と法規・制度 B 個人情報の適正な利活用と保護 C 知的財産権 D 情報セキュリティ E 情報セキュリティ対策のための技術 F 情報セキュリティ対策への意識	8	① 知識・技能 ・知的財産権の定義と関連した法規を理解できる。 ・個人情報とは何か理解できる。 ・個人情報やプライバシーに関連した法規を理解できる。 ・情報セキュリティで確保すべき要素を理解できる。 ・情報セキュリティに関する法規や制度を理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・正しい引用で表現できる。 ・個人情報が流出する原因を判断できる。 ・個人のマナーの意味を考えることができる。 ・ファイアウォールの役割と機能を説明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・情報社会において個人の果たす役割や責任について考えている。	・知的財産権の定義と関連した法規を理解できる。 ・個人情報とは何か理解できる。 ・個人情報やプライバシーに関連した法規を理解できる。 ・情報セキュリティで確保すべき要素を理解できる。 ・情報セキュリティに関する法規や制度を理解できる。 (定期考査) ・正しい引用で表現できる。 ・個人情報が流出する原因を判断できる。 ・個人のマナーの意味を考えることができる。 ・ファイアウォールの役割と機能を説明できる。 (発問評価・授業態度)	・情報社会でよりよく生きるために、情報に関する法規・制度や情報社会における個人の責任、情報モラルにもとづいた行動について理解させる。 ・個人情報やプライバシーの保護・活用に関連する法律の意義や目的、内容について理解させる。 ・著作権などの知的財産権の保護の必要性とともに、そのために必要な法規及び個人の責任について理解させる。 ・情報社会の問題点をふまえて、情報セキュリティの重要性を理解させるとともに、ユーザ認証やアクセス制御などの技術、セキュリティ対策の方法を理解させる。 ・情報社会において個人の果たす役割や責任について考えさせる。	課題・発表	
7月	第3章 情報技術が社会に及ぼす影響 A 情報技術の発展の光と影 B 情報技術の適切な活用	3	① 知識・技能 ・情報技術による社会や生活の変化が理解できる。 ・情報化による健康への影響やデジタルデバイドなどの「影」の部分を理解できる。 ② 思考・判断・表現 ・情報技術の発達によるメディアとコミュニケーションの変化を考えられる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えている。	・情報技術による社会や生活の変化が理解できる。 ・情報化による健康への影響やデジタルデバイドなどの「影」の部分を理解できる。 (定期考査・発問評価) ・情報技術の発達によるメディアとコミュニケーションの変化を考えられる。 (定期考査)	・人工知能やデジタルトランスフォーメーションなど、発展する情報技術と情報技術がもたらす社会の変化や経済の効率化について理解させる。 ・情報格差、インターネット依存症、インターネット上のトラブルなどを学び、情報技術の適切な活用について理解させる。 ・情報や情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考えさせる。	課題・発表	

9月	<p>第2編 コミュニケーションと情報デザイン</p> <p>第1章 情報のデジタル表現</p> <p>A アナログとデジタル</p> <p>B デジタル情報の表現</p> <p>C 文字のデジタル表現</p> <p>D 音のデジタル表現</p> <p>E 画像のデジタル表現</p> <p>F 動画のデジタル表現</p> <p>G データの圧縮</p>	7	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビットの概念、2進数・16進数による表現を理解できる。</li> <li>・文字コードについて理解できる。</li> <li>・音のデジタル化の標本化、量子化、符号化が理解できる。</li> <li>・画像のデジタル化の標本化、量子化、符号化が理解できる。</li> <li>・動画の仕組みが理解できる。</li> <li>・圧縮とその手法を理解できる。</li> <li>・可逆圧縮と非可逆圧縮の違いが理解できる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・画像と文字データの違いを考慮することができる。</li> <li>・解像度と色の階調からデータ量を考えることができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を、主体的かつ適切に取り扱おうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビットの概念、2進数・16進数による表現を理解できる。</li> <li>・文字コードについて理解できる。</li> <li>・音のデジタル化の標本化、量子化、符号化が理解できる。</li> <li>・画像のデジタル化の標本化、量子化、符号化が理解できる。</li> <li>・動画の仕組みが理解できる。</li> <li>・圧縮とその手法を理解できる。</li> <li>・可逆圧縮と非可逆圧縮の違いが理解できる。</li> </ul> <p>(定期考査・課題提出)</p> <p>・画像と文字データの違いを考慮することができる。 <p>・解像度と色の階調からデータ量を考えることができる。</p> <p>(発問評価)</p> <p>・数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を、主体的かつ適切に取り扱おうとしている。</p> <p>(授業態度)</p> </p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報のデジタル化の基礎的な知識として、アナログとデジタルのちがいを理解させる。</li> <li>・情報のデジタル化の基礎的な知識と技術として、ビットの概念、2進法による表現、文字、音、画像、動画のデジタル化の原理と表現方法を理解させる。</li> <li>・デジタル情報のデータ圧縮の原理と具体例について理解させる。</li> </ul>	課題・発表	
10月	<p>第2章 コミュニケーション手段の発展と特徴</p> <p>A 通信とその進展</p> <p>B マスコミュニケーションの進展</p> <p>C 情報の発信とメディアの性質</p>	4	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションと技術の関係を理解できる。</li> <li>・メディアの特性を理解できる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの場面で適切なメディアが選択できる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らのメディア活用について振り返り、より効果的な表現や情報伝達ができるように改善しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションと技術の関係を理解できる。</li> <li>・メディアの特性を理解できる。</li> </ul> <p>(定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの場面で適切なメディアが選択できる。</li> </ul> <p>(定期考査・発問評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自らのメディア活用について振り返り、より効果的な表現や情報伝達ができるように改善しようとしている。</li> </ul> <p>(授業態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代からの技術的な進歩やコンピュータを使った通信の歴史を概観し、コミュニケーション手段の発展について理解させる。</li> <li>・情報伝達のメディアの性質を科学的に理解させるとともに、情報をわかりやすく表現し効率的に伝達するために、適切な情報機器やメディアを選択し利用する方法を身に付けさせる。</li> </ul>	課題・発表	
10月	<p>第3章 情報デザイン</p> <p>A 情報を表現する方法</p> <p>B ユニバーサルデザイン</p>	4	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報デザインの目的を理解できる。</li> <li>・色や文字のデザインを理解できる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を整理し、抽象化、可視化、構造化して表現できる。</li> <li>・目的に沿って、情報を映像としてデザインすることができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く、情報デザインの方法を活用して、作品を作ろうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報デザインの目的を理解できる。</li> <li>・色や文字のデザインを理解できる。</li> </ul> <p>(定期考査・発問評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を整理し、抽象化、可視化、構造化して表現できる。</li> <li>・目的に沿って、情報を映像としてデザインすることができる。</li> </ul> <p>(課題提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く、情報デザインの方法を活用して、作品を作ろうとしている。</li> </ul> <p>(授業態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解させる。</li> <li>・情報を抽象化・構造化・可視化する方法を身に付けさせる。</li> <li>・情報を伝える目的や受け手の状況をふまえた適切かつ効果的な情報デザインを考えさせるとともに、それらを表現し、評価し改善する活動を行わせる。</li> <li>・ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について、身近な具体例を挙げながら理解させる。</li> </ul>	課題・発表	
11月	<p>第4章 プレゼンテーション</p> <p>A プレゼンテーションとは</p> <p>B プレゼンテーションの流れと注意点</p>	4	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの企画、準備、実施、評価・改善など、プレゼンテーションの流れについて説明することができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの企画、準備、実施、評価・改善など、プレゼンテーションの流れについて説明することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトを用いてわかりやすいスライド資料を作成し、適切かつ効果的にプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの企画、準備、実施、評価・改善など、プレゼンテーションの流れについて説明することができる。</li> </ul> <p>(定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトを用いてわかりやすいスライド資料を作成し、適切かつ効果的にプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul> <p>(定期考査・発問評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトを用いてわかりやすいスライド資料を作成し、適切かつ効果的にプレゼンテーションを行うことができる。</li> </ul> <p>(授業態度・課題提出)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション手段の1つとして用いられているプレゼンテーションの基本、重要性、手法を理解させるとともに、情報デザインの考え方や方法を表現する技能を身に付けさせる。</li> <li>・効果的なコミュニケーションを行うために、プレゼンテーションの注意点、プレゼンテーションソフトウェアの上手な使い方を身に付けさせるとともに、プレゼンテーションを実施し、評価し改善する活動を行わせる。</li> </ul>	課題・発表	

<p>11月 12月</p>	<p>第3編 コンピュータとプログラミング 第1章 コンピュータのしくみ A コンピュータの構成 B コンピュータのソフトウェア C コンピュータでの数値の内部表現</p>	<p>5</p>	<p>① 知識・技能 ・プレゼンテーションソフトを用いてわかりやすいスライド資料を作成し、適切かつ効果的にプレゼンテーションを行うことができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・情報機器を相互に接続するために、適切なインタフェースを選択することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・情報機器を相互に接続するために、適切なインタフェースを選択することができる。</p>	<p>・基本ソフトウェアと応用ソフトウェアの違いを理解できる。 ・コンピュータの処理とデータの流れを理解できる。 ・CPUでのプログラムの実行の仕組みを理解できる。 (定期考査)</p> <p>・情報機器を相互に接続するために、適切なインタフェースを選択することができる。 (定期考査)</p> <p>・情報機器を相互に接続するために、適切なインタフェースを選択することができる。 (発問評価・授業態度)</p>	<p>・コンピュータや外部装置の基本的なしくみや特徴を理解させる。 ・OSやアプリケーションプログラムなどのソフトウェアの基本的な機能を理解させる。 ・コンピュータの内部における情報の表現方法と計算に関する限界について理解させる。 ・コンピュータで扱われる数や情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考えさせる。</p>	<p>課題・発表</p>	
<p>12月 1月</p>	<p>第2章 プログラミング A アルゴリズム B プログラミング言語とは C プログラミングの方法</p>	<p>7</p>	<p>① 知識・技能 ・アルゴリズムの制御構造を理解できる。 ・フローチャートとアクティビティ図でアルゴリズムを表現できる。 ・プログラムのデータ構造を理解できる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・プログラムを作ることができる。 ・プログラムでアルゴリズムを表現できる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・アルゴリズムやフローチャート等の表記に、興味や関心を示している。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に、主体的に取り組んでいる。 ・プログラミング言語に興味を示し、実際に自ら活用している（活用した経験がある）。</p>	<p>・アルゴリズムの制御構造を理解できる。 ・フローチャートとアクティビティ図でアルゴリズムを表現できる。 ・プログラムのデータ構造を理解できる。 (定期考査)</p> <p>・プログラムを作ることができる。 ・プログラムでアルゴリズムを表現できる。 (課題提出)</p> <p>・アルゴリズムやフローチャート等の表記に、興味や関心を示している。 ・問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に、主体的に取り組んでいる。 ・プログラミング言語に興味を示し、実際に自ら活用している（活用した経験がある）。 (発問評価・授業態度)</p>	<p>・問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付けさせる。 ・プログラミング言語の実行のしくみやプログラミングの基本を理解させるとともに、プログラミングによってコンピュータを活用する方法を身に付けさせる。 ・アルゴリズムを考え、プログラミングを行う過程において、それらを評価し改善していく力を身に付けさせる。</p>		
<p>1月</p>	<p>第3章 モデル化とシミュレーション A モデル化 B シミュレーション</p>	<p>4</p>	<p>① 知識・技能 ・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解できる。 ・モデル化とシミュレーションにおける注意点を理解できる。 ・表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う方法を身につけている。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・目的に合ったモデルを考えることができる。 ・適切なプログラムでシミュレーションを行うことができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・具体的な事象のシミュレーションに関心をもち、シミュレーションを用いた問題解決を意欲的に取り組む。</p>	<p>・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解できる。 ・モデル化とシミュレーションにおける注意点を理解できる。 ・表計算ソフトウェアでシミュレーションを行う方法を身につけている。 (定期考査・課題提出)</p> <p>・目的に合ったモデルを考えることができる。 ・適切なプログラムでシミュレーションを行うことができる。 (課題提出)</p> <p>・具体的な事象のシミュレーションに関心をもち、シミュレーションを用いた問題解決を意欲的に取り組む。 (授業態度)</p>	<p>・モデル化とシミュレーションの考え方や方法を理解させるとともに、社会や自然などにおける事象をモデル化する方法や、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法について理解させる。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果をふまえて問題を適切に解決する方法を考えさせる。</p>	<p>課題・発表</p>	

1月 2月	第4編 情報通信ネットワークとデータの活用 第1章 ネットワークのしくみ A コンピュータネットワーク B 通信プロトコル C パケット通信 D 通信の信頼性 E IPアドレスとドメイン名 F WWWのしくみとURL G 電子メールの送受信のしくみ H 情報の暗号化	8	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットとはどのようなものか理解できる。</li> <li>・サーバとクライアントの役割を理解できる。</li> <li>・電子メールを送受信する仕組みを理解できる。</li> <li>・DNSの役割と動作の仕組みを理解できる。</li> <li>・暗号化方式を理解できる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模ネットワークの構成を考えられる。</li> <li>・身近に利用できる情報システムを考えることができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの仕組みやサービスに興味・関心を持ち、問題の解決に向けて、個人あるいはグループでネットワークの活用について検討しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットとはどのようなものか理解できる。</li> <li>・サーバとクライアントの役割を理解できる。</li> <li>・電子メールを送受信する仕組みを理解できる。</li> <li>・DNSの役割と動作の仕組みを理解できる。</li> <li>・暗号化方式を理解できる。</li> </ul> <p>(定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模ネットワークの構成を考えられる。</li> <li>・身近に利用できる情報システムを考えることができる。</li> </ul> <p>(定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットの仕組みやサービスに興味・関心を持ち、問題の解決に向けて、個人あるいはグループでネットワークの活用について検討しようとしている。</li> </ul> <p>(発問評価・授業態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信ネットワークの基本的な方式やプロトコルの役割について理解させる。</li> <li>・通信の信頼性や情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解させる。</li> <li>・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークの方式やプロトコルを選択したり、情報セキュリティを確保したりする方法について考えさせる。</li> </ul>	課題・発表
2月	第2章 データベース A データベース B さまざまな情報システム	4	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース管理システムの必要性を理解できる。</li> <li>・関係データベースのデータ処理方法を理解できる。</li> <li>・関係データベースの操作ができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の目的に応じて、データ分析の手法を適切に選択し、分析結果を効果的に表現する力がある。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決のためのデータ分析を、試行錯誤しながら粘り強く行うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース管理システムの必要性を理解できる。</li> <li>・関係データベースのデータ処理方法を理解できる。</li> <li>・関係データベースの操作ができる。</li> </ul> <p>(定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の目的に応じて、データ分析の手法を適切に選択し、分析結果を効果的に表現する力がある。</li> </ul> <p>(課題提出)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決のためのデータ分析を、試行錯誤しながら粘り強く行うことができる。</li> </ul> <p>(発問評価・授業態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースの概念及びデータベース管理システムの機能やデータの損失を防ぐしくみについて理解させる。</li> <li>・データベースが活用されている情報システムについて、それらがサービスを提供するしくみや特徴、社会生活に果たす役割と影響を理解させるとともに、サービスの効果的な活用について考えさせる。</li> </ul>	課題・発表
3月	第3章 データの分析 A データのさまざまな形式 B データの収集方法 C データの種類と尺度水準 D データの分析 E テキストマイニング	7	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質的データと量的データの違いを理解できる。</li> <li>・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度の違いを理解できる。</li> <li>・データを可視化できる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠損値や外れ値などのデータを処理することができる。</li> <li>・テキストマイニングの意味と活用方法を考えることができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決のためのデータ活用に関する取り組みを、データ分析の方法や分析結果の妥当性について、自己評価や相互評価で振り返り、改善しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質的データと量的データの違いを理解できる。</li> <li>・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度の違いを理解できる。</li> <li>・データを可視化できる。</li> </ul> <p>(定期考査)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・欠損値や外れ値などのデータを処理することができる。</li> <li>・テキストマイニングの意味と活用方法を考えることができる。</li> </ul> <p>(発問評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決のためのデータ活用に関する取り組みを、データ分析の方法や分析結果の妥当性について、自己評価や相互評価で振り返り、改善しようとしている。</li> </ul> <p>(授業態度)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを表現・蓄積するためのデータの形式に関する知識と、データの収集、整理、分析する方法について理解させる。</li> <li>・表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行う方法を身に付けさせる。</li> <li>・データの収集、整理、分析の方法や、その結果を表す方法を適切に選択するとともに、それらについて評価し改善する力を身に付けさせる。</li> </ul>	課題・発表
指導時間数の計		70				

教育課程上の名称		総合的な探究の時間					
学校において定める目標		探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら、適切で論理的な課題の発見と解決ができるようになるために、以下の資質・能力を育成する。 (1)地域や社会で起こっていることがらを、因果関係や背景となっている事象を含めて俯瞰的に理解するとともに、批判精神を持って自分なりの課題を見いだすことができる。 (2)課題についての情報を集め、分析して、解決に向けての見通しを持つことができる。 (3)課題に対して、他者と協力し、多様な考えを取り入れながらよりよい解決像や納得解を求めることを通して、自己の在り方生き方を考えることができる。					
講座編成及び授業担当者		講座編成：①探究スキルの習得講座については、クラスまたは学年で展開 ②生徒が設定した課題についてはクラスを超えて同じ課題ごとにグループを編成し担当者を充てることも考慮する 担当者：全職員					
設定時間			( 火曜日, 6時限目 )			単位数( 1 )	
時期月週日	探究課題	指導時数	探究の過程(時数)	学習活動(学習のねらい)	探究課題を通して育成を目指す資質・能力	主な言語活動	他教科等との関連
4～8月	今年度の探究の概要説明	3	知識の整理と分析	講義と演習	①つくばみらい市の問題を探る ②つくばみらい市の問題に主体的に関わろうとする	ワークシートに感想や意気込みを書く	持続可能な社会へのアプローチ(地公・理科・保体・家庭)
	地域フィールドワーク	12	課題の収集・テーマ設定(1)	班編成(4～7人)。つくばみらい市の抱えている様々な課題を調べ、そこからアプローチするテーマを設定	①つくばみらい市の問題を探る ②つくばみらい市の問題に主体的に関わろうとする	班内の話し合い	道徳(自然愛護、思いやり・感謝、公正・公平、国際理解と貢献・向上心)
			講義(1)	つくばみらい市の歴史や現状の課題についての講義を聴く	他者の主張を傾聴できる		
			情報の収集(1)	インターネットや新聞記事、書籍などから情報を収集	①情報を適切に集めることができる ②集めた情報を元に自分の意見を持ち、表現する	班内の話し合い	情報収集の注意点(情報科)
			情報の整理・分析・まとめ(4)	集めた情報を分類し、課題の解決についての自分の主張を形成する。班の中でお互いの意見を1つにまとめる。	①根拠のある主張をすることができる ②他者の考えを傾聴できる ③調べたことを図・表・グラフ等に資料化できる ④協力して取り組むことができる	班内の話し合い	持続可能な社会へのアプローチ(地公・理科・保体・家庭)
9～10月	探究計画書	8	探究計画書の作成(2)	夏休み中にインターンシップなどで経験したことについて意見をまとめる	①根拠のある主張をすることができる ②他者の考えを傾聴できる ③調べたことを図・表・グラフ等に資料化できる ④協力して取り組むことができる	班内の話し合い	
			探究計画書の作成、及び調査(3)	課題の解決についての自分の主張を形成するとともに、反対意見についても考慮する。模造紙片面1枚にまとめる。実際に現地で調査、体験する。	①根拠のある主張をすることができる ②他者の考えを傾聴できる ③調べたことを図・表・グラフ等に資料化できる ④協力して取り組むことができる	班内の話し合い、現地の方とのコミュニケーション	
11～3月	解決策の検討	12	講義(1)	①プレゼンの資料作成のポイント ②プレゼンの原稿作成のポイント	他者の主張を傾聴できる		
			情報の整理・分析・まとめ(3)	課題の解決についての自分の主張を形成するとともに、反対意見についても考慮する。プレゼン用に模造紙やパワーポイントで作成する。	①根拠のある主張をすることができる ②他者の考えを傾聴できる ③調べたことを図・表・グラフ等に資料化できる ④協力して取り組むことができる		
			評価(3)	①学年全体で各班10分程度で発表 ②他班の発表(視点・解決策)を自班で紹介 ③相互評価をする	①他者の考えを聴くことができる ②根拠を持って他者の意見を批評できる	ポスター発表	
指導時間数の計		35					